

ISSN 0912-036X

放監季 1・2

24 - 2

環境放射線監視季報

(Quarterly Report of Ibaraki Environmental Radiation Monitoring)

第160報 (平成24年度第1四半期)

第161報 (平成24年度第2四半期)

環境放射線監視季報

(第160報 平成24年度第1四半期・第161報 平成24年度第2四半期)

茨城県東海地区環境放射線監視委員会

茨城県
東海地区 環境放射線監視委員会

この印刷物は再生紙を使用しています

ま え が き

本県の東海・大洗地区には、原子力発電所をはじめ、使用済核燃料再処理施設、核燃料加工施設、試験研究用原子炉及び核燃料使用施設など各種多様な施設が多数立地しています。

このため、県は東海・大洗地区における原子力施設周辺の環境放射線の監視を民主的に行うため、第三者監視機構として「茨城県東海地区環境放射線監視委員会」を設置し、監視計画を定めています。この計画では、監視の目的を「原子力施設周辺の環境保全を図るとともに、公衆の安全と健康を確保する」ために、

- ・ 周辺公衆の線量を推定評価する
- ・ 環境における放射性物質などの長期的変動を把握する
- ・ 原子力施設からの放射性物質の予期しない放出などの短期的変動を把握する

として、国、県、原子力事業所が分担して実施する監視・測定の項目・頻度や評価方法などを定めています。

関係機関は、この計画に基づき監視・測定を行い、四半期毎に監視委員会に報告を行っています。この報告について、監視委員会の下部組織である評価部会が詳細に検討を行い、その結果を踏まえ、監視委員会が評価を行い、監視季報としてとりまとめております。

季報の内容は次表のとおりです。

季 報	評 価 項 目
第1 四半期	短期的変動調査結果（4～6月）
第2 四半期	短期的変動調査結果（7～9月）、長期的変動調査結果（4～9月）
第3 四半期	短期的変動調査結果（10～12月）
第4 四半期	短期的変動調査結果（1～3月）、長期的変動調査結果（10～3月）、 年間線量の推定結果（4～3月）

本監視季報は、平成24年度第1 四半期及び平成24年度第2 四半期における評価項目について、平成25年2月13日に本委員会を開催して評価した結果です。

なお、福島第一原子力発電所事故による茨城県内全域における農畜水産物等への放射性物質の影響については、別に特別調査として報告を受けています。

茨城県東海地区環境放射線監視委員会

委員長（茨城県副知事）山 口 やちゑ



事務局：茨城県生活環境部防災・危機管理局原子力安全対策課
〒310-8555 水戸市笠原町978番6
電話 029-301-2916
FAX 029-301-6002

目 次

〔第160報 平成24年度第1四半期環境放射線監視結果〕

I	監視結果の評価	1
II	監視結果の概要	3
II-1	短期的変動調査結果	3
参考1	原子力機構再処理施設排水環境影響詳細調査結果	9
III	測定結果	10
III-1	短期的変動調査結果	10
1	環境における測定結果	10
1-1	空間γ線量率測定結果	10
1-1-1	モニタリングステーション	10
1-1-2	モニタリングポスト	14
1-2	大気中放射能測定結果	19
1-2-1	大気塵埃中の放射性核種分析結果	19
1-2-2	降下塵中の放射性核種分析結果	22
1-3	農畜産物中の放射能測定結果	23
1-3-1	牛乳（原乳）中の放射性核種分析結果（ ¹³¹ I）	23
1-4	海洋における放射能測定結果	23
1-4-1	海水中の放射性核種分析結果（ ³ H）	23
2	敷地内における測定結果	25
2-1	空間γ線量率測定結果	25
2-1-1	モニタリングステーション	25
2-1-2	モニタリングポスト	25
2-2	大気中放射能測定結果	26
2-2-1	大気塵埃中の放射性核種分析結果	26
3	放出源における測定結果	27
3-1	排 気	27
3-1-1	排気中の放射性核種分析結果	27
3-1-2	排気中の全β放射能測定結果	39
3-1-3	排気中の全α放射能測定結果	42
3-2	排 水	43

3-2-1	排水中の放射性核種分析結果	43
3-2-2	排水中の全 β 放射能測定結果	57
3-2-3	再処理施設排水中の放射性核種分析結果	60
3-2-4	再処理施設排水中の全 β 放射能測定結果	65
3-2-5	排水中の全 γ 放射能連続測定結果	66
参考1	原子力機構再処理施設排水環境影響詳細調査結果	68
参考2	主要施設運転状況	71

〔第161報 平成24年度第2四半期環境放射線監視結果〕

I	監視結果の評価	73
II	監視結果の概要	75
II-1	短期的変動調査結果	75
II-2	長期的変動調査結果	81
参考1	原子力機構再処理施設排水環境影響詳細調査結果	85
III	測定結果	86
III-1	短期的変動調査結果	86
1	環境における測定結果	86
1-1	空間 γ 線量率測定結果	86
1-1-1	モニタリングステーション	86
1-1-2	モニタリングポスト	90
1-2	大気中放射能測定結果	95
1-2-1	大気塵埃中の放射性核種分析結果	95
1-2-2	降下塵中の放射性核種分析結果	98
1-3	農畜産物中の放射能測定結果	99
1-3-1	牛乳（原乳）中の放射性核種分析結果（ ^{131}I ）	99
1-4	海洋における放射能測定結果	99
1-4-1	海水中の放射性核種分析結果（ ^3H ）	99
2	敷地内における測定結果	100
2-1	空間 γ 線量率測定結果	100
2-1-1	モニタリングステーション	100
2-1-2	モニタリングポスト	100

2-2	大気中放射能測定結果（敷地内）	101
2-2-1	大気塵埃中の放射性核種分析結果	101
3	放出源における測定結果	102
3-1	排気	102
3-1-1	排気中の放射性核種分析結果	102
3-1-2	排気中の全 β 放射能測定結果	114
3-1-3	排気中の全 α 放射能測定結果	117
3-2	排水	118
3-2-1	排水中の放射性核種分析結果	118
3-2-2	排水中の全 β 放射能測定結果	131
3-2-3	再処理施設排水中の放射性核種分析結果	134
3-2-4	再処理施設排水中の全 β 放射能測定結果	139
3-2-5	排水中の全 γ 放射能連続測定結果	140
Ⅲ-2	長期的変動調査結果	142
1	環境における測定結果	142
1-1	空間 γ 線量測定結果	142
1-1-1	サーベイ結果	142
1-1-2	積算線量測定結果	147
1-2	漁網表面吸収線量率の測定結果	156
1-3	大気中放射能測定結果	156
1-3-1	降下塵中の放射性核種分析結果	156
1-4	陸土中の放射能測定結果	159
1-4-1	土壌中の放射性核種分析結果	159
1-4-2	河底土中の放射性核種分析結果	159
1-4-3	海岸砂中の放射性核種分析結果	159
1-5	陸水中の放射能測定結果	160
1-5-1	河川水及び湖沼水中の放射性核種分析結果	160
1-5-2	飲料水中の放射性核種分析結果	160
1-6	海洋における放射能測定結果	161
1-6-1	海水中の放射性核種分析結果	161
1-6-2	海底土中の放射性核種分析結果	162
1-7	排水口近辺土砂中の放射性核種分析結果	165
2	敷地内における測定結果	166
2-1	空間 γ 線量測定結果	166
2-1-1	積算線量測定結果	166

参考 1	原子力機構再処理施設排水環境影響詳細調査結果	167
参考 2	主要施設運転状況	170
別表 1	環境試料の核種濃度検出限界	172
別表 2	排水中の全 β ・全 γ 検出限界	173
別表 3	排気の不検出分放出量算出方法	174
別表 4	排水の不検出分放出量算出方法	177
	〈用語・記号等の解説〉	179
	〈本報告書の解説〉	182

本報告書をご覧になる参考として

179ページに、〈用語・記号等の解説〉

182ページに、〈本報告書の解説〉

を掲載してあります。

第160報（平成24年度第1四半期環境放射線監視結果）

I 監視結果の評価

茨城県環境放射線監視計画に基づく監視結果は下記のとおりである。

記

1 短期的変動調査結果（平成24年4月～平成24年6月）

福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、一部の空間ガンマ線量率が平常の変動幅を上回った。また、同様に、大気塵埃及び降下塵から¹³⁷Csなどの放射性核種が検出された。

さらに、原子力施設の排水からも、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による放射性核種が検出された。

なお、これらについては、県内原子力施設からの影響ではない。

Ⅱ 監視結果の概要

Ⅱ－１ 短期的変動調査結果

評価対象期間：平成24年4月から平成24年6月

短期的変動調査は、原子力施設から平常稼働時に放出される放射性物質の他に、事故等により環境へ放出される放射線・放射性物質の有無や環境への影響の有無を早期に把握するために行っている。

なお、空間ガンマ線量率、大気塵埃、降下塵などの測定結果において、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響が見られた。

1 環境における測定結果

1－1 空間ガンマ線量率測定結果（10～18ページ）

空間の放射線（ガンマ線）の測定は、76地点のモニタリングステーション、モニタリングポストにおいて行っている。評価の対象となっている月平均値は、54nGy/時～460nGy/時の間にあり、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、76地点中32地点において平常の変動幅（上限値：100nGy/時）を上回った。

なお、1時間値の最大値（原子力機構原科研測定周辺の監視区域境界（MP-19）：4月1日）は470nGy/時であった。

一般環境（事業所周辺監視区域境界及び敷地内を除く）

（単位：nGy/時）

地区名	月平均値	1時間値の最大値	事故前1時間値の最大値（平成22年度）	事故後1時間値の最大値
東海地区 <21> （東海村，那珂市，常陸大宮市）	54～120	130（亀下：4月3日， 5月3日 豊岡：4月3日，5月18日）	80（亀下：11月）	3,600（豊岡：平成23年3月15日）
日立地区 <6> （日立市，常陸太田市）	54～130	140（久慈：4月14日， 5月30日）	73（磯部：11月）	3,900（久慈：平成23年3月15日）
ひたちなか地区 <8> （ひたちなか市）	69～130	140（常陸那珂：4月3日， 5月3日）	78（馬渡：7月）	3,700（堀口：平成23年3月15日）
大洗地区 <15> （大洗町，銚田市，茨城町，水戸市（大場，吉沢））	57～140	150（成田（P-4）：4月11日）	71（荒地：12月）	3,100（広浦：平成23年3月15日）
比較対照地区 <1> （水戸市石川）	71～75	92（5月3日）	72（7月）	1,500（平成23年3月15日）

注） < >内は地点数

事業所周辺監視区域境界

(単位：nGy/時)

地区名	月平均値	1時間値の最大値	事故前1時間値の最大値(平成22年度)	事故後1時間値の最大値
東海地区 <14> (原子力機構原科研, 原子力機構サイクル工研, 原電)	92~460 ^{注2)}	470(原科研MP-19: 4月1日)	77(サイクル工研MP-8: 7月)	5,200(原科研MP-19: 平成23年3月15日)
大洗地区 <11> (原子力機構大洗)	86~320 ^{注2)}	330(P-11: 4月11日)	69(P-6: 7月)	3,100(P-11, P-12: 平成23年3月21日)

注1) < >内は地点数

注2) 福島第一原子力発電所事故の影響により, 松林等が存在している場所では, 空間ガンマ線量率が高くなる。

1-2 大気中放射能測定結果

1-2-1 大気塵埃中の放射性核種分析結果(19~21ページ)

東海村村松など15地点(東海村6地点, ひたちなか市3地点, 日立市1地点, 鉾田市1地点, 茨城町1地点, 大洗町2地点, 水戸市1地点)において測定した結果, 福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により, ^{134}Cs , ^{137}Cs が全地点で検出された。

(単位: mBq/m³)

検出核種	分析値	事故前の最高値 ^{注)}	事故後の最高値
^{134}Cs	<0.1 ~ 8.0	<0.1	2,800(ひたちなか市長砂: 平成23年3月)
^{137}Cs	<0.1 ~ 12	<0.1	3,800(東海村村松: 平成23年3月)

注) 平成元年以降の最高値。なお, JCO臨界事故時のデータを除く。(以下, 同様)

1-2-2 降下塵中の放射性核種分析結果(22ページ)

水戸市愛宕町など3地点において測定した結果, 福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により, ^{134}Cs , ^{137}Cs が全地点で検出された。

(単位: Bq/m³)

検出核種	分析値	事故前の最高値	事故後の最高値
^{134}Cs	6.6 ~ 29	<0.4	25,000(原子力機構大洗構内: 平成23年3月)
^{137}Cs	9.1 ~ 48	<0.4	27,000(原子力機構大洗構内: 平成23年3月)

1-3 農畜産物中の放射能測定結果

1-3-1 牛乳(原乳)中の放射性核種分析結果(^{131}I)(23ページ)

茨城県央クーラーステーションなど2地点における測定結果は, 全て不検出であった。

1-4 海洋における放射能測定結果

1-4-1 海水中の放射性核種分析結果(^3H)(23ページ)

久慈沖(A)など12海域における測定結果は, 全て不検出であった。

2 主な原子力施設の敷地内における測定結果

2-1 空間ガンマ線量率測定結果(25~26ページ)

評価対象としている月平均値は、東海地区（原子力機構サイクル工研）が85nGy/時から89nGy/時、大洗地区（原子力機構大洗）が110nGy/時から130nGy/時であり、大洗地区は、平常の変動幅（上限値：100nGy/時）を上回った。

なお、1時間値の最大値（原子力機構大洗測定のP-8：4月）は、140nGy/時であった。

（単位：nGy/時）

地区名	月平均値	1時間値の最大値	事故前1時間値の最大値（平成22年度）	事故後1時間値の最大値
東海地区 <1> （原子力機構サイクル工研）	85～89	100（5月29日）	52（7月）	4,000（平成23年3月15日）
大洗地区 <1> （原子力機構大洗）	110～130	140（4月11日、14日、17日）	63（1月）	2,900（平成23年3月15日）

注） < >内は地点数

2-2 大気中放射能測定結果

2-2-1 大気塵埃中の放射性核種分析結果（26ページ）

原子力機構原科研など3地点において測定した結果、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、原子力機構サイクル工研及び原子力機構大洗から、¹³⁴Cs、¹³⁷Csが2地点で検出された。

（単位：mBq/m³）

検出核種	分析値	事故前の最高値	事故後の最高値
¹³⁴ Cs	<0.1 ～ 0.67	<0.1	2,300（原子力機構大洗；平成23年3月）
¹³⁷ Cs	<0.1 ～ 0.97	<0.1	2,400（原子力機構大洗；平成23年3月）

3 放出源における測定結果

3-1 排気中の放射能測定結果

排気中に含まれる放射性物質については、原子力事業者が放射性核種分析、全ベータ放射能測定、全アルファ放射能測定を行っている。

主要放出核種の放射性核種分析結果は、過去のレベル又はそれ以下であった。全ベータ放射能及び全アルファ放射能については不検出であった。

3-1-1 放射性核種分析結果（主要放出核種）（27～37ページ）

測定対象の42排気筒のうち、今期に放出のなかった6排気筒を除いた原子力機構原科研JRR-3、原子力機構サイクル工研再処理施設の主排気筒など36排気筒において希ガス（⁴¹Ar、⁸⁵Krなど）、³Hなど各施設の放出核種を測定したところ、下記の6排気筒で検出された。

(検出状況)

(単位：Bq/cm³)

測定者	施設名	核種名	3ヶ月平均濃度	3ヶ月平均濃度 過去最大値	参考管理目標値
原子力機構 原 科 研	燃料試験施設	希ガス	7.5×10^{-3}	1.4×10^{-2}	7.8×10^{-2}
原子力機構 サイクル工研	再処理施設・主排気筒	³ H	1.5×10^{-4}	2.6×10^{-3}	2.4×10^{-1}
三菱原燃	転換工場	U	1.0×10^{-10}	2.7×10^{-10}	1.5×10^{-9}
積 水 メ ディカル	第4棟排気筒	³ H	2.1×10^{-5}	2.2×10^{-5}	7.4×10^{-4}
		¹⁴ C	8.5×10^{-6}	2.3×10^{-5}	1.6×10^{-4}
N D C	化学分析棟 (R棟)	¹³¹ I	4.2×10^{-9}	2.1×10^{-8}	7.4×10^{-8}
日本核燃	照射後試験施設	希ガス	9.8×10^{-5}	5.0×10^{-3}	5.2×10^{-3}

注) 検出された核種のみ記載

3-1-1' 放射性核種分析結果 (その他検出された核種) (38ページ)

原電東海発電所など4排気筒で³H又は⁶⁰Coが検出されたが、過去と同じレベル又はそれ以下であった。

3-1-2, 3-1-2' 全ベータ放射能測定結果 (39~41ページ)

NDC材料試験棟及び原子力機構原科研JRR-3など22排気筒において測定した結果、いずれも不検出であった。

3-1-3 全アルファ放射能測定結果 (42ページ)

核管センター開発棟など4排気筒における測定結果は、いずれも不検出であった。

3-2 排水中の放射能測定結果

排水中に含まれる放射性物質の測定は、放射性核種分析、全ベータ放射能測定、再処理施設排水中の放射性核種分析、再処理施設排水中の全ベータ放射能測定、排水中の全ガンマ放射能測定によって行っている。

福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、¹³⁴Cs、¹³⁷Cs及び全ガンマ放射能が検出された。

3-2-1 放射性核種分析結果 (主要放出核種) (43~48ページ)

原子力事業者は、今期に放出のなかった三菱マテリアル及び住友鉱山を除く原子力機構原科研第1排水溝、原子力機構サイクル工研第2排水溝など15排水溝において⁶⁰Coなどの核種を測定している。下記の6排水溝で検出されたが、全て法令値 (56ページ) 以下であった。

なお、原子力機構原科研第2排水溝において検出された¹³⁷Csは福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含む。

(検出状況)

(単位：Bq/cm³)

測定者	排水溝名	核種名	3ヶ月平均濃度	法令値	3ヶ月平均濃度／法令値
原子力機構 原科研	第2排水溝	³ H	1.1×10 ⁻¹	6×10 ⁻¹ *1)	1/550
		⁷ Be	4.3×10 ⁻⁵	3×10 ⁻¹	1/700,000
		⁶⁰ Co	3.0×10 ⁻⁵	2×10 ⁻¹	1/6,700
		¹³⁷ Cs *2)	3.4×10 ⁻⁵	9×10 ⁻²	1/2,600
原子力機構 サイクル工研	第2排水溝	Pu(α)	5.1×10 ⁻⁵	4×10 ⁻³	1/78
原子力機構 大洗	北地区	³ H	2.8×10 ⁻²	6×10 ⁻¹ *1)	1/2,100
原電	東海第二発電所	³ H	5.2×10 ⁻²	6×10 ⁻¹ *1)	1/1,200
N D C	排水貯槽	¹³⁷ Cs	3.1×10 ⁻⁴	9×10 ⁻²	1/290
		⁶⁰ Co	5.7×10 ⁻⁴	2×10 ⁻¹	1/350
積水メディカル	調整槽	³ H	2.1	2×10 ⁻¹ *3)	1/9.5
		¹⁴ C	1.2	2	1/1.7

注) 検出された核種のみ記載。

* 1) 水としての法令値

* 2) 福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により検出された核種。

* 3) 有機物(メタンを除く)としての法令値

3-2-1' 放射性核種分析結果(主要放出核種)(49~53ページ)

県は原子力機構原科研第1排水溝など12排水溝で測定している。原子力機構原科研第2排水溝など10排水溝で³H、¹⁴C、⁶⁰Co、¹³⁷Cs、UまたはPu(α)の6核種が検出されたが、いずれも法令値以下であった。

また、水戸原子力事務所は原子力機構原科研第1排水溝など7排水溝で測定している。原子力機構原科研第2排水溝など4排水溝で³H、¹⁴Cまたは¹³⁷Csの3核種が検出されたが、いずれも法令値以下であった。

なお、原子力機構大洗北地区など3排水溝で検出された¹³⁷Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響である。

3-2-1'' 放射性核種分析結果(その他検出された核種)(54~55ページ)

原子力事業者が測定した上記15排水溝において、主要放出核種以外の核種として原子力機構原科研第1排水溝など6排水溝で、³H、²²Na、³⁶Cl、⁵⁴Mn、⁹⁰Sr、¹³⁴Cs、¹³⁷Cs及び²³²Thの8核種が検出されたが、いずれも法令値以下であった。

なお、サイクル工研第1排水溝において検出された¹³⁴Cs、¹³⁷Csは福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響である。

3-2-2、3-2-2' 全ベータ放射能測定結果(57~59ページ)

原子力事業者、県などは今期に放出のなかった住友鉱山を除く原子力機構原科研第1排水溝及び原子力機構サイクル工研第1排水溝など12排水溝において測定している。原子力機構原科研第1排水溝等の11排水溝で検出されたが、監視委員会が定めた判断基準を全て下回っていた。

3-2-3 再処理施設排水中の放射性核種分析結果(60~63ページ)

原子力機構サイクル工研が³Hなど14核種について分析した結果、³H及びPu(α)が検出されたが、

法令値（64ページ）以下であった。

また、県が³Hなど9核種について測定した結果、³H、¹³⁷Cs及びPu(α)の3核種が検出されたが、いずれも法令値以下であった。

(検出状況)

(単位：MBq)

測定者	排水溝名	核種名	3ヶ月放出量	法令値	3ヶ月放出量 ／法令値
原子力機構 サイクル工研	再処理施設	³ H	1.9×10^5	4.7×10^8	1/2,500
		Pu(α)	4.9×10^{-2}	5.9×10^2	1/12,000

備考 県の測定では、³H、¹³⁷Cs及びPu(α)を検出。3ヶ月間の最大濃度はそれぞれ 3.2×10 、 1.1×10^{-4} 、 4.0×10^{-5} Bq/cm³であり、参考として法令（保安規定）に定める最大放出濃度（それぞれ 2.5×10^4 、 7.8×10^{-1} 、 3.0×10^{-2} Bq/cm³）と比較すると、それぞれ1/780、1/7,000、1/750 以下であった。

3-2-4 再処理施設排水中の全ベータ放射能測定結果（65ページ）

原子力機構サイクル工研，県測定とも，不検出であった。

3-2-5 排水中の全ガンマ放射能連続測定結果（66ページ）

原子力機構原科研第2排水溝などの4排水溝で測定したところ，福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により，3排水溝で検出された。

参考 1

原子力機構再処理施設排水環境影響詳細調査結果 (68～70ページ)

本調査は、原子力機構サイクル工研が、再処理施設の低レベル放射性廃液の海洋放出に伴う放出口周辺海域における放射能水準の変動を詳細に把握するために毎月実施しているものであり、放出口を中心とした30地点で海水を採取し、全地点で全ベータ放射能及び³H濃度、7地点で¹³⁷Cs濃度の測定を行っている。

調査の結果、放射性物質濃度の平均値は、全ベータ放射能について0.041Bq/L、³Hについて検出限界値未満、¹³⁷Csについて0.064Bq/Lであった。検出された全ベータ放射能、¹³⁷Csは福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含む。

(測定結果)

区 分	地点数	分 析 値
海水の全ベータ放射能	30	0.041Bq/L
海水中の ³ H分析	30	不検出
海水中の ¹³⁷ Cs分析	7	0.064Bq/L

Ⅲ 測 定 結 果

Ⅲ－１ 短期的変動調査結果

１ 環境における測定結果

１－１ 空間γ線量率測定結果

１－１－１ モニタリングステーション

測 定 者	評 価 対 象	平常の変動幅（上限）
県 施 設 者	月 平 均 値	100nGy/時

測 定 者	測 定 地 点	測 定 値 (nGy/時)				
		種 別	4 月	5 月	6 月	平 均
県	東 海 村 石 神	最 大	100	110	94	
		平 均	93	90	87	90
	〃 豊 岡	最 大	99	100	91	
		平 均	89	86	84	86
	〃 舟 石 川	最 大	91	100	120 ^(注2)	
		平 均	81	79	81	80
	〃 押 延	最 大	84	88	77	
		平 均	72	70	68	70
	〃 村 松	最 大	100	110	92	
		平 均	90	88	85	88
	〃 三 菱 原 燃	最 大	75	83	70	
		平 均	64	64	61	63
	〃 原 燃 工	最 大	120	120	110	
		平 均	110	110	97	110
	那 珂 市 横 堀	最 大	79	83	70	
		平 均	67	66	64	66
	〃 門 部	最 大	81	81	69	
		平 均	67	64	62	64
	〃 菅 谷	最 大	110	110	97	
		平 均	95	93	92	93
〃 本 米 崎	最 大	80	84	76		
	平 均	68	67	68	68	
〃 額 田	最 大	78	86	74		
	平 均	69	68	64	67	
〃 鴻 巣	最 大	79	84	68		
	平 均	63	62	58	61	

測定者	測定地点	測定値 (nGy/時)				
		種別	4月	5月	6月	平均
県	那珂市後台	最大	84	88	74	
		平均	71	69	64	68
	〃 瓜連	最大	84	87	74	
		平均	69	68	64	67
	ひたちなか市馬渡	最大	110	110	96	
		平均	94	92	88	91
	〃 常陸那珂	最大	140 (注3)	140 (注3)	130	
		平均	130	130	120	130
	〃 阿字ヶ浦	最大	99	100	94	
		平均	91	89	87	89
	〃 堀口	最大	110	110	100	
		平均	100	97	94	97
	〃 佐和	最大	99	100	92	
		平均	87	85	82	85
	〃 柳沢	最大	87	99	87	
		平均	78	78	76	77
	日立市久慈	最大	140 (注4)	140 (注4)	130	
		平均	130	130	120	130
	〃 大沼	最大	120	120	110	
		平均	110	110	100	110
	常陸太田市磯部	最大	82	86	73	
		平均	68	67	65	67
	〃 真弓	最大	71	78	69	
		平均	61	60	61	61
〃 久米	最大	70	75	64		
	平均	57	56	54	56	
常陸大宮市根本	最大	80	85	64		
	平均	62	59	54	58	
大洗町大貫	最大	100	110	93		
	平均	93	89	85	89	
〃 磯浜	最大	88	90	81		
	平均	81	77	72	77	

測定者	測定地点	測定値 (nGy/時)				
		種別	4月	5月	6月	平均
県	銚田市造谷	最大	130	130	130	
		平均	120	120	110	120
	〃 荒地	最大	110	110	100	
		平均	97	94	91	94
	〃 田崎	最大	97	97	93	
		平均	87	84	81	84
	〃 縦山	最大	120	120	110	
		平均	110	110	93	100
	〃 上富田	最大	96	99	92	
		平均	86	85	78	83
	〃 徳宿	最大	92	92	88	
		平均	83	81	77	80
	茨城町広浦	最大	120	120	110	
		平均	100	100	98	99
	〃 海老沢	最大	94	97	89	
		平均	84	82	79	82
	〃 谷田部	最大	81	88	78	
		平均	72	71	69	71
水戸市吉沢	最大	74	80	67		
	平均	63	61	57	60	
〃 大場	最大	87	92	81		
	平均	76	75	73	75	
〃 石川	最大	86	92 (注5)	79		
	平均	75	74	71	73	
原子力機構原科研	東海村須和間	最大	110	110	97	
		平均	94	92	89	92
〃 亀下	最大	130 (注6)	130 (注6)	120		
	平均	120	110	110	110	
原子力機構サイクル工研	〃 舟石川	最大	81	86	74	
		平均	71	69	67	69
	ひたちなか市長砂	最大	100	110	96	
		平均	91	90	87	89
	〃 高野	最大	83	90	76	
		平均	72	71	69	71

測定者	測定地点	測定値 (nGy/時)				
		種別	4月	5月	6月	平均
原子力機構大洗	周辺監視区域境界 (P-2)	最大	170	160	150	
		平均	160	150	140	150
	〃 (P-6)	最大	100	100	95	
		平均	92	89	86	89
原電	東海村船場	最大	75	80	69	
		平均	65	64	62	64
電	日立市留	最大	92	95	85	
		平均	83	80	78	80

- (注1) 福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含む。
- (注2) 近傍に草刈り・枝打ち後のゴミ袋が集積されていた影響である。
- (注3) ひたちなか地区の一般環境における1時間値の最大値140nGy/時(県測定：ひたちなか市常陸那珂)が観測されたのは、4月3日19時、5月3日13時であり、降雨の影響である。
- (注4) 日立地区の一般環境における1時間値の最大値140nGy/時(県測定：日立市久慈)が観測されたのは、4月14日7時、5月30日1時であり、降雨の影響である。
- (注5) 比較対照地点における1時間値の最大値92nGy/時(県測定：水戸市石川)が観測されたのは、5月3日13時であり、降雨の影響である。
- (注6) 東海地区の一般環境における1時間値の最大値130nGy/時(原子力機構原科研測定：東海村亀下)が観測されたのは、4月3日23時、5月3日13時であり、降雨の影響である。

1-1-2 モニタリングポスト

測定者	評価対象	平常の変動幅(上限)
施設者	月平均値	100nGy/時

測定者	測定地点	測定値 (nGy/時)				
		種別	4月	5月	6月	平均
原子力機構原科研	周辺監視区域境界 (MP-11)	最大	190	190	180	
		平均	180	170	170	170
	〃 (MP-16)	最大	210	210	190	
		平均	200	190	180	190
	〃 (MP-17)	最大	170	170	150	
		平均	160	150	140	150
	〃 (MP-18)	最大	370	360	340	
		平均	360	340	330	340
	〃 (MP-19)	最大	470 ^(注2)	450	420	
		平均	460	430	410	430
原子力機構サイクル工研	周辺監視区域境界 (MP-1)	最大	170	180	160	
		平均	170	160	150	160
	〃 (MP-6)	最大	150	160	140	
		平均	140	140	140	140
	〃 (ST-5)	最大	140	150	130	
		平均	130	130	120	130
	〃 (MP-7)	最大	210	200	190	
		平均	200	190	190	190
	〃 (MP-8)	最大	190	190	180	
		平均	180	170	170	170
原子力機構大洗	周辺監視区域境界 (P-1)	最大	150	150	140	
		平均	140	130	130	130
	大洗町成田 (P-3)	最大	110	110	100	
		平均	100	97	94	97
	〃 (P-4)	最大	150 ^(注3)	140	130	
		平均	140	130	130	130
	周辺監視区域境界 (P-5)	最大	130	130	120	
		平均	130	120	110	120
	〃 (P-7)	最大	200	190	180	
		平均	190	180	170	180

測定者	測定地点	測定値 (nGy/時)				
		種別	4月	5月	6月	平均
原子力機構大洗	周辺監視区域境界 (P-11)	最大	330 ^(注4)	310	300	
		平均	320	300	290	300
	〃 (P-12)	最大	280	270	260	
		平均	270	260	250	260
	〃 (P-13)	最大	170	160	160	
		平均	160	150	150	150
	〃 (P-14)	最大	170	170	160	
		平均	160	160	150	160
	〃 (P-15)	最大	170	170	160	
		平均	160	160	150	160
	〃 (P-16)	最大	140	130	130	
		平均	130	120	120	120
原電	周辺監視区域境界 (A)	最大	110	110	97	
		平均	98	95	92	95
	〃 (B)	最大	150	150	140	
		平均	140	130	130	130
	〃 (C)	最大	140	140	130	
		平均	130	130	130	130
	〃 (D)	最大	190	190	180	
		平均	180	170	170	170
東海村豊岡	最大	130 ^(注5)	130 ^(注5)	120		
	平均	120	120	110	120	

(注1) 福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含む。

(注2) 東海地区の事業所周辺監視区域境界における1時間値の最大値470nGy/時(原子力機構原科研測定:MP-19)が観測されたのは、4月1日21時であり、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響によるものである。

(注3) 大洗地区の一般環境における1時間値の最大値150nGy/時(原子力機構大洗測定:大洗町成田P-4)が観測されたのは、4月11日15時であり、降雨の影響である。

(注4) 大洗地区の事業所周辺監視区域境界における1時間値の最大値330nGy/時(原子力機構大洗測定:P-11)が観測されたのは、4月11日13時であり、降雨の影響である。

(注5) 東海地区の一般環境における1時間値の最大値130nGy/時(原電測定:東海村豊岡)が観測されたのは、4月3日23時、5月18日11時であり、降雨の影響である。

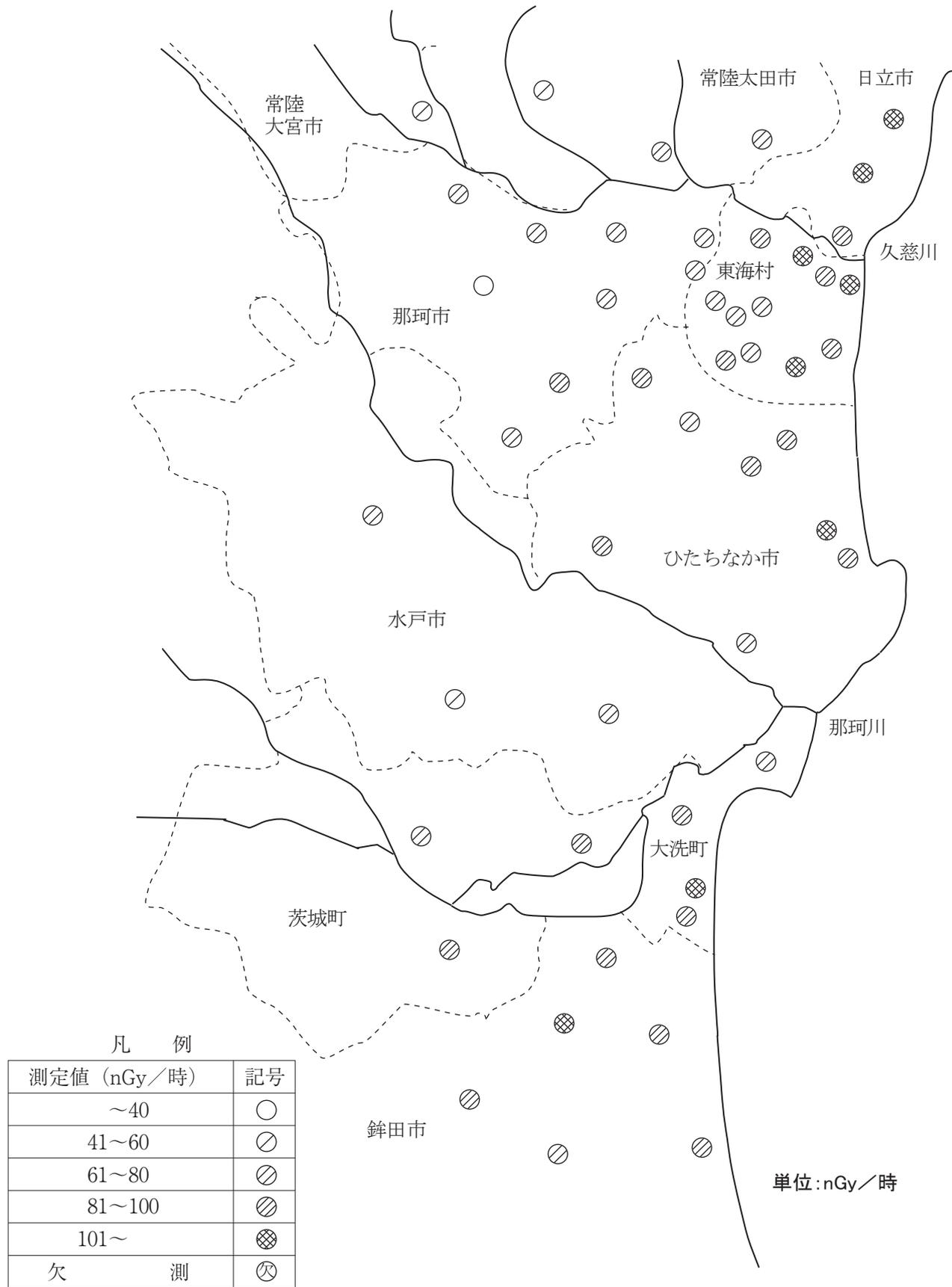


図 一般環境における空間 γ 線量率測定結果（3ヶ月平均値）
 （事業所周辺監視区域境界を除く）

平成24年度第1四半期におけるモニタリングステーション, モニタリングポストにおいて測定した空間線量率の経月変化

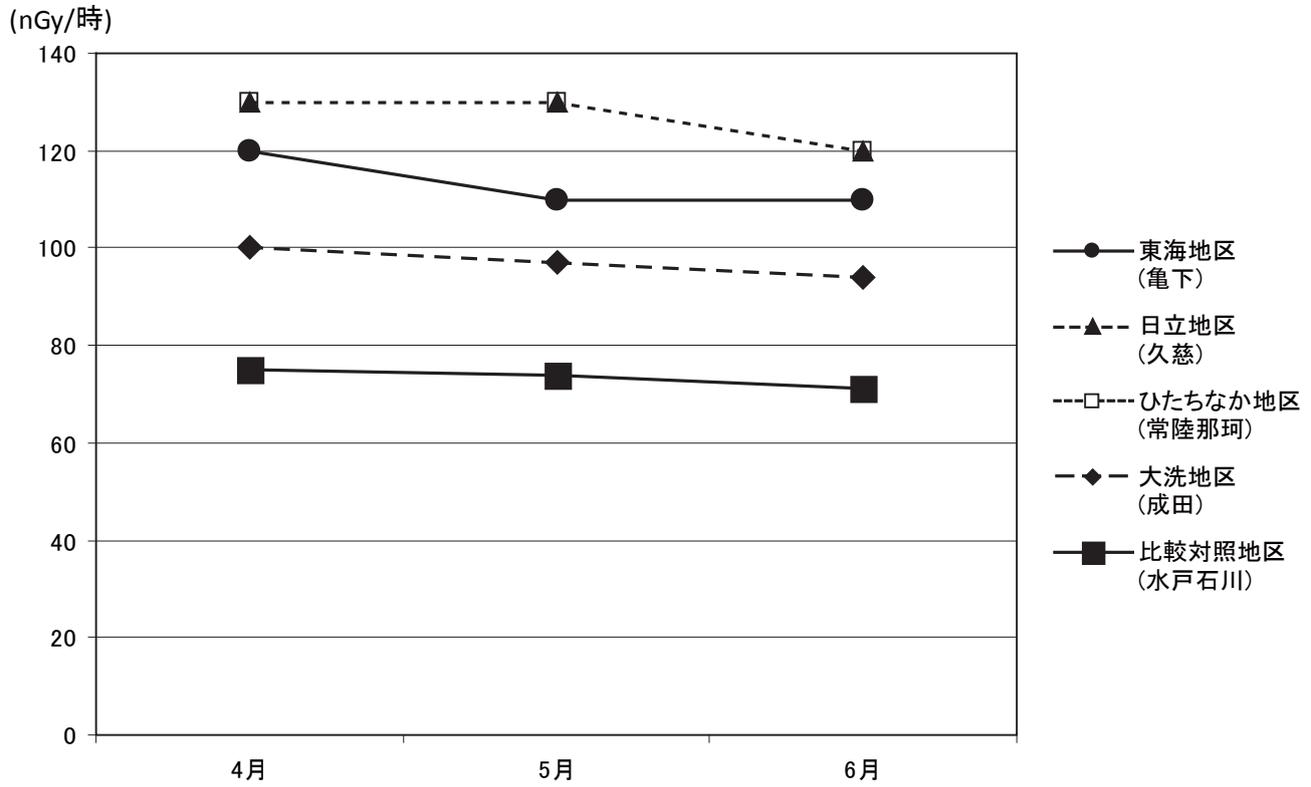


図1 空間ガンマ線量率測定結果の一般環境における月平均値の経月変化

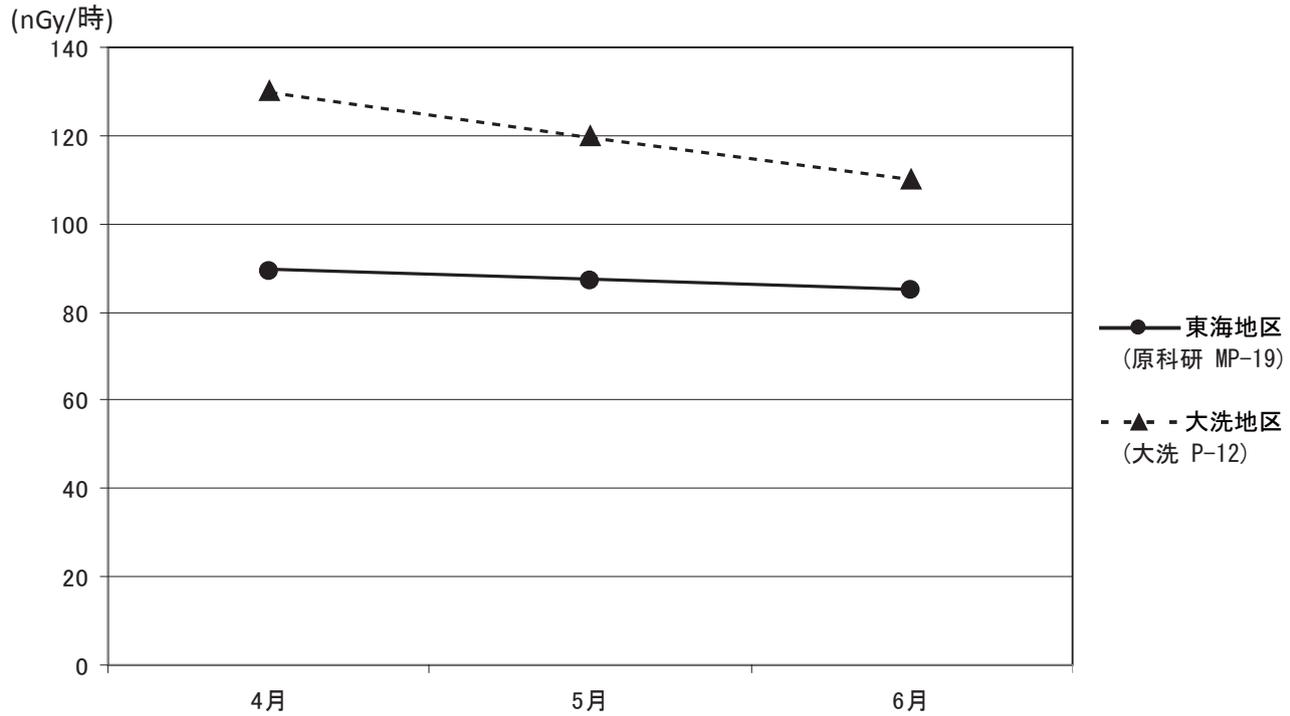
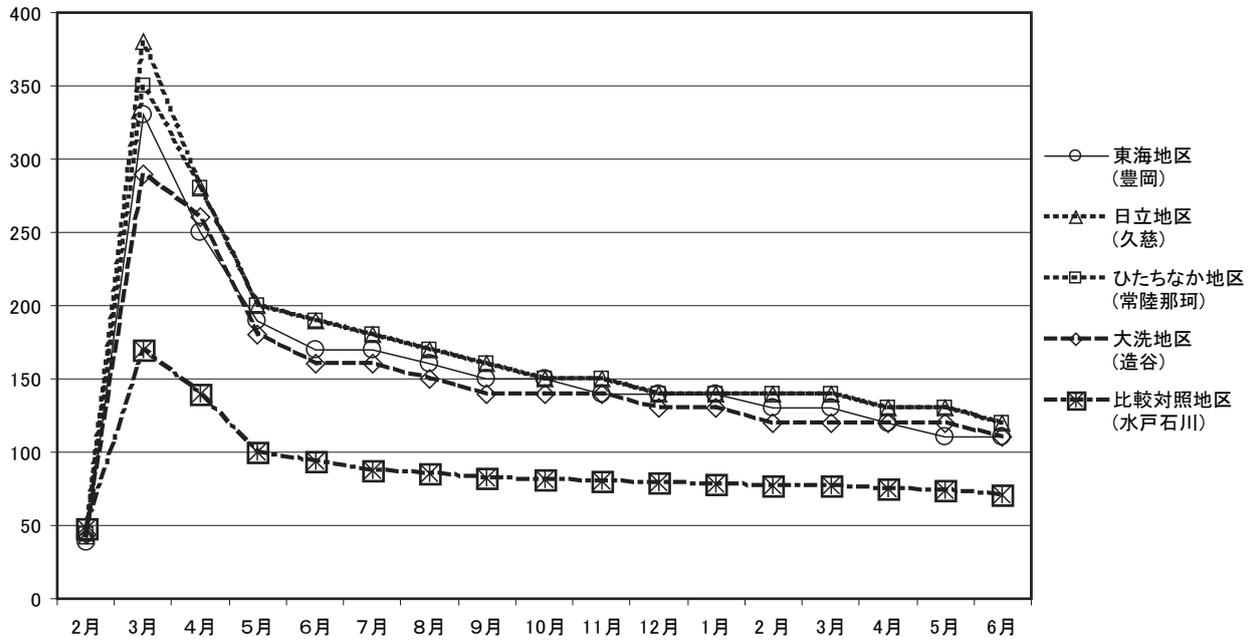
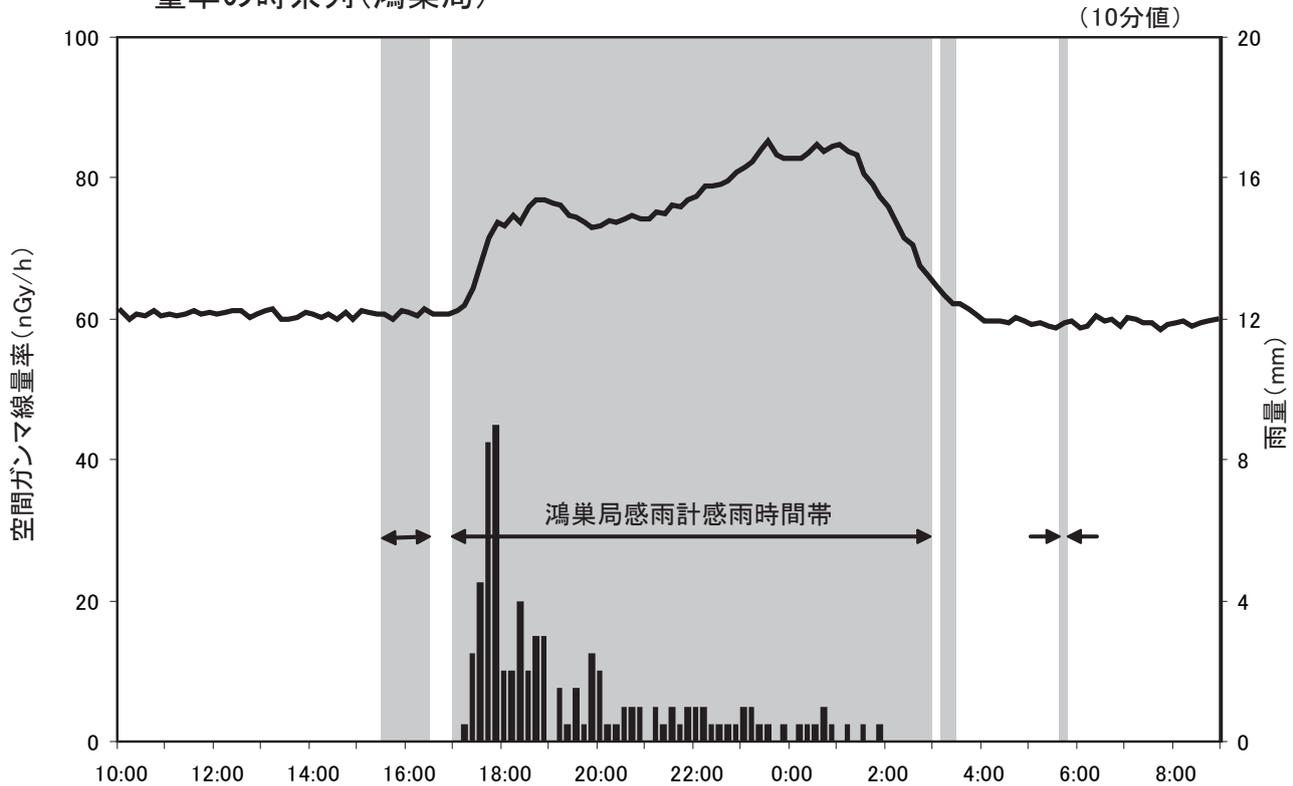


図2 空間ガンマ線量率測定結果の事業所周辺監視区域境界の経月変化

空間ガンマ線量率測定結果の一般環境における月平均値の経月変化
 (福島第一原子力発電所事故後(平成23年2月から平成24年6月まで))



今期の測定の中で降雨によって最大値が観測された局における空間線量率の時系列(鴻巣局)
 (10分値)



2012/5/29

2011/5/30

注)

当該グラフにおける空間ガンマ線量率の上昇の原因は降雨によるもの。
 降雨により空間線量率が上昇するのは、自然放射性核種(ラドンとトリウムから生まれた核種)が雨により地表に落下するためであり、それらの核種の半減期は短いことから、雨が止んでから短時間で線量率は降雨前の水準に戻る。

1-2 大気中放射能測定結果

1-2-1 大気塵埃中の放射性核種分析結果

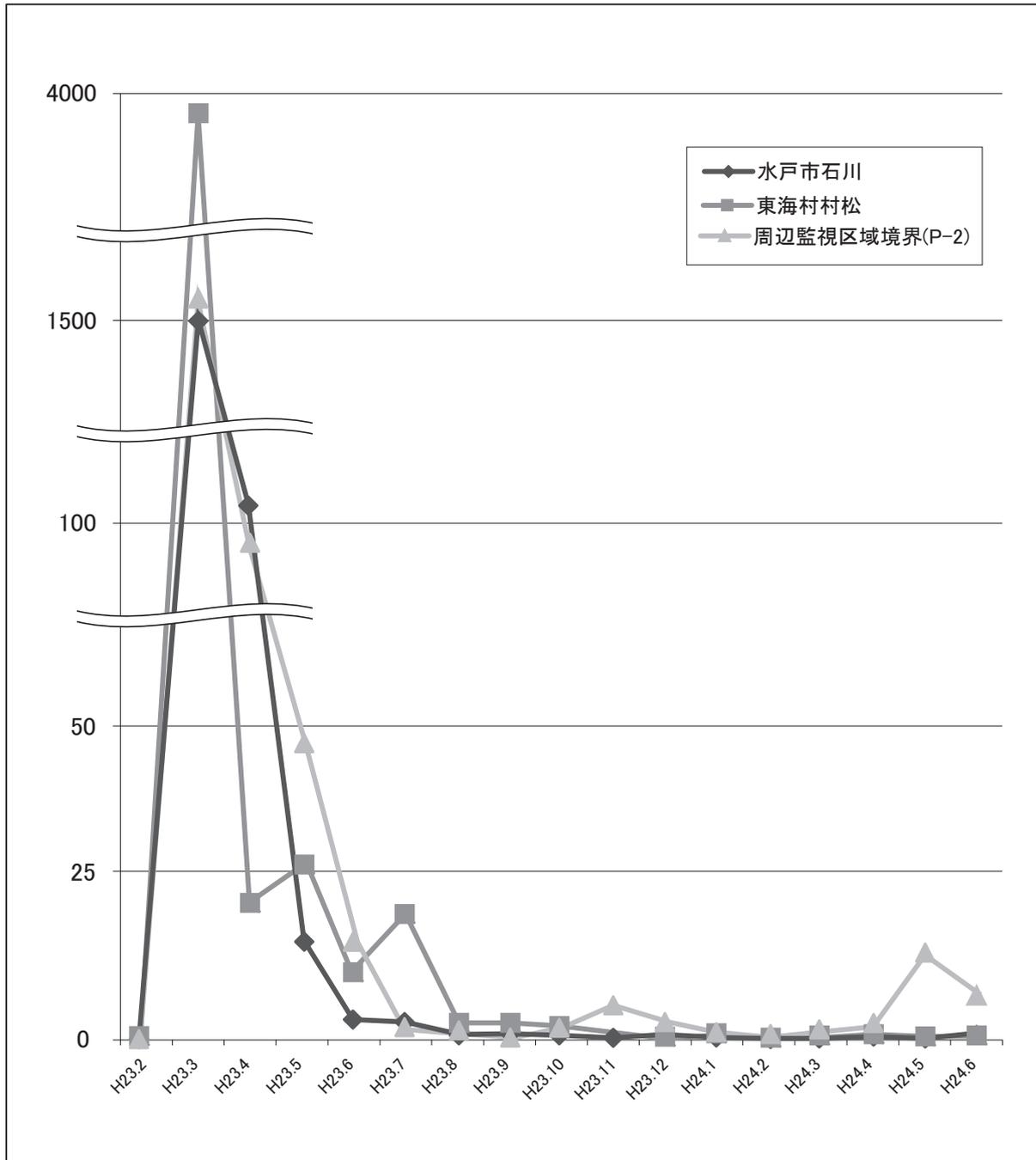
測定者	採取地点	採取月日	核種・分析値 (mBq/m ³)								
			⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce	Pu	
県	水戸市 石川	4. 1~ 5. 1	×	×	×	×	×	×	0.44 [0.33]	×	
		5. 1~ 6. 1	×	×	×	×	×	×	0.26 [0.16]	×	
		6. 1~ 7. 1	×	×	×	×	×	×	0.63 [0.41]	×	
	東海村 村松	4. 1~ 5. 1	×	×	×	×	×	×	0.70 [0.50]	×	
		5. 1~ 6. 1	×	×	×	×	×	×	0.72 [0.50]	×	
		6. 1~ 7. 1	×	×	×	×	×	×	0.53 [0.35]	×	
	ひたちなか市 常陸那珂	4. 1~ 5. 1	×	×	×	×	×	×	0.33 [0.24]	×	
		5. 1~ 6. 1	×	×	×	×	×	×	0.61 [0.41]	×	
		6. 1~ 7. 1	×	×	×	×	×	×	0.76 [0.52]	×	
	茨城町 広浦	4. 1~ 5. 1	×	×	×	×	×	×	1.4 [1.0]	×	
		5. 1~ 6. 1	×	×	×	×	×	×	0.73 [0.50]	×	
		6. 1~ 7. 1	×	×	×	×	×	×	0.40 [0.28]	×	
	鉾田市 造谷	4. 1~ 5. 1	×	×	×	×	×	×	0.56 [0.40]	×	
		5. 1~ 6. 1	×	×	×	×	×	×	0.39 [0.29]	×	
		6. 1~ 7. 1	×	×	×	×	×	×	0.57 [0.38]	×	
原子力 機構 原 科 研	周辺監視区域境界 (MS-2)	4. 2~ 4.30	×	×	×	×	×	×	×	×	
		4.30~ 6. 4	×	×	×	×	×	×	0.17 [0.11]	×	
		6. 4~ 7. 2	×	×	×	×	×	×	×	×	
	東海村 須和間	4. 2~ 4.30	×	×	×	×	×	×	3.3 [1.9]	×	
		4.30~ 6. 4	×	×	×	×	×	×	1.2 [0.69]	×	
		6. 4~ 7. 2	×	×	×	×	×	×	0.40 [0.22]	×	
	〃 亀下	4. 2~ 4.30	×	×	×	×	×	×	3.7 [2.1]	×	
		4.30~ 6. 4	×	×	×	×	×	×	3.5 [2.0]	×	
		6. 4~ 7. 2	×	×	×	×	×	×	0.74 [0.41]	×	

測定者	採取地点	採取月日	核種・分析値 (mBq/m ³)							Pu
			⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce	
原子力 機構 サイクル 工研	東海村 舟石川	4. 2～ 5. 1	×	×	×	×	×	0.22 [0.15]	×	×
		5. 1～ 6. 1	×	×	×	×	×	1.9 [1.4]	×	
		6. 1～ 7. 2	×	×	×	×	×	0.79 [0.56]	×	
	ひたちなか市長砂	4. 2～ 5. 1	×	×	×	×	×	0.72 [0.58]	×	×
		5. 1～ 6. 1	×	×	×	×	×	1.8 [1.3]	×	
		6. 1～ 7. 2	×	×	×	×	×	1.8 [1.3]	×	
	〃 高野	4. 2～ 5. 1	×	×	×	×	×	0.86 [0.67]	×	×
		5. 1～ 6. 1	×	×	×	×	×	5.9 [4.5]	×	
		6. 1～ 7. 2	×	×	×	×	×	4.1 [3.0]	×	
原子力 機構 大洗	周辺監視区域境界 (P-2)	4. 2～ 5. 1	×	×	×	×	×	2.1 [1.4]	×	/
		5. 1～ 6. 1	×	×	×	×	×	12 [8.0]	×	
		6. 1～ 7. 2	×	×	×	×	×	6.1 [4.1]	×	
	〃 (P-6)	4. 2～ 5. 1	×	×	×	×	×	0.75 [0.52]	×	/
		5. 1～ 6. 1	×	×	×	×	×	5.4 [3.7]	×	
		6. 1～ 7. 2	×	×	×	×	×	3.1 [2.1]	×	
原 電	東海村 船場	4. 4～ 5. 2	×	×	×	×	×	×	×	/
		5. 2～ 6. 6	×	×	×	×	×	0.43 [0.30]	×	
		6. 6～ 7. 4	×	×	×	×	×	×	×	
	日立市 留	4. 4～ 5. 2	×	×	×	×	×	×	×	/
		5. 2～ 6. 6	×	×	×	×	×	0.28 [0.17]	×	
		6. 6～ 7. 4	×	×	×	×	×	×	×	

(注) ¹³⁷Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響及び過去の核実験等に起因するフォールアウトの影響による。

なお、¹³⁴Csは福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。
検出された¹³⁴Csは〔 〕に記載。

大気塵埃中の¹³⁷Cs経月変化(mBq/m³)



1-2-2 降下塵中の放射性核種分析結果

測定者	採取地点	採取月日	核種・分析値 (Bq/m ²)						
			⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce
県	水戸市 愛宕町	4. 2～ 5. 1	×	×	×	×	×	16 [12]	×
		5. 1～ 6. 1	×	×	×	×	×	9.1 [7.1]	×
		6. 1～ 7. 2	×	×	×	×	×	9.2 [6.6]	×
原子力 機構 原科研	内	4. 2～ 5. 1	×	×	×	×	×	48 [28]	×
		5. 1～ 6. 1	×	×	×	×	×	22 [13]	×
		6. 1～ 7. 2	×	×	×	×	×	13 [7.5]	×
原子力 機構 大洗	内	4. 2～ 5. 1	×	×	×	×	×	39 [29]	×
		5. 1～ 6. 1	×	×	×	×	×	24 [17]	×
		6. 1～ 7. 2	×	×	×	×	×	21 [15]	×

(注) ¹³⁷Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響及び過去の核実験等に起因するフォールアウトの影響による。

なお、¹³⁴Csは福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。

検出された¹³⁴Csは〔 〕に記載。

1-3 農畜産物中の放射能測定結果

1-3-1 牛乳（原乳）中の放射性核種分析結果（¹³¹I）

測定者	採取地点	採取月日	核種	分析値 (Bq/L)
県	茨城県央クーラーステーション	6.5	¹³¹ I	×
	里美クーラーステーション	6.5	¹³¹ I	×

(注) 県内全域調査の地点で実施。検出限界値は0.6Bq/L。

1-4 海洋における放射能測定結果

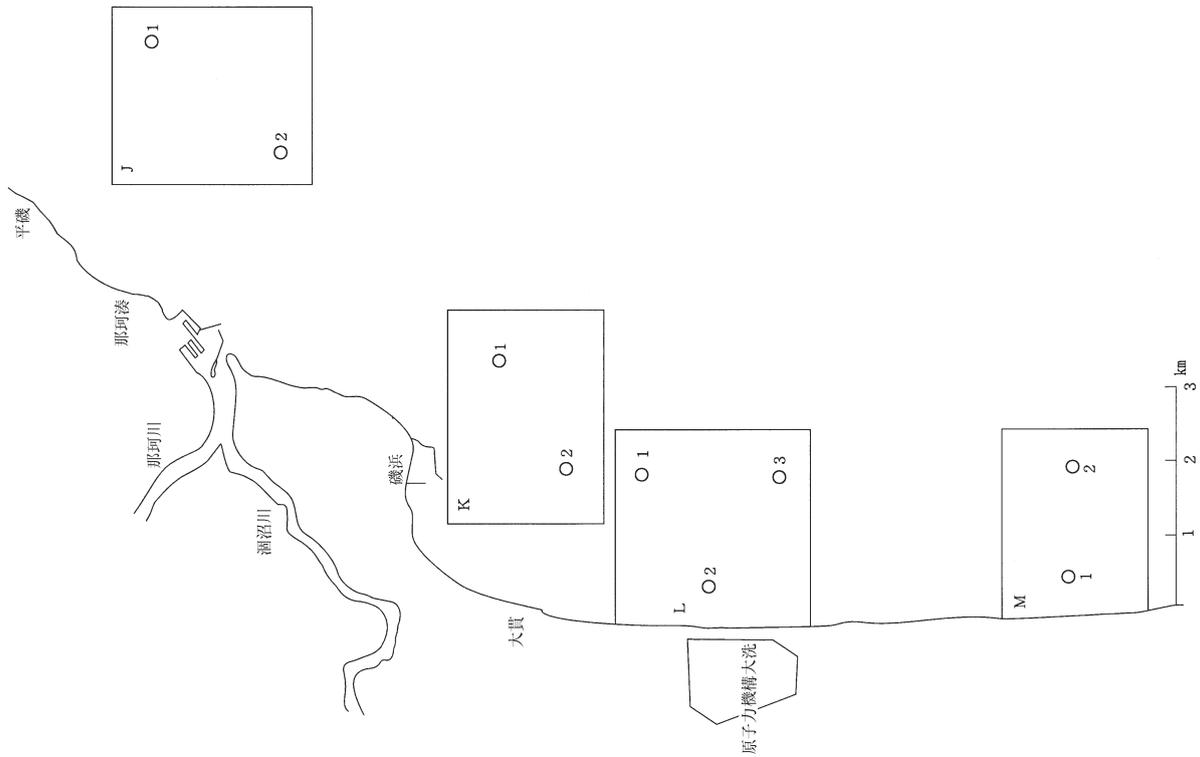
1-4-1 海水中の放射性核種分析結果（³H）

測定者	採取地点	採取月日	水温 (℃)	塩素量 (%)	核種	分析値 (Bq/L)
県	久慈沖 (A)	4.18	11.0	18.50	³ H	×
	原子力機構サイクル工研沖 (G)	4.18	12.2	18.80	³ H	×
	阿字ヶ浦沖 (I)	4.18	11.1	18.21	³ H	×
	那珂湊沖 (J)	4.18	11.6	18.20	³ H	×
	大貫沖 (K)	4.18	11.8	17.16	³ H	×
	再処理排水放出口周辺 (P)	4.13	11.5	17.76	³ H	×
原子力機構原科研	原子力機構原科研沖 (C)	4.17	11.2	16.26	³ H	×
原子力機構 サイクル工研	原子力機構サイクル工研沖 (F)	4.13	11.2	17.27	³ H	×
	長砂沖 (H)	4.13	11.6	18.03	³ H	×
	再処理排水放出口周辺 (P)	4.13	11.5	17.76	³ H	×
原子力機構大洗	原子力機構大洗沖 (L)	4.12	11.9	17.98	³ H	×
	〃 (M)	4.12	11.6	18.39	³ H	×
原電	原電沖 (B)	4.10	9.3	13.76	³ H	×

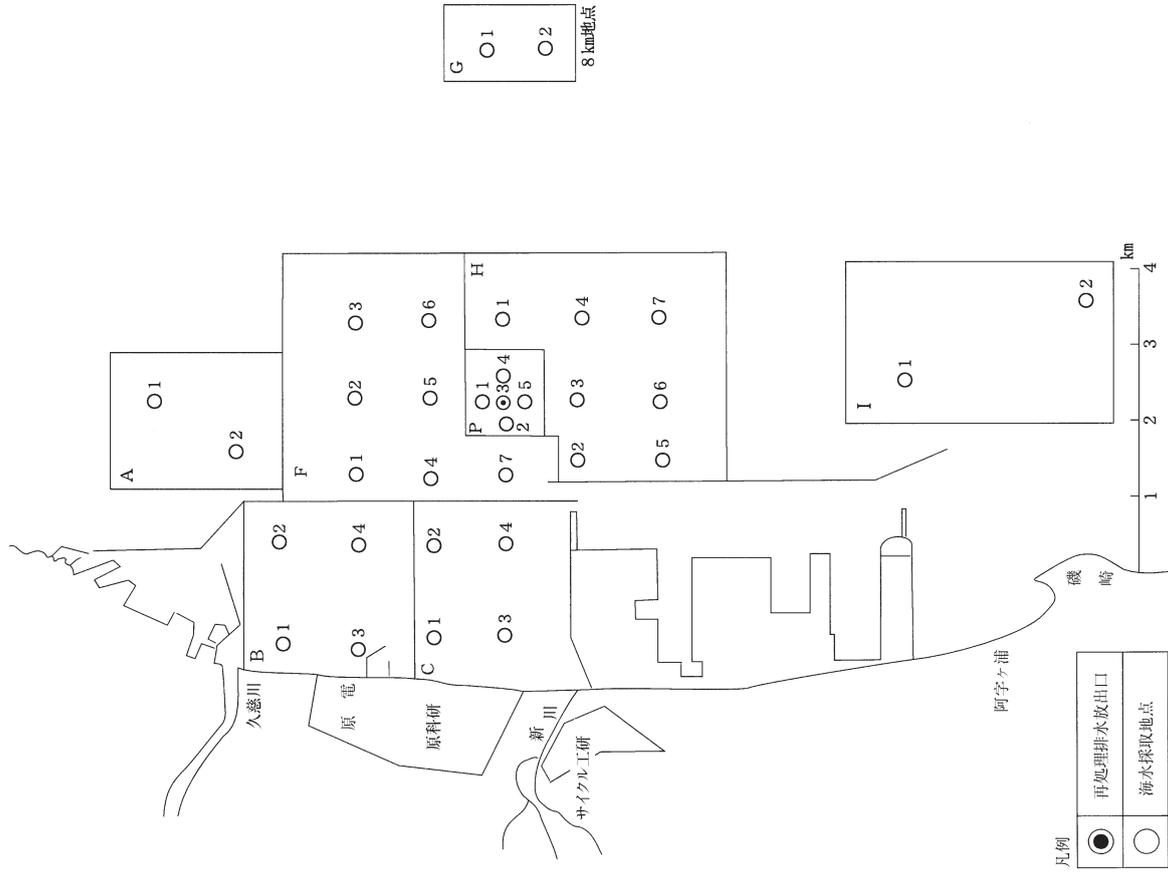
(注1) 採水地点の () 内は採水海域記号。位置は24ページの図を参照。

(注2) 採水部位は表層

海水採取地点 (大洗地区)



海水採取地点 (東海地区)



2 敷地内における測定結果

2-1 空間 γ 線量率測定結果

2-1-1 モニタリングステーション

測定者	評価対象	平常の変動幅（上限）
施設者	月平均値	100nGy/時

測定者	測定地点	測定値（nGy/時）				
		種別	4月	5月	6月	平均
原子力機構 サイクル工研	S T - 1	最大	97	100	92	
		平均	89	87	85	87

（注）最大値100nGy/時は、5月29日21時に観測されたものであり、降雨の影響である。

2-1-2 モニタリングポスト

測定者	評価対象	平常の変動幅（上限）
施設者	月平均値	100nGy/時

測定者	測定地点	測定値（nGy/時）				
		種別	4月	5月	6月	平均
原子力機構 大洗	構内 (P-8)	最大	140	130	130	
		平均	130	120	110	120

（注）最大値140nGy/時は、4月11日13時、14時、15時、18時及び4月14日6時、7時、8時、10時並びに4月17日20時に観測されたものであり、降雨の影響である。

平成24年度第1四半期におけるモニタリングステーション、モニタリングポストにおいて測定した空間線量率の経月変化

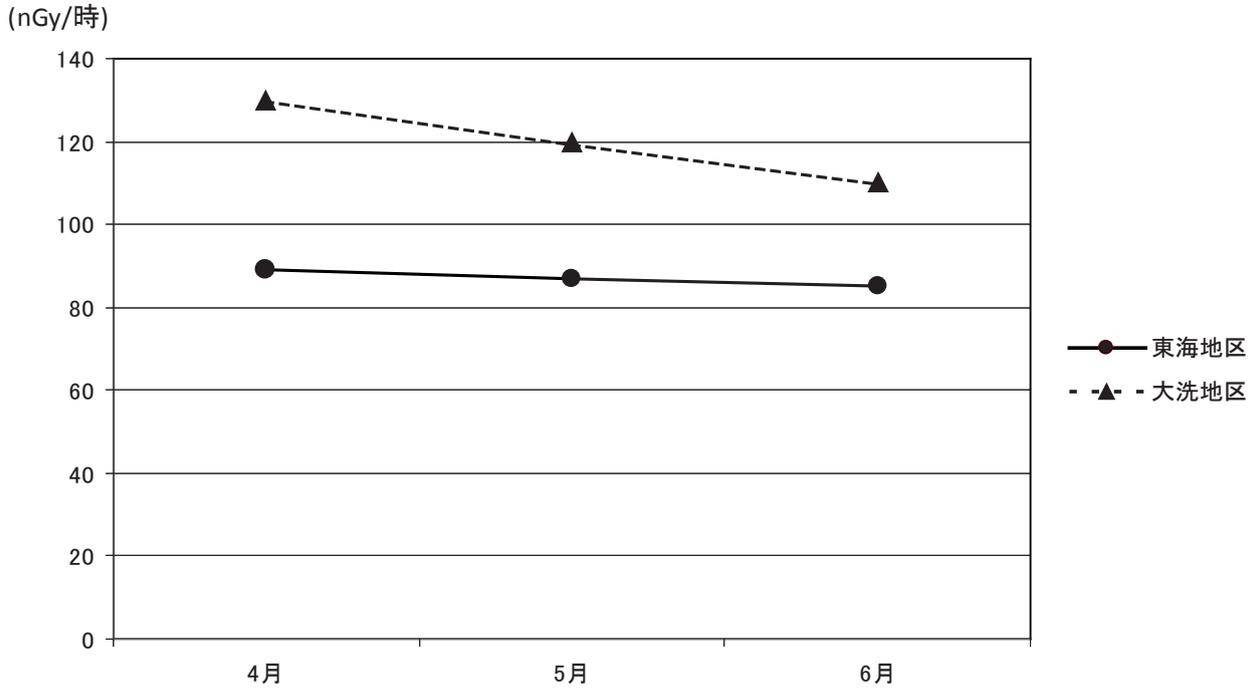


図 空間ガンマ線量率測定結果(原子力施設敷地内)における月平均値の経月変化

2-2 大気中放射能測定結果

2-2-1 大気塵埃中の放射性核種分析結果

測定者	採取地点	採取月日	核種・分析値 (mBq/m ³)							
			⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce	Pu
原子力機構 原子科 研	MS-1	4.2~4.30	×	×	×	×	×	×	×	
		4.30~6.4	×	×	×	×	×	×	×	
		6.4~7.2	×	×	×	×	×	×	×	
原子力機構 サイクル工研	ST-1	4.2~5.1	×	×	×	×	×	×	×	×
		5.1~6.1	×	×	×	×	×	0.21 [0.16]	×	
		6.1~7.2	×	×	×	×	×	0.97 [0.67]	×	
原子力機構 大 洗	構 内	4.2~5.1	×	×	×	×	×	0.26 [0.10]	×	
		5.1~6.1	×	×	×	×	×	0.65 [0.45]	×	
		6.1~7.2	×	×	×	×	×	×	×	

(注) ¹³⁷Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響及び過去の核実験等に起因するフォールアウトの影響による。

なお、¹³⁴Csは福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。

検出された¹³⁴Csは〔 〕に記載。

3 放出源における測定結果

3-1 排 気

3-1-1 排気中の放射性核種分析結果

(主要放出核種)

測定者	施設名	項目	放 出 状 況				分析核種 及びDL		
			4 月	5 月	6 月	平 均			
(注2) 原 子 力 機 構 原 科 研	J R R - 2	最 高 濃 度 (Bq/cm ³)					³ H		
		平 均 濃 度 (Bq/cm ³)							
		放 出 量	実 測 分 (GBq)	0	0	0		計 0	
			不 検 出 分 (GBq)	0	0	0		計 0	
	J R R - 3	最 高 濃 度 (Bq/cm ³)					希ガス (⁴¹ Ar)		
		平 均 濃 度 (Bq/cm ³)							
		放 出 量	実 測 分 (GBq)	0	0	0	計 0	1.6×10 ⁻³	
			不 検 出 分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³	
		最 高 濃 度 (Bq/cm ³)	×	×	×			³ H	
			平 均 濃 度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	4.1×10 ⁻⁵	
			放 出 量	実 測 分 (GBq)	0	0	0	計 0	4.3×10 ⁻⁵
				不 検 出 分 (GBq)	4.2	4.2	4.2	計 1.3×10	Bq/cm ³
	J R R - 4	最 高 濃 度 (Bq/cm ³)					希ガス (⁴¹ Ar)		
		平 均 濃 度 (Bq/cm ³)							
		放 出 量	実 測 分 (GBq)	0	0	0	計 0	1.4×10 ⁻³	
			不 検 出 分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³	
	N S R R	最 高 濃 度 (Bq/cm ³)					希ガス (⁴¹ Ar)		
		平 均 濃 度 (Bq/cm ³)							
		放 出 量	実 測 分 (GBq)	0	0	0	計 0	3.6×10 ⁻³	
			不 検 出 分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³	
最 高 濃 度 (Bq/cm ³)		×	×	×			¹³¹ I		
		平 均 濃 度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	6.4×10 ⁻⁹		
		放 出 量	実 測 分 (GBq)	0	0	0	計 0	1.7×10 ⁻⁸	
			不 検 出 分 (GBq)	6.4×10 ⁻⁵	7.8×10 ⁻⁵	6.4×10 ⁻⁵	2.1×10 ⁻⁴	Bq/cm ³	

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種及びDL			
			4月	5月	6月	平均				
(注2) 原子力機構 原科 研	燃料試験施設	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	8.8×10 ⁻³	8.8×10 ⁻³		希ガス (⁸⁵ Kr) 7.3×10 ⁻³ ~ 8.3×10 ⁻³ Bq/cm ³			
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	7.6×10 ⁻³	7.8×10 ⁻³	7.5×10 ⁻³				
		放出量	実測分 (GBq)	0	1.4×10 ⁻¹	1.4		計 1.5		
			不検出分 (GBq)	3.1×10 ²	3.4×10 ²	3.4×10 ²		計 9.9×10 ²		
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×			¹³¹ I 1.2×10 ⁻⁹ ~ 1.9×10 ⁻⁹ Bq/cm ³		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×				
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0			計 0	
			不検出分 (GBq)	6.7×10 ⁻⁵	7.4×10 ⁻⁵	5.8×10 ⁻⁵			計 2.0×10 ⁻⁴	
	燃料サイクル安全工学研究施設 (NUCEF)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		希ガス (¹³⁸ Xe) 9.0×10 ⁻⁴ Bq/cm ³			
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×				
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0			計 0	
			不検出分 (GBq)	1.6×10 ²	1.7×10 ²	1.6×10 ²			計 4.9×10 ²	
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×			¹³¹ I 6.5×10 ⁻¹⁰ ~ 1.0×10 ⁻⁹ Bq/cm ³		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×				
放出量		実測分 (GBq)	0	0	0	計 0				
		不検出分 (GBq)	1.5×10 ⁻⁴	1.8×10 ⁻⁴	1.4×10 ⁻⁴	計 4.7×10 ⁻⁴				
原子力機構 再処理施設 サイクル工 研	再処理施設	主排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×			⁸⁵ Kr 2.4×10 ⁻³ Bq/cm ³	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0			計 0
				不検出分 (GBq)	7.2×10 ²	7.4×10 ²	7.1×10 ²			計 2.2×10 ³
		主排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	1.7×10 ⁻⁴	1.7×10 ⁻⁴	1.9×10 ⁻⁴		³ H 3.7×10 ⁻⁵ Bq/cm ³		
			平均濃度 (Bq/cm ³)	1.5×10 ⁻⁴	1.4×10 ⁻⁴	1.7×10 ⁻⁴	1.5×10 ⁻⁴			
			放出量	実測分 (GBq)	4.2×10	4.0×10	5.8×10		計 1.4×10 ²	
				不検出分 (GBq)	0	0	0		計 0	
		主排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹⁴ C 4.0×10 ⁻⁵ Bq/cm ³		
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0	
				不検出分 (GBq)	1.1×10	1.1×10	1.4×10		計 3.6×10	

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種 及びDL	
			4月	5月	6月	平均		
原子力 機構 サイ クル 工 研	再 処 理 施 設	主 排 気 筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I 3.7×10 ⁻⁸ Bq/cm ³
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	
			放出量 実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	
			放出量 不検出分 (GBq)	1.0×10 ⁻²	1.0×10 ⁻²	1.3×10 ⁻²	計 3.3×10 ⁻²	
		主 排 気 筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹²⁹ I 3.7×10 ⁻⁸ Bq/cm ³
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	
			放出量 実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	
			放出量 不検出分 (GBq)	1.0×10 ⁻²	1.0×10 ⁻²	1.3×10 ⁻²	計 3.3×10 ⁻²	
		第 一 付 属 排 気 筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁸⁵ Kr 2.4×10 ⁻³ Bq/cm ³
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	
			放出量 実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	
			放出量 不検出分 (GBq)	1.7×10 ²	1.7×10 ²	1.8×10 ²	計 5.2×10 ²	
	第 一 付 属 排 気 筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		³ H 3.7×10 ⁻⁵ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量 実測分 (GBq)	0	0	0	計 0		
		放出量 不検出分 (GBq)	25	24	33	計 82		
	第 一 付 属 排 気 筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹⁴ C 4.0×10 ⁻⁵ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量 実測分 (GBq)	0	0	0	計 0		
		放出量 不検出分 (GBq)	27	26	35	計 88		
	第 一 付 属 排 気 筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I 3.7×10 ⁻⁸ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量 実測分 (GBq)	0	0	0	計 0		
		放出量 不検出分 (GBq)	2.5×10 ⁻³	2.4×10 ⁻³	3.3×10 ⁻³	計 8.2×10 ⁻³		
第 一 付 属 排 気 筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹²⁹ I 3.7×10 ⁻⁸ Bq/cm ³		
	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
	放出量 実測分 (GBq)	0	0	0	計 0			
	放出量 不検出分 (GBq)	2.5×10 ⁻³	2.4×10 ⁻³	3.3×10 ⁻³	計 8.2×10 ⁻³			

測定者	施設名		項目	放出状況				分析核種 及びDL	
				4月	5月	6月	平均		
原子力 機構 サイクル 工研	再処 理 施設	第二 付 属 排 気 筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁸⁵ Kr 2.4×10 ⁻³ Bq/cm ³	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
				不検出分 (GBq)	2.2×10 ²	2.2×10 ²	2.2×10 ²		計 6.6×10 ²
			最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×			³ H 3.7×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0		
			不検出分 (GBq)	3.1	3.1	3.9	計 1.0×10		
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹⁴ C 4.0×10 ⁻⁵ Bq/cm ³		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0	
			不検出分 (GBq)	3.4	3.4	4.2		計 1.1×10	
	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I 3.7×10 ⁻⁸ Bq/cm ³			
	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×				
	放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0		
		不検出分 (GBq)	3.1×10 ⁻³	3.1×10 ⁻³	3.9×10 ⁻³		計 1.0×10 ⁻²		
	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×			¹²⁹ I 3.7×10 ⁻⁸ Bq/cm ³		
	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×				
	放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0			
		不検出分 (GBq)	3.1×10 ⁻³	3.1×10 ⁻³	3.9×10 ⁻³	計 1.0×10 ⁻²			
	高レベル 放射性物質 研究施設 (CPF)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×			希ガス 〔 ⁸⁵ Kr〕 〔 ¹³³ Xe〕 2.4×10 ⁻³ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0		
			不検出分 (GBq)	1.5×10 ²	1.6×10 ²	1.5×10 ²	計 4.6×10 ²		
最高濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×		³ H 3.7×10 ⁻⁵ Bq/cm ³			
平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×				
放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0				
	不検出分 (GBq)	2.6	2.4	2.2	計 7.2				

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種及びDL	
			4月	5月	6月	平均		
原子力機構サイクル工研	高レベル放射性物質研究施設 (CPF)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I 3.7×10 ⁻⁸ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	2.6×10 ⁻³	2.4×10 ⁻³	2.2×10 ⁻³		計 7.2×10 ⁻³
(注3) 原子力機構大洗	J M T R	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		希ガス 〔主に ⁴¹ Ar〕 2.3×10 ⁻³ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	1.4×10 ²	1.5×10 ²	1.3×10 ²		計 4.2×10 ²
	H T T R	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		希ガス 〔主に ⁸⁸ Kr〕 ¹³⁸ Xe 2.1×10 ⁻³ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	1.4×10 ²	1.5×10 ²	1.4×10 ²		計 4.3×10 ²
	H T T R	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I 1.5×10 ⁻⁹ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	7.4×10 ⁻⁵	8.8×10 ⁻⁵	8.2×10 ⁻⁵		計 2.4×10 ⁻⁴
	照射燃料体試験施設 (FMF)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		希ガス 〔主に ⁸⁵ Kr〕 ¹³³ Xe 1.2×10 ⁻³ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	0	0	0		計 0
照射燃料体試験施設 (FMF)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I 5.6×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³		
	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
	放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0	
		不検出分 (GBq)	0	0	0		計 0	

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種及びDL	
			4月	5月	6月	平均		
(注3) 原子力機構大洗	高速実験炉「常陽」	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		希ガス 〔主に ⁴¹ Ar〕 ⁸⁵ Kr ¹³³ Xe〕 1.3×10 ⁻³ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	1.3×10 ²	1.3×10 ²	1.3×10 ²		計 3.9×10 ²
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I 2.2×10 ⁻⁹ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	1.7×10 ⁻⁴	1.9×10 ⁻⁴	1.4×10 ⁻⁴		計 5.0×10 ⁻⁴
(注4) 原子力機構那珂	JT-60 〔臨界プラズマ〕 試験装置棟	最高濃度 (Bq/cm ³)					³ H 2.0×10 ⁻⁵ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)						
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	0	0	0		計 0
(注5) 原電	東海発電所 排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co 1.4×10 ⁻⁹ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	1.7×10 ⁻⁴	1.8×10 ⁻⁴	1.8×10 ⁻⁴		計 5.3×10 ⁻⁴
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³⁷ Cs 1.3×10 ⁻⁹ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
	放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0		
		不検出分 (GBq)	1.6×10 ⁻⁴	1.5×10 ⁻⁴	1.5×10 ⁻⁴	計 4.6×10 ⁻⁴		
	東海発電所 その他排気口	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co 1.6×10 ⁻⁹ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	1.9×10 ⁻⁴	2.1×10 ⁻⁴	1.9×10 ⁻⁴		計 5.9×10 ⁻⁴
最高濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×		¹³⁷ Cs 1.8×10 ⁻⁹ Bq/cm ³		
平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×			
放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0			
	不検出分 (GBq)	2.3×10 ⁻⁴	2.3×10 ⁻⁴	2.0×10 ⁻⁴	計 6.6×10 ⁻⁴			

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種 及びDL		
			4月	5月	6月	平均			
(注5) 原 電	東海第二 発電所	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		希ガス 〔主に ⁸⁵ Kr ¹³³ Xe〕		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	1.0×10 ⁻³	
			不検出分 (GBq)	6.9×10 ²	7.2×10 ²	6.9×10 ²	計 2.1×10 ³	Bq/cm ³	
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	2.9×10 ⁻⁹	
			不検出分 (GBq)	1.8×10 ⁻³	2.1×10 ⁻³	1.9×10 ⁻³	計 5.8×10 ⁻³	Bq/cm ³	
		住友 鋁山	技術センター 排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U
				平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	6.2×10 ⁻¹¹
放出量	実測分 (GBq)			0	0	0	計 0	Bq/cm ³	
	不検出分 (GBq)			微	微	微	計 微		
(注6) J C O	第1管理棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10 ⁻¹⁰		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微		
	第2管理棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10 ⁻¹⁰		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微		
	第3管理棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10 ⁻¹⁰		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微		
固体廃棄物 処理棟	最高濃度 (Bq/cm ³)					U			
	平均濃度 (Bq/cm ³)					3.7×10 ⁻¹⁰			
	放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³		
		不検出分 (GBq)	0	0	0	計 0			

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種 及びDL	
			4月	5月	6月	平均		
三 菱 原 燃	転換工場	最高濃度 (Bq/cm ³)	1.9×10 ⁻¹⁰	×	×		U 1.0×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	1.1×10 ⁻¹⁰	×	×	1.0×10 ⁻¹⁰		
		放出量	実測分 (GBq)	2.3×10 ⁻⁶	0	×		計 2.3×10 ⁻⁶
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微
	成形工場	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U 1.0×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微
	第1廃棄物 処理所	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U 1.0×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微
第2廃棄物 処理所	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U 1.0×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³		
	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
	放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0	
		不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微	
燃料加工 試験棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U 1.0×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³		
	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
	放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0	
		不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微	
積水 メ デイ カル	集合排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		³ H 1.9×10 ⁻⁵ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹⁴ C 3.7×10 ⁻⁶ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種 及びDL		
			4月	5月	6月	平均			
積水メデイカル	第4棟筒気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	4.3×10 ⁻⁵	4.2×10 ⁻⁵	3.1×10 ⁻⁵		³ H 1.9×10 ⁻⁵ Bq/cm ³		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	2.1×10 ⁻⁵	2.0×10 ⁻⁵	2.0×10 ⁻⁵	2.1×10 ⁻⁵			
		放出量	実測分 (GBq)	4.3×10 ⁻²	4.1×10 ⁻²	3.1×10 ⁻²	計 1.1×10 ⁻¹	Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微		
		最高濃度 (Bq/cm ³)	1.1×10 ⁻⁴	1.7×10 ⁻⁵	7.7×10 ⁻⁵		¹⁴ C 3.7×10 ⁻⁶ Bq/cm ³		
			平均濃度 (Bq/cm ³)	1.2×10 ⁻⁵	4.6×10 ⁻⁶	9.8×10 ⁻⁶		8.5×10 ⁻⁶	
		放出量	実測分 (GBq)	2.0×10 ⁻¹	2.6×10 ⁻²	1.4×10 ⁻¹	計 3.6×10 ⁻¹	Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微		
(注7) N	照射後試験棟 (F棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		希ガス 〔主に ⁸⁵ Kr〕 2.0×10 ⁻³ Bq/cm ³		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	1.0×10 ²	1.1×10 ²	1.0×10 ²	計 3.1×10 ²		
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I 2.8×10 ⁻¹⁰ ~ 4.6×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³		
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		×	
	放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³		
		不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微			
	D	化学分析棟 (R棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	1.4×10 ⁻⁹	1.1×10 ⁻⁸	2.2×10 ⁻⁸		¹³¹ I 9.5×10 ⁻¹⁰ ~ 1.6×10 ⁻⁹ Bq/cm ³	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	1.2×10 ⁻⁹	4.6×10 ⁻⁹	6.4×10 ⁻⁹	4.2×10 ⁻⁹		
			放出量	実測分 (GBq)	6.7×10 ⁻⁶	9.6×10 ⁻⁵	1.1×10 ⁻⁴	計 2.2×10 ⁻⁴	Bq/cm ³
				不検出分 (GBq)	微	0	微	計 微	
C	ウラン実験棟 (U棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U 1.3×10 ⁻¹⁰ ~ 1.7×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微		
	燃料試験棟 (A棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U 3.4×10 ⁻¹¹ ~ 7.8×10 ⁻¹¹ Bq/cm ³		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微		

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種 及びDL	
			4月	5月	6月	平均		
(注8) 東	原子炉棟	最高濃度 (Bq/cm ³)					⁴¹ Ar 4.0×10 ⁻³ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)						
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	0	0	0		計 0
大	ライナック棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³ N+ ¹⁵ O 2.0×10 ⁻³ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	3.6×10 ⁻²	7.1×10 ⁻²	8.9×10 ⁻²		計 2.0×10 ⁻¹
原	加工工場	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U 1.3×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微
燃	廃棄物処理棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U 1.3×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微
工	HTR燃料 製造施設	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U 1.3×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微
三 菱 マ テ リ ア ル	開発試験 第Ⅰ棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U 4.0×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微
開発試験 第Ⅱ棟	開発試験 第Ⅱ棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U 4.0×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種及びDL	
			4月	5月	6月	平均		
(注9) 日本核燃	照射後 試験施設	最高濃度 (Bq/cm ³)	1.4×10 ⁻⁴	×	3.0×10 ⁻³		希ガス [⁸⁵ Kr ¹³³ Xe] 1.0×10 ⁻⁴ ～ 6.8×10 ⁻⁵ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	4.9×10 ⁻⁶	×	2.9×10 ⁻⁴	9.8×10 ⁻⁵		
		放出量	実測分 (GBq)	1.3×10 ⁻¹	0	8.0	計 8.1	131I 2.2×10 ⁻⁹ ～ 1.9×10 ⁻⁹ Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	27	27	27	計 8.1	
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×			
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	
			不検出分 (GBq)	5.6×10 ⁻⁵	5.7×10 ⁻⁵	5.7×10 ⁻⁵	計 1.7×10 ⁻⁴	

(注1) 平均濃度は、検出された放出量を月間排気量で除した値。

(注2) 原子力機構原科研

JRR-2：4月～6月は給排気停止。

JRR-3：4月～6月は施設定期検査，原子炉停止，希ガスの放出なし。

JRR-4：4月～6月は施設定期検査，原子炉停止，希ガスの放出なし。

NSRR：4月～6月は施設定期検査，原子炉停止，希ガスの放出なし。

(注3) 原子力機構大洗

JMTR, HTTR, 高速実験炉「常陽」：4月～6月は施設定期検査。

照射燃料集合体試験施設 (FMF)：4月～6月は放出を伴う運転なし。

(注4) 原子力機構那珂

JT-60実験棟：JT-60SAに向けた改造工事の準備のためJT-60の運転なし。

(注5) 原電

東海発電所その他排気口：使用済燃料冷却池建屋，サービス建屋等からの排気。

(注6) JCO

固体廃棄物処理棟：今期は核燃料物質等の処理がなく運転しなかったため，放出なし。

(注7) NDC

化学分析棟 (R棟) で検出された¹³¹Iは，チャコールフィルタの吸着試験に伴って検出されたもの。

(注8) 東大

原子炉棟：今期は放出を伴う運転なし

(注9) 日本核燃

4月に燃料ペレット処理試験，6月に燃料ペレット溶解試験，燃料棒切断試験を実施。

3-1-1' 排気中の放射性核種分析結果（その他検出された核種）

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種及びDL
			4月	5月	6月	平均	
(注1) 原子力機構 原科研	燃料試験施設	最高濃度 (Bq/cm ³)	/	2.8×10 ⁻⁹	/	/	⁶⁰ Co 1.7×10 ⁻⁹ Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)	/	5.6×10 ⁻¹⁰	/	/	
		放出量(実測分) (GBq)	/	2.5×10 ⁻⁵	/	計 2.5×10 ⁻⁵	
(注2) 原電	東海発電所	最高濃度 (Bq/cm ³)	8.1×10 ⁻⁶	1.2×10 ⁻⁵	1.2×10 ⁻⁵	/	³ H 4.1×10 ⁻⁷ Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)	6.6×10 ⁻⁶	1.0×10 ⁻⁵	1.2×10 ⁻⁵	/	
		放出量(実測分) (GBq)	8.1×10 ⁻¹	1.3	1.4	計 3.5	
	東海第二 発電所	最高濃度 (Bq/cm ³)	5.5×10 ⁻⁶	5.1×10 ⁻⁶	4.8×10 ⁻⁶	/	³ H 5.1×10 ⁻⁷ Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)	4.9×10 ⁻⁶	4.6×10 ⁻⁶	4.5×10 ⁻⁶	/	
		放出量(実測分) (GBq)	3.3	3.2	3.0	計 9.5	
	廃棄物 処理建屋	最高濃度 (Bq/cm ³)	4.8×10 ⁻⁶	/	/	/	³ H 4.8×10 ⁻⁷ Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)	4.5×10 ⁻⁷	/	/	/	
		放出量(実測分) (GBq)	8.8×10 ⁻²	/	/	計 8.8×10 ⁻²	

(注1) 原子力機構原科研

燃料試験施設：⁶⁰Co 高燃焼度の照射後燃料試験体の取扱による放出。

(注2) 原電

東海発電所：³H 炉内グラファイトの不純物(⁶Li)の放射化による。

東海第二発電所：³H 冷却材中の重水素の放射化による。

廃棄物処理建屋：³H 可燃性廃棄物の焼却処理等による。

3-1-2 排気中の全β放射能測定結果

測定者	施設名	項目	放出状況				主な放出核種及びDL		
			4月	5月	6月	平均			
N	材料試験棟 (R棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co 3.4×10 ⁻¹⁰ ~ 4.5×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0	
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微	
	D	化学分析棟 (R棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co 2.9×10 ⁻¹¹ ~ 6.5×10 ⁻¹¹ Bq/cm ³	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
				不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微
C	燃料試験棟 (A棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co 3.6×10 ⁻¹¹ ~ 8.2×10 ⁻¹¹ Bq/cm ³		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0	
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微	
東 北 大	ホットラボ棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co ⁵⁹ Fe 2.5×10 ⁻⁹ Bq/cm ³		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0	
			不検出分 (GBq)	6.9×10 ⁻⁵	7.1×10 ⁻⁵	6.9×10 ⁻⁵		計 2.1×10 ⁻⁴	
日 揮	第2研究棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co等 1.8×10 ⁻⁹ Bq/cm ³		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0	
			不検出分 (GBq)	1.1×10 ⁻⁵	1.1×10 ⁻⁵	1.1×10 ⁻⁵		計 3.3×10 ⁻⁵	
三 菱 マ テ リ ア ル	開発試験 第IV棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co等 1.5×10 ⁻⁹ Bq/cm ³		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0	
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微	

3-1-2' 排気中の全β放射能測定結果

測定者	施設名	項目	放出状況				D L	
			4月	5月	6月	平均		
(注)原子力機構原子科研	J R R - 2	最高濃度 (Bq/cm ³)						
		平均濃度 (Bq/cm ³)						
	J R R - 3	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		7.6×10 ⁻¹¹ ~	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	9.7×10 ⁻¹¹ Bq/cm ³	
	J R R - 4	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		1.1×10 ⁻¹⁰ ~	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.5×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³	
	N S R R	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		1.7×10 ⁻¹⁰ ~	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	4.4×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³	
	燃料試験施設	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		3.8×10 ⁻¹¹ ~	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	4.8×10 ⁻¹¹ Bq/cm ³	
	燃料サイクル安全工学研究施設 (NUCEF)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		2.4×10 ⁻¹¹ ~	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.1×10 ⁻¹¹ Bq/cm ³	
	原子力機構サイクル工研	再処理施設主排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		1.5×10 ⁻⁹
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³
再処理施設第一付属排気筒		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		1.5×10 ⁻⁹	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³	
再処理施設第二付属排気筒		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		1.5×10 ⁻⁹	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³	
原子力機構大洗	J M T R	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		1.2×10 ⁻¹⁰	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³	
	H T T R	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		1.2×10 ⁻¹⁰	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³	

測定者	施設名	項目	放出状況				D L
			4月	5月	6月	平均	
原子力機構大洗	照射燃料集合体試験施設(FMF)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		1.5×10 ⁻¹⁰
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³
	高速実験炉「常陽」	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		1.5×10 ⁻¹⁰
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³
原電	東海第二所	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		7.2×10 ⁻¹⁰
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³
	廃棄物処理建屋	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		5.7×10 ⁻¹⁰
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³
東大	原子炉棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		7.0×10 ⁻⁷
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³
NDC	照射後試験棟(F棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		4.8×10 ⁻¹¹
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.1×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³

(注) 原子力機構原科研
JRR-2：4月～6月は給排気停止。

3-1-3 排気中の全α放射能測定結果

測定者	施設名	項目	放出状況				主な放出核種及びDL	
			4月	5月	6月	平均		
核管センター	開発棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		Pu, U 9.0×10 ⁻¹² Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微
	新分析棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		Pu, U 1.2×10 ⁻¹¹ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微
原子力機構原科研	燃料サイクル安全工学研究施設 (NUCEF)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		Pu 1.3×10 ⁻¹¹ ~ 1.7×10 ⁻¹¹ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微
原子力機構サイクル工研	プルトニウム燃料第一開発室、プルトニウム燃料第二開発室、プルトニウム燃料第三開発室、プルトニウム廃棄物処理開発施設	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		Pu 1.5×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	6.2×10 ⁻⁵	5.6×10 ⁻⁵	5.3×10 ⁻⁵		計 1.7×10 ⁻⁴

3-2 排水

3-2-1 排水中の放射性核種分析結果

測定者	評価対象	排出基準
施設者	月平均濃度	法令値

(主要放出核種)

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びD L	
			4月	5月	6月	平均		
(注1) 原子力機構 原子科 研	第1	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	3.2×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	微	微	微	計 微	Bq/cm ³
	第2	平均濃度 (Bq/cm ³)	8.5×10 ⁻²	8.4×10 ⁻²	1.4×10 ⁻¹	1.1×10 ⁻¹	³ H	
		放出量	実測分 (MBq)	1.1×10 ⁴	1.5×10 ⁴	2.7×10 ⁴	計 5.3×10 ⁴	4.4×10 ⁻²
			不検出分 (MBq)	3.6×10	1.1×10 ²	1.7×10	計 1.6×10 ²	~ 1.8×10 ⁻¹ Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)	3.0×10 ⁻⁵	×	7.9×10 ⁻⁵	4.3×10 ⁻⁵	⁷ Be	
		放出量	実測分 (MBq)	35	0	1.1×10	計 1.5×10	2.1×10 ⁻²
			不検出分 (MBq)	4.5×10 ⁻¹	1.9	4.0	計 64	~ 3.5×10 ⁻² Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	¹⁴ C	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	8.6×10 ⁻²
			不検出分 (MBq)	1.8×10 ²	1.5×10 ²	2.2×10 ²	計 5.5×10 ²	~ 1.3×10 ⁻¹ Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)	3.9×10 ⁻⁵	×	3.0×10 ⁻⁵	3.0×10 ⁻⁵	⁶⁰ Co	
		放出量	実測分 (MBq)	1.1	0	7.2×10 ⁻²	計 1.2	2.1×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	4.0	4.2	5.7	計 1.4×10	~ 3.9×10 ⁻³ Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)	3.8×10 ⁻⁵	×	3.4×10 ⁻⁵	3.4×10 ⁻⁵	¹³⁷ Cs	
		放出量	実測分 (MBq)	7.2×10 ⁻²	0	7.2×10 ⁻²	計 1.4×10 ⁻¹	2.5×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	4.9	5.4	6.4	計 1.7×10	~ 5.1×10 ⁻³ Bq/cm ³

測定者	排水溝	項目		放出状況				分析核種及びDL
				4月	5月	6月	平均	
(注1) 原子力機構原研	第3	平均濃度 (Bq/cm ³)			×	×	×	⁶⁰ Co 2.1×10 ⁻³ ~ 3.3×10 ⁻³ Bq/cm ³
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	
			不検出分 (MBq)	0	微	微	計 微	
(注2) 原子力機構サイクル工研	第2	平均濃度 (Bq/cm ³)		5.5×10 ⁻⁵	4.6×10 ⁻⁵		5.1×10 ⁻⁵	Pu(α) 3.7×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		放出量	実測分 (MBq)	5.6×10 ⁻³	3.3×10 ⁻³	0	計 8.9×10 ⁻³	
			不検出分 (MBq)	0	0	0	計 0	
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×		×	U 1.0×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	
			不検出分 (MBq)	微	微	0	計 微	
(注3) 原子力機構大洗	北地区	平均濃度 (Bq/cm ³)		8.3×10 ⁻³		9.8×10 ⁻²	2.8×10 ⁻²	³ H 7.6×10 ⁻² Bq/cm ³
		放出量	実測分 (MBq)	8.3×10 ²	0	6.4×10 ³	計 7.2×10 ³	
			不検出分 (MBq)	0	0	0	計 0	
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×		×	×	⁶⁰ Co 2.5×10 ⁻³ Bq/cm ³
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	
			不検出分 (MBq)	1.9	0	2.1	計 4.0	
	平均濃度 (Bq/cm ³)		×		×	×	¹³⁷ Cs 3.7×10 ⁻³ Bq/cm ³	
	放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0		
		不検出分 (MBq)	2.8	0	3.5	計 6.3		
	南地区	平均濃度 (Bq/cm ³)			×	×	×	⁶⁰ Co 1.8×10 ⁻³ Bq/cm ³
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	
			不検出分 (MBq)	0	微	微	計 微	
平均濃度 (Bq/cm ³)			×	×	×	¹³⁷ Cs 1.8×10 ⁻³ Bq/cm ³		
放出量		実測分 (MBq)	0	0	0		計 0	
		不検出分 (MBq)	0	微	微		計 微	

測定者	排水溝	項目		放出状況				分析核種 及びD L
				4月	5月	6月	平均	
(注4) 原子力 機構	貯水槽	平均濃度 (Bq/cm ³)		×			×	³ H
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	4.4×10 ⁻²
			不検出分 (MBq)	3.7×10 ⁻¹	0	0	計 3.7×10 ⁻¹	Bq/cm ³
(注5) 原電	東海発電所	平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	⁶⁰ Co
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	7.1×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	1.0	7.8×10 ⁻¹	4.5×10 ⁻¹	計 2.2	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	¹³⁷ Cs
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	8.9×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	1.5	9.4×10 ⁻¹	5.3×10 ⁻¹	計 3.0	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	¹⁵² Eu
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	3.9×10 ⁻²
			不検出分 (MBq)	5.9	4.0	2.5	計 1.2×10	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	¹⁵⁴ Eu
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	2.1×10 ⁻²
			不検出分 (MBq)	3.5	2.2	1.2	計 6.9	Bq/cm ³
	東海第二 発電所	平均濃度 (Bq/cm ³)		8.1×10 ⁻²	1.5×10 ⁻²	4.8×10 ⁻²	5.2×10 ⁻²	³ H
		放出量	実測分 (MBq)	1.2×10 ⁴	1.5×10 ³	5.5×10 ³	計 1.9×10 ⁴	5.9×10 ⁻²
			不検出分 (MBq)	3.0×10	3.1×10	2.9×10	計 9.0×10	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	⁵⁴ Mn
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	6.8×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	5.5	3.8	4.3	計 1.4×10	Bq/cm ³
平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	⁵⁸ Co		
放出量		実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	7.1×10 ⁻³	
	不検出分 (MBq)	5.4	4.2	4.5	計 1.4×10	Bq/cm ³		

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL		
			4月	5月	6月	平均			
(注5) 原電	東海第二 発電所	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	8.2×10 ⁻³	
			不検出分 (MBq)	6.5	4.6	5.4	計 1.7×10	Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)				×	⁸⁹ Sr		
		放出量	実測分 (MBq)	(3ヶ月合成試料)				計 0	7.0×10 ⁻⁴
			不検出分 (MBq)				計 8.8×10 ⁻¹	Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)				×	⁹⁰ Sr		
		放出量	実測分 (MBq)	(3ヶ月合成試料)				計 0	5.8×10 ⁻⁵
			不検出分 (MBq)				計 1.1×10 ⁻¹	Bq/cm ³	
		J C O	廃水ポンド	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	U
放出量	実測分 (MBq)			0	0	0	計 0	7.4×10 ⁻⁴	
	不検出分 (MBq)			2.1×10 ⁻¹	2.2×10 ⁻¹	3.1×10 ⁻¹	計 7.4×10 ⁻¹	Bq/cm ³	
平均濃度 (Bq/cm ³)	×			×	×	×	Th, Pa		
放出量	実測分 (MBq)			0	0	0	計 0	1.1×10 ⁻³	
	不検出分 (MBq)			3.1×10 ⁻¹	3.2×10 ⁻¹	4.6×10 ⁻¹	計 1.1	Bq/cm ³	
(注6) 三菱 原燃	排水ポンド	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	U		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	4.0×10 ⁻⁴	
			不検出分 (MBq)	1.9	1.9	1.8	計 5.6	Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Th, Pa		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.0×10 ⁻³	
			不検出分 (MBq)	4.7	4.7	4.4	計 1.4×10	Bq/cm ³	
	排水貯槽	平均濃度 (Bq/cm ³)	×			×	U		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	4.0×10 ⁻⁴	
			不検出分 (MBq)	微	0	0	計 微	Bq/cm ³	

測定者	排水溝	項目		放出状況				分析核種 及びD L
				4月	5月	6月	平均	
(注6) 三菱原燃	排水貯槽	平均濃度 (Bq/cm ³)		×			×	Th, Pa
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.0×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	6.0×10 ⁻²	0	0	計 6.0×10 ⁻²	Bq/cm ³
(注7) N D C	排水貯槽	平均濃度 (Bq/cm ³)		3.1×10 ⁻⁴			3.1×10 ⁻⁴	¹³⁷ Cs
		放出量	実測分 (MBq)	1.2×10 ⁻²	0	0	計 1.2×10 ⁻²	2.4×10 ⁻⁴
			不検出分 (MBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		5.7×10 ⁻⁴			5.7×10 ⁻⁴	⁶⁰ Co
		放出量	実測分 (MBq)	2.3×10 ⁻²	0	0	計 2.3×10 ⁻²	1.3×10 ⁻⁴
			不検出分 (MBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×			×	⁵⁸ Co
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.4×10 ⁻⁴
			不検出分 (MBq)	微	0	0	計 微	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×			×	U
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.2×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	4.8×10 ⁻²	0	0	計 4.8×10 ⁻²	Bq/cm ³
原 燃 工	排水ポンド	平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	U
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	3.4×10 ⁻⁴
			不検出分 (MBq)	1.1×10 ⁻¹	1.1×10 ⁻¹	1.9×10 ⁻¹	計 4.1×10 ⁻¹	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	Th, Pa
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	8.4×10 ⁻⁴
			不検出分 (MBq)	2.8×10 ⁻¹	2.8×10 ⁻¹	4.7×10 ⁻¹	計 1.0	Bq/cm ³
(注8) 三菱マテリアル	排水貯槽	平均濃度 (Bq/cm ³)						U
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.2×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL
			4月	5月	6月	平均	
(注8) 三菱マテリアル	排水貯槽	平均濃度 (Bq/cm ³)					Th, Pa
		放出量 実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	4.4×10 ⁻³
		放出量 不検出分 (MBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
積水メデイカル	調整槽	平均濃度 (Bq/cm ³)	2.1	2.1	2.0	2.1	³ H
		放出量 実測分 (MBq)	2.6×10 ³	2.3×10 ³	2.9×10 ³	計 7.8×10 ³	2.0×10 ⁻²
		放出量 不検出分 (MBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)	1.2	1.2	1.3	1.2	¹⁴ C
		放出量 実測分 (MBq)	1.6×10 ³	1.3×10 ³	1.8×10 ³	計 4.7×10 ³	2.0×10 ⁻²
		放出量 不検出分 (MBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
(注9) 住友鉱山	屋外排水槽	平均濃度 (Bq/cm ³)					U
		放出量 実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	7.4×10 ⁻⁴
		放出量 不検出分 (MBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)					Th, Pa
		放出量 実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.1×10 ⁻³
		放出量 不検出分 (MBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³

(注1) 原子力機構原科研

第1：希釈倍率 1.8×10³倍。

第2：希釈倍率 8.9×10倍。

¹³⁷Csについては、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。

第3：希釈倍率 1.1×10倍。4月は排水の放出なし。

(注2) 原子力機構サイクル工研

第2：Pu(α), Uは月合成試料。6月は排水の放出なし。

(注3) 原子力機構大洗

北地区：希釈倍率 1.0×10³倍。5月は排水の放出なし。

南地区：4月は排水の放出なし。

(注4) 原子力機構那珂

貯水槽：希釈倍率 2.3×10³倍。5月、6月は排水の放出なし。

(注5) 原電

東海発電所：希釈倍率 2.8×10倍。

東海第二発電所：希釈倍率 1.8×10²倍。

³Hは月合成試料。⁸⁹Sr, ⁹⁰Srは3ヶ月合成試料。

(注6) 三菱原燃

排水貯槽：5月、6月は排水の放出なし。

(注7) NDC

排水貯槽：5月、6月は排水の放出なし。

(注8) 三菱マテリアル

排水貯槽：今期は排水の放出なし。

(注9) 住友鉱山

屋外排水槽：今期は排水の放出なし。

3-2-1' 排水中の放射性核種分析結果

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種 及びDL
			4月	5月	6月	平均	
県	原子力機構 原研 (第1)	濃度 (Bq/cm ³)	※	※	※	※	⁶⁰ Co 3.9×10 ⁻⁵ ~ 5.4×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	4.3	5.8	6.1		
	(注1) 〃 (第2)	濃度 (Bq/cm ³)	6.9×10 ⁻³	4.7×10 ⁻³	8.7×10 ⁻⁴	2.6×10 ⁻³	³ H 3.2×10 ⁻⁴ ~ 4.3×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日	4.3	5.8	6.1		
		濃度 (Bq/cm ³)	9.1×10 ⁻⁴	8.3×10 ⁻⁴	1.4×10 ⁻³		
		採水月日	4.17	5.17	6.14		
		濃度 (Bq/cm ³)	※	※	※	※	⁷ Be 3.4×10 ⁻⁴ ~ 4.7×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日	4.3	5.8	6.1		
		濃度 (Bq/cm ³)	※	※	※		
		採水月日	4.17	5.17	6.14		
		濃度 (Bq/cm ³)	※	※	※	※	⁶⁰ Co 4.0×10 ⁻⁵ ~ 5.1×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	4.3	5.8	6.1		
		濃度 (Bq/cm ³)	※	※	※		
		採水月日	4.17	5.17	6.14		
	(注2) 〃 (第3)	濃度 (Bq/cm ³)	3.4×10 ⁻⁴	6.3×10 ⁻⁵	8.1×10 ⁻⁵	1.2×10 ⁻⁴	¹³⁷ Cs 3.6×10 ⁻⁵ ~ 8.0×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	4.3	5.8	6.1		
		濃度 (Bq/cm ³)	1.7×10 ⁻⁴	※	4.2×10 ⁻⁵		
		採水月日	4.17	5.17	6.14		
	原子力機構 サイクル工研 (第2)	濃度 (Bq/cm ³)	1.9×10 ⁻⁵	1.8×10 ⁻⁵	1.2×10 ⁻⁵	1.6×10 ⁻⁵	U 2.0×10 ⁻⁶ Bq/cm ³
		採水月日	4.3	5.8	6.1		

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種 及びDL	
			4月	5月	6月	平均		
県	原子力機構 サイクル工研 (第2)	濃度 (Bq/cm ³)	1.6×10 ⁻⁵	1.1×10 ⁻⁵	4.6×10 ⁻⁵	2.4×10 ⁻⁵	Pu(α) 6.3×10 ⁻⁶ ~ 1.6×10 ⁻⁵ Bq/cm ³	
		採水月日	4.3	5.8	6.1			
	原子力機構 大洗 (北地区)	濃度 (Bq/cm ³)	5.3×10 ⁻⁴	4.3×10 ⁻⁴	4.3×10 ⁻⁴	4.6×10 ⁻⁴	³ H 3.3×10 ⁻⁴ Bq/cm ³	
		採水月日	4.3	5.8	6.1			
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co 3.8×10 ⁻⁵ ~ 5.3×10 ⁻⁵ Bq/cm ³	
		採水月日	4.3	5.8	6.1			
		濃度 (Bq/cm ³)	1.6×10 ⁻⁴	1.5×10 ⁻⁴	2.7×10 ⁻⁴	1.9×10 ⁻⁴	¹³⁷ Cs 3.9×10 ⁻⁵ ~ 5.8×10 ⁻⁵ Bq/cm ³	
		採水月日	4.3	5.8	6.1			
	原電 (東海) (注3)	濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co 6.8×10 ⁻⁵ ~ 7.6×10 ⁻⁵ Bq/cm ³	
		採水月日	4.3	5.8	6.1			
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	2.1×10 ⁻⁴	¹³⁷ Cs 2.0×10 ⁻⁴ ~ 2.1×10 ⁻⁴ Bq/cm ³	
		採水月日	4.25	5.17	6.26			
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	2.5×10 ⁻⁴			
		採水月日	4.3	5.8	6.1			
		〃 (東海第二)	濃度 (Bq/cm ³)	4.1×10 ⁻⁴	4.8×10 ⁻⁴	×	4.5×10 ⁻⁴	³ H 3.1×10 ⁻⁴ ~ 3.3×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
			採水月日	4.3	5.8	6.1		
	濃度 (Bq/cm ³)		×	8.4×10 ⁻⁴	×	×	⁵⁴ Mn 7.1×10 ⁻⁵ ~ 1.8×10 ⁻⁴ Bq/cm ³	
	採水月日		4.25	5.17	6.26			
	濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×			
	採水月日		4.3	5.8	6.1			
濃度 (Bq/cm ³)	×		×	×	×			
採水月日	4.25		5.17	6.26				

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種 及びDL
			4月	5月	6月	平均	
県	(注3) 原電 (東海第二)	濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co 7.2×10 ⁻⁵ ~ 1.0×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日	4.3	5.8	6.1		
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		
		採水月日	4.25	5.17	6.26		
		濃度 (Bq/cm ³)	2.1×10 ⁻⁴	×	×	1.5×10 ⁻⁴	¹³⁷ Cs 9.6×10 ⁻⁵ ~ 1.4×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日	4.3	5.8	6.1		
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		
		採水月日	4.25	5.17	6.26		
	JCO	濃度 (Bq/cm ³)	5.4×10 ⁻⁵	5.1×10 ⁻⁵	6.3×10 ⁻⁵	5.6×10 ⁻⁵	U 1.2×10 ⁻⁵ ~ 2.1×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	4.12	5.17	6.14		
	三菱原燃	濃度 (Bq/cm ³)	3.4×10 ⁻⁴	5.3×10 ⁻⁴	3.6×10 ⁻⁴	4.1×10 ⁻⁴	U 3.6×10 ⁻⁵ ~ 9.0×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	4.17	5.8	6.1		
	原燃工	濃度 (Bq/cm ³)	3.9×10 ⁻⁵	3.4×10 ⁻⁵	2.3×10 ⁻⁵	3.2×10 ⁻⁵	U 1.2×10 ⁻⁵ ~ 1.5×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	4.17	5.17	6.18		
	(注4) ND C	濃度 (Bq/cm ³)	6.9×10 ⁻⁴			2.3×10 ⁻⁴	⁶⁰ Co 4.6×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	4.18				
		濃度 (Bq/cm ³)	×			×	⁵⁸ Co 6.5×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	4.18				
		濃度 (Bq/cm ³)	1.7×10 ⁻⁴			5.7×10 ⁻⁵	¹³⁷ Cs 5.0×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	4.18				
積水 メデイカル	濃度 (Bq/cm ³)	1.6	1.9	1.9	1.8	³ H 1.1×10 ⁻¹ ~ 1.3×10 ⁻¹ Bq/cm ³	
	採水月日	4.3	5.8	6.1			
	濃度 (Bq/cm ³)	7.8×10 ⁻¹	8.8×10 ⁻¹	1.1	9.2×10 ⁻¹	¹⁴ C 6.3×10 ⁻² ~ 7.5×10 ⁻² Bq/cm ³	
	採水月日	4.3	5.8	6.1			

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析及びDL		
			4月	5月	6月	平均			
水戸原子力事務所	原子力機構 原科研 (第1)	濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co 7.3×10 ⁻⁵ ~ 7.4×10 ⁻⁵ Bq/cm ³		
		採水月日	4.3	5.1	6.1				
	(注1) "	(第2)	濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	³ H 4.8×10 ⁻³ ~ 5.4×10 ⁻³ Bq/cm ³	
			採水月日	4.3	5.1	6.1			
				濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁷ Be 8.0×10 ⁻⁴ ~ 8.5×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
				採水月日	4.3	5.1	6.1		
				濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	¹⁴ C 2.6×10 ⁻³ ~ 2.7×10 ⁻³ Bq/cm ³
				採水月日	4.3	5.1	6.1		
				濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co 7.1×10 ⁻⁵ ~ 7.4×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
				採水月日	4.3	5.1	6.1		
				濃度 (Bq/cm ³)	×	1.2×10 ⁻⁴	×	8.9×10 ⁻⁵	¹³⁷ Cs 6.5×10 ⁻⁵ ~ 7.3×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
				採水月日	4.3	5.1	6.1		
	(注2) "	(第3)	濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	⁶⁰ Co 6.8×10 ⁻⁵ Bq/cm ³	
			採水月日		5.16	6.20			
	(注5) 原子力機構 大洗 (北地区)		濃度 (Bq/cm ³)	7.7×10 ⁻³	×	×	5.8×10 ⁻³	³ H 4.8×10 ⁻³ ~ 4.9×10 ⁻³ Bq/cm ³	
			採水月日	4.6	5.1	6.1			
				濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co 6.5×10 ⁻⁵ ~ 7.7×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
				採水月日	4.6	5.1	6.1		
				濃度 (Bq/cm ³)	×	2.0×10 ⁻⁴	×	1.2×10 ⁻⁴	¹³⁷ Cs 6.7×10 ⁻⁵ ~ 7.3×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
				採水月日	4.6	5.1	6.1		
積水 メデイカル		濃度 (Bq/cm ³)	1.9	2.0	1.5	1.8	³ H 4.8×10 ⁻³ ~ 5.4×10 ⁻³ Bq/cm ³		
		採水月日	4.3	5.9	6.1				

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種 及びDL
			4月	5月	6月	平均	
水戸原子力事務所	積水メデイカル	濃度 (Bq/cm ³)	9.1×10 ⁻¹	8.8×10 ⁻¹	8.6×10 ⁻¹	8.8×10 ⁻¹	¹⁴ C 2.6×10 ⁻³
		採水月日	4.3	5.9	6.1		2.7×10 ⁻³ Bq/cm ³
	(注3) 原電 (東海)	濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	³ H 4.8×10 ⁻³
		採水月日	4.6	5.7	6.1		5.1×10 ⁻³ Bq/cm ³
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co 7.7×10 ⁻⁵
		採水月日	4.6	5.7	6.1		8.4×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		濃度 (Bq/cm ³)	1.2×10 ⁻⁴	×	8.7×10 ⁻⁵	9.3×10 ⁻⁵	¹³⁷ Cs 6.5×10 ⁻⁵
		採水月日	4.6	5.7	6.1		7.3×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
	(注3) 〃 (東海第二)	濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	³ H 4.8×10 ⁻³
		採水月日	4.6	5.7	6.1		5.1×10 ⁻³ Bq/cm ³
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁵⁴ Mn 1.1×10 ⁻⁴
		採水月日	4.6	5.7	6.1		1.2×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co 7.7×10 ⁻⁵
		採水月日	4.6	5.7	6.1		8.4×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	¹³⁷ Cs 7.1×10 ⁻⁵	
採水月日		4.6	5.7	6.1		8.1×10 ⁻⁵ Bq/cm ³	

- (注1) 原子力機構原科研(第2): ¹³⁷Csについては、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。
(注2) 原子力機構原科研(第3): 4月は排水の放出なし。
(注3) 原電(東海)・(東海第二): ¹³⁷Csについては、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。
(注4) NDC: 5月、6月は排水の放出なし。
(注5) 原子力機構大洗(北地区): ¹³⁷Csについては、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。

3-2-1” 排水中の放射性核種分析結果

(その他検出された核種)

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種 及びDL	
			4月	5月	6月	平均		
(注1) 原子力 機構 原科 研	第1	平均濃度 (Bq/cm ³)	/	1.6×10 ⁻⁶	/	/	¹³⁷ Cs 3.2×10 ⁻³	
		放出量(実測分) (MBq)	/	1.2×10 ⁻¹	/	計 1.2×10 ⁻¹	Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	/	1.7×10 ⁻⁷	/	/	²³² Th 3.4×10 ⁻⁴	
		放出量(実測分) (MBq)	/	1.3×10 ⁻²	/	計 1.3×10 ⁻²	Bq/cm ³	
	第2	平均濃度 (Bq/cm ³)	/	/	3.8×10 ⁻⁷	/	²² Na 3.3×10 ⁻³	
		放出量(実測分) (MBq)	/	/	7.3×10 ⁻²	計 7.3×10 ⁻²	Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	/	/	1.2×10 ⁻⁶	/	⁵⁴ Mn 2.3×10 ⁻³	
		放出量(実測分) (MBq)	/	/	2.3×10 ⁻¹	計 2.3×10 ⁻¹	Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	(3カ月合成試料)				6.2×10 ⁻⁹	⁹⁰ Sr 5.3×10 ⁻⁵
		放出量(実測分) (MBq)	(3カ月合成試料)				計 3.1×10 ⁻³	6.0×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
	第3	平均濃度 (Bq/cm ³)	/	1.3×10 ⁻¹	/	/	³ H 1.4×10 ⁻¹	
		放出量(実測分) (MBq)	/	1.1×10	/	計 1.1×10	Bq/cm ³	
(注2) 原子力機構 サイクル工 研	第1	平均濃度 (Bq/cm ³)	/	4.9×10 ⁻⁶	5.3×10 ⁻⁶	3.6×10 ⁻⁶	¹³⁴ Cs 2.6×10 ⁻⁴	
		放出量(実測分) (MBq)	/	6.1×10 ⁻²	8.0×10 ⁻²	計 1.4×10 ⁻¹	2.8×10 ⁻⁴ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	3.9×10 ⁻⁶	8.9×10 ⁻⁶	6.6×10 ⁻⁶	6.4×10 ⁻⁶	¹³⁷ Cs 3.4×10 ⁻⁴	
		放出量(実測分) (MBq)	4.4×10 ⁻²	1.1×10 ⁻¹	1.0×10 ⁻¹	計 2.5×10 ⁻¹	3.7×10 ⁻⁴ Bq/cm ³	
(注3) 原 電	東海発電所	平均濃度 (Bq/cm ³)	(3カ月合成試料)				2.0×10 ⁻⁵	⁹⁰ Sr 5.3×10 ⁻⁵
		放出量(実測分) (MBq)	(3カ月合成試料)				計 1.9×10 ⁻¹	Bq/cm ³
	東海第二 発電所	平均濃度 (Bq/cm ³)	5.7×10 ⁻⁶	/	/	/	³⁶ Cl 1.5×10 ⁻²	
		放出量(実測分) (MBq)	8.7×10 ⁻¹	/	/	計 8.7×10 ⁻¹	Bq/cm ³	

(注1) 原子力機構原科研

第1：希釈倍率1.8×10³倍。

¹³⁷Cs, ²³²Th：第4研究棟からの廃液。

第2：希釈倍率8.9×10倍。

²²Na, ⁵⁴Mn：J-PARC施設からの廃液。

⁹⁰Sr：JRR-3、放射性廃棄物処理施設からの廃液。

- 第3：希釈倍率 1.1×10 倍。
 ^3H ：核融合炉物理中性子源施設からの廃液。
- (注2) 原子力機構サイクル工研
連続採取による合成試料，希釈倍率 9.5×10 倍。
福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。
- (注3) 原 電
東海発電所：希釈倍率 2.8×10 倍，3ヶ月合成試料。
東海第二発電所：希釈倍率 1.9×10^2 倍，月合成試料。
 ^{36}Cl は雑固体減容処理設備の排ガス洗浄廃液より検出。(東海発電所の燃料被覆材及び減速材(黒鉛)中の不純物(^{35}Cl)の放射化)

参考) 排液中又は排水中の濃度限度

試験研究の用に供する原子炉等の設置、運転等に関する規則等の規定に基づき、線量限度等を定める告示
(昭和63年7月26日科学技術庁告示第20号、平成17年11月30日文部科学省告示第163号により一部改正)

核種	濃度限度 ^(注1) (Bq/cm ³)	核種	濃度限度 (Bq/cm ³)	核種	濃度限度 (Bq/cm ³)
³ H	6×10 ^(注2)	⁶⁵ Zu	2×10 ⁻¹	¹³⁴ Cs	6×10 ⁻²
⁷ Be	3×10	⁸⁷ Y	2	¹³⁷ Cs	9×10 ⁻²
¹⁴ C	2	⁸⁹ Sr	3×10 ⁻¹	¹⁴⁴ Ce	2×10 ⁻¹
²² Na	3×10 ⁻¹	⁹⁰ Sr	3×10 ⁻²	¹⁵² Eu	6×10 ⁻¹
³⁵ S	1	⁹⁵ Zr	9×10 ⁻¹	¹⁵⁴ Eu	4×10 ⁻¹
³⁶ Cl	9×10 ⁻¹	⁹⁵ Nb	1	¹⁹² Ir	6×10 ⁻¹
⁵¹ Cr	2×10	^{99m} Tc	4×10	²³² Th	4×10 ⁻³
⁵⁴ Mn	1	¹⁰³ Ru	1	²³⁴ Th	2×10 ⁻¹
⁵⁷ Co	4×10	¹⁰⁶ Ru	1×10 ⁻¹	U	2×10 ⁻²
⁵⁸ Co	1	^{110m} Ag	3×10 ⁻¹	²³⁷ Np	9×10 ⁻³
⁵⁹ Fe	4×10 ⁻¹	¹²⁹ I	9×10 ⁻³	²³⁹ Pu	4×10 ⁻³
⁶⁰ Co	2×10 ⁻¹	¹³¹ I	4×10 ⁻²	²⁴¹ Am	5×10 ⁻³

(注1) 濃度限度は3ヶ月平均濃度であり、³H以外の核種はその核種において最も低い値である。

(注2) 水としての濃度限度。有機物(メタンを除く)としての濃度限度は2×10Bq/cm³。

3-2-2 排水中の全β放射能測定結果

測定者	評価対象	判断基準
施設者	月最高濃度	2×10^{-2} Bq/cm ³
	月平均濃度	4×10^{-3} Bq/cm ³
県 水戸原子力事務所	測定毎濃度	2×10^{-2} Bq/cm ³

測定者	排水溝	項目	放出状況				主な放出核種及びDL	
			4月	5月	6月	平均		
(注1) 原子力機構原科研	第1	最高濃度 (Bq/cm ³)	2.2×10^{-4}	2.6×10^{-4}	2.3×10^{-4}		⁶⁰ Co 2.1×10^{-5}	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	※	2.0×10^{-4}	※	2.0×10^{-4}	2.9×10^{-5} Bq/cm ³	
	第2	最高濃度 (Bq/cm ³)	※	2.6×10^{-4}	※		⁶⁰ Co, ¹³⁷ Cs 2.1×10^{-5}	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	※	※	※	※	2.8×10^{-5} Bq/cm ³	
	第3	最高濃度 (Bq/cm ³)		3.2×10^{-4}	※		⁶⁰ Co 2.2×10^{-5}	
		平均濃度 (Bq/cm ³)		2.3×10^{-4}	※	2.2×10^{-4}	2.5×10^{-5} Bq/cm ³	
(注2) 原サイクル機工構研	第1	最高濃度 (Bq/cm ³)	2.3×10^{-6}	2.0×10^{-6}	1.6×10^{-5}		U 1.8×10^{-4} Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	2.3×10^{-6}	2.0×10^{-6}	5.5×10^{-6}	3.6×10^{-6}		
		放出量	実測分 (MBq)	2.6×10^{-2}	2.5×10^{-2}	8.4×10^{-2}		計 1.4×10^{-1}
			不検出分 (MBq)	0	0	0		計 0
(注3) 原大子力機構洗	北地区	最高濃度 (Bq/cm ³)	2.5×10^{-4}	3.8×10^{-4}	3.2×10^{-4}		⁶⁰ Co, ¹³⁷ Cs 2.0×10^{-4} Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	2.0×10^{-4}	2.7×10^{-4}	2.8×10^{-4}	2.5×10^{-4}		
(注4) 原那子力機構珂	貯水槽	最高濃度 (Bq/cm ³)	※				全β 3.6×10^{-3} Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	※			※		
積メデイカル水	調整槽	最高濃度 (Bq/cm ³)	3.1×10^{-4}	2.5×10^{-4}	2.8×10^{-4}		全β 2.0×10^{-4} Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	2.3×10^{-4}	2.3×10^{-4}	2.1×10^{-4}	2.2×10^{-4}		

- (注1) 原子力機構原科研
第3：4月は排水の放出なし。
福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含む。
- (注2) 原子力機構サイクル工研
希釈倍率 9.5×10 倍。連続採取による合成試料。
福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含む。
- (注3) 原子力機構大洗
福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含む。
- (注4) 原子力機構那珂
希釈倍率 2.3×10^3 倍。5月、6月は排水の放出なし。

3-2-2' 排水中の全β放射能測定結果

測定者	排水溝	項目	放出状況			
			4月	5月	6月	平均
県	原子力機構原科研 (第1)	濃度 (Bq/cm ³)	2.4×10 ⁻⁴	2.8×10 ⁻⁴	3.9×10 ⁻⁴	3.0×10 ⁻⁴
		採水月日	4.3	5.8	6.1	
	〃 (第2)	濃度 (Bq/cm ³)	3.7×10 ⁻⁴	×	2.1×10 ⁻⁴	2.5×10 ⁻⁴
		採水月日	4.3	5.8	6.1	
		濃度 (Bq/cm ³)	3.2×10 ⁻⁴	×	2.0×10 ⁻⁴	
		採水月日	4.17	5.17	6.14	
	〃 (注1) (第3)	濃度 (Bq/cm ³)		3.4×10 ⁻⁴	2.1×10 ⁻⁴	1.8×10 ⁻⁴
		採水月日		5.16	6.20	
	原子力機構サイクル工研 (第1)	濃度 (Bq/cm ³)	6.5×10 ⁻⁴	5.6×10 ⁻⁴	5.6×10 ⁻⁴	5.9×10 ⁻⁴
		採水月日	4.3	5.8	6.1	
	〃 (第2)	濃度 (Bq/cm ³)	3.3×10 ⁻⁴	4.1×10 ⁻⁴	2.8×10 ⁻⁴	3.4×10 ⁻⁴
		採水月日	4.3	5.8	6.1	
	原子力機構大洗 (北地区)	濃度 (Bq/cm ³)	2.9×10 ⁻⁴	3.6×10 ⁻⁴	4.5×10 ⁻⁴	3.7×10 ⁻⁴
		採水月日	4.3	5.8	6.1	
	三菱原燃	濃度 (Bq/cm ³)	5.4×10 ⁻⁴	6.8×10 ⁻⁴	4.9×10 ⁻⁴	5.7×10 ⁻⁴
		採水月日	4.17	5.8	6.1	
	原燃工	濃度 (Bq/cm ³)	8.5×10 ⁻⁴	8.8×10 ⁻⁴	7.1×10 ⁻⁴	8.1×10 ⁻⁴
		採水月日	4.17	5.17	6.18	
JCO	濃度 (Bq/cm ³)	8.2×10 ⁻⁴	1.1×10 ⁻³	7.5×10 ⁻⁴	8.9×10 ⁻⁴	
	採水月日	4.12	5.17	6.14		
ND C (注2)	濃度 (Bq/cm ³)	1.0×10 ⁻³			3.3×10 ⁻⁴	
	採水月日	4.8				
積水メディカル	濃度 (Bq/cm ³)	3.1×10 ⁻⁴	3.5×10 ⁻⁴	4.2×10 ⁻⁴	3.6×10 ⁻⁴	
	採水月日	4.3	5.8	6.1		
住友山 (注3)	濃度 (Bq/cm ³)					
	採水月日					

測定者	排水溝	項目	放出状況			
			4月	5月	6月	平均
水戸原子力事務所	原子力機構原科研 (第1)	濃度 (Bq/cm ³)	×	2.4×10 ⁻⁴	×	2.1×10 ⁻⁴
		採水月日	4.3	5.1	6.1	
	〃 (第2)	濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×
		採水月日	4.3	5.1	6.1	
	〃 (第3) (注1)	濃度 (Bq/cm ³)		2.7×10 ⁻⁴	×	2.4×10 ⁻⁴
		採水月日		5.16	6.20	
	原子力機構サイクル工研 (第1)	濃度 (Bq/cm ³)	5.9×10 ⁻⁴	4.8×10 ⁻⁴	5.1×10 ⁻⁴	5.3×10 ⁻⁴
		採水月日	4.3	5.7	6.1	
	原子力機構大洗 (北地区)	濃度 (Bq/cm ³)	3.5×10 ⁻⁴	4.3×10 ⁻⁴	2.7×10 ⁻⁴	3.5×10 ⁻⁴
		採水月日	4.6	5.1	6.1	
	積水メディカル	濃度 (Bq/cm ³)	×	2.5×10 ⁻⁴	3.1×10 ⁻⁴	2.5×10 ⁻⁴
		採水月日	4.3	5.9	6.1	
	三菱原燃	濃度 (Bq/cm ³)	×	3.3×10 ⁻⁴	×	2.4×10 ⁻⁴
		採水月日	4.2	5.1	6.1	
JCO	濃度 (Bq/cm ³)	2.2×10 ⁻⁴	2.4×10 ⁻⁴	2.6×10 ⁻⁴	2.4×10 ⁻⁴	
	採水月日	4.12	5.17	6.14		
原燃工	濃度 (Bq/cm ³)	5.9×10 ⁻⁴	6.3×10 ⁻⁴	3.8×10 ⁻⁴	5.3×10 ⁻⁴	
	採水月日	4.9	5.9	6.5		

(注1) 原子力機構原科研(第3): 4月は排水の放出なし。

(注2) NDC: 5月, 6月は排水の放出なし。

(注3) 住友鉱山: 今期は排水の放出なし。

3-2-3 再処理施設排水中の放射性核種分析結果

測定者	評価対象	判断基準
施設者	3ヶ月放出量	保安規定に定める3ヶ月当たりの最大放出量
県	測定毎濃度	保安規定に定める最大放出濃度

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL	
			4月	5月	6月	平均		
原子力機構サイクル工研	再処理施設	平均濃度 (Bq/cm ³)		3.0×10	6.5×10	5.4×10	³ H	
		放出量	実測分 (MBq)	0	3.5×10 ⁴	1.5×10 ⁵	計 1.9×10 ⁵	3.7
			不検出分 (MBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	⁸⁹ Sr	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	2.2×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	2.6	5.1	計 7.7	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	⁹⁰ Sr	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.1×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	1.3	2.6	計 3.9	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	⁹⁵ Zr	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	2.5×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	2.9	5.8	計 8.7	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	⁹⁵ Nb	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.8×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	2.1	4.2	計 6.3	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹⁰³ Ru	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.1×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	1.3	2.6	計 3.9	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹⁰⁶ Ru - ¹⁰⁶ Rh	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	3.2×10 ⁻²
			不検出分 (MBq)	0	3.7×10	7.4×10	計 1.1×10 ²	Bq/cm ³

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL	
			4月	5月	6月	平均		
原子力機構 サイクル 工事	再処理工	平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹²⁹ I	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.4×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	1.6	3.3	計 4.9	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹³¹ I	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.8×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	2.1	4.2	計 6.3	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹³⁴ Cs	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.1×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	1.3	2.6	計 3.9	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹³⁷ Cs	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.8×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	2.1	4.2	計 6.3	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹⁴¹ Ce	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	2.2×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	2.6	5.1	計 7.7	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹⁴⁴ Ce - ¹⁴⁴ Pr	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	2.2×10 ⁻²
			不検出分 (MBq)	0	2.6×10	5.1×10	計 7.7×10	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)			4.2×10 ⁻⁵	×	3.9×10 ⁻⁵	Pu (α)
		放出量	実測分 (MBq)	0	4.9×10 ⁻²	0	計 4.9×10 ⁻²	3.7×10 ⁻⁵
			不検出分 (MBq)	0	0	8.6×10 ⁻²	計 8.6×10 ⁻²	Bq/cm ³

(注) ⁸⁹Sr, ⁹⁰Sr, ¹²⁹I 及びPu (α) は月合成試料
4月は排水の放出なし。

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL
			4月	5月	6月	平均	
県	原子力機構 サイクル工研 (再処理施設)	濃度 (Bq/cm ³)		5.0×10	6.4×10	3.2×10	³ H 1.5×10 ⁻¹ ~ 4.7×10 ⁻¹ Bq/cm ³
		採水月日		5.24	6.11		
		濃度 (Bq/cm ³)		7.4	7.3×10		
		採水月日		5.30	6.28		
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	⁹⁵ Zr 2.1×10 ⁻⁴ ~ 2.8×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日		5.24	6.11		
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×		
		採水月日		5.30	6.28		
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	⁹⁵ Nb 1.9×10 ⁻⁴ ~ 3.3×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日		5.24	6.11		
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×		
		採水月日		5.30	6.28		
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹⁰⁶ Ru 9.5×10 ⁻⁴ ~ 1.1×10 ⁻³ Bq/cm ³
		採水月日		5.24	6.11		
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×		
		採水月日		5.30	6.28		
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹³¹ I 4.2×10 ⁻⁴ ~ 2.0×10 ⁻³ Bq/cm ³
		採水月日		5.24	6.11		
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×		
		採水月日		5.30	6.28		
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹³⁴ Cs 1.6×10 ⁻⁴ ~ 2.8×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日		5.24	6.11		
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×		
		採水月日		5.30	6.28		

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL
			4月	5月	6月	平均	
県	(注) 原子力機構 サイクル工研 (再処理施設)	濃度 (Bq/cm ³)		×	×	1.1 × 10 ⁻⁴	¹³⁷ Cs 1.2 × 10 ⁻⁴ ~ 2.7 × 10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日		5.24	6.11		
		濃度 (Bq/cm ³)		×	1.4 × 10 ⁻⁴		
		採水月日		5.30	6.28		
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹⁴⁴ Ce 6.4 × 10 ⁻⁴ ~ 8.1 × 10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日		5.24	6.11		
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×		
		採水月日		5.30	6.28		
		濃度 (Bq/cm ³)		5.7 × 10 ⁻⁵	3.4 × 10 ⁻⁵	4.0 × 10 ⁻⁵	Pu (α) 1.3 × 10 ⁻⁵ ~ 2.4 × 10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日		5.24	6.11		
		濃度 (Bq/cm ³)		1.1 × 10 ⁻⁴	3.7 × 10 ⁻⁵		
		採水月日		5.30	6.28		

(注) 4月は排水の放出なし。

参 考 法 令 値

核燃料物質の加工の事業に関する規則等の規定に基づき、線量限度等を定める告示（平成12年12月26日科学技術庁告示第13号，平成17年11月22日経済産業省告示第293号により一部改正）第9条第2～4項（再処理施設に適用）

海洋放出に起因する線量限度は3ヶ月間につき250マイクロシーベルトとするに基づき、原子力機構サイクル工研再処理施設保安規定では、次表のとおり放出の基準を定めている。

なお、本基準の「1年間の最大放出量」で放射性液体廃棄物を海洋へ放出した場合の実効線量は、年間約5.4マイクロシーベルトに相当する。また、「3ヶ月当たりの最大放出量」は、「1年間の最大放出量」の4分の1に当たる。「最大放出濃度」及び「1日当たりの最大放出量」は、これらを守るための日常の運転管理に係る基準である。

区 分	最大放出濃度 (Bq/cm ³)	1日当たりの 最大放出量 (GBq)	3ヶ月当たりの 最大放出量 (GBq)	1年間の 最大放出量 (GBq)
全α放射能	3.0×10^{-2}	1.1×10^{-2}	1.0	4.1
全β放射能 (³ Hを除く)	1.2×10	3.7	2.4×10^2	9.6×10^2
⁸⁹ Sr	(注1) 2.3×10^{-1}	(注2) 7.0×10^{-2}	4.1	1.6×10
⁹⁰ Sr	(注1) 4.8×10^{-1}	(注2) 1.4×10^{-1}	8.1	3.2×10
⁹⁵ Zr - ⁹⁵ Nb	5.9×10^{-1}	1.7×10^{-1}	1.0×10	4.1×10
¹⁰³ Ru	9.3×10^{-1}	2.7×10^{-1}	1.6×10	6.4×10
¹⁰⁶ Ru - ¹⁰⁶ Rh	7.4	2.1	1.3×10^2	5.1×10^2
¹³⁴ Cs	8.5×10^{-1}	2.5×10^{-1}	1.5×10	6.0×10
¹³⁷ Cs	7.8×10^{-1}	2.3×10^{-1}	1.4×10	5.5×10
¹⁴¹ Ce	8.1×10^{-2}	2.4×10^{-2}	1.5	5.9
¹⁴⁴ Ce - ¹⁴⁴ Pr	1.7	5.2×10^{-1}	3.0×10	1.2×10^2
³ H	2.5×10^4	7.4×10^3	4.7×10^5	1.9×10^6
¹²⁹ I	(注1) 3.7×10^{-1}	(注2) 1.1×10^{-1}	6.7	2.7×10
¹³¹ I	1.6	5.2×10^{-1}	3.0×10	1.2×10^2
Pu (α)	(注1) 3.0×10^{-2}	(注2) 1.1×10^{-2}	5.9×10^{-1}	2.3

(注1) 1ヶ月平均1日最大放出濃度

(注2) 1ヶ月平均1日最大放出量

3-2-4 再処理施設排水中の全β放射能測定結果

測定者	評価対象	再処理排水に係わる低減化目標値
施設者	月最高濃度	10 Bq/cm ³
	月平均濃度	4 Bq/cm ³
県	測定毎濃度	10 Bq/cm ³

測定者	排水溝	項目	放出状況				主な放出核種及びDL
			4月	5月	6月	平均	
原子力機構 サイクル工研	再処理施設	最高濃度 (Bq/cm ³)		×	×		2.2×10 ⁻² Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	
		放出量 実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	
		不検出分 (MBq)	0	2.6×10	5.1×10	計 7.7×10	

(注) 4月は排水の放出なし。

3-2-4' 再処理施設排水中の全β放射能測定結果

測定者	排水溝	項目	放出状況			
			4月	5月	6月	平均
県	原子力機構 サイクル工研 (再処理施設)	濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×
		採水月日		5.24	6.11	
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×	
		採水月日		5.30	6.28	

(注) 4月は排水の放出なし。

3-2-5 排水中の全γ放射能連続測定結果

測定者	排水溝	項目		放出状況			
				4月	5月	6月	平均
県	原子力機構 原科研 (第2)	降雨時	最高濃度 (Bq/cm ³)	1.2×10 ⁻¹	1.8×10 ⁻¹	4.8×10 ⁻²	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	2.4×10 ⁻²	×	2.1×10 ⁻²
		降雨時以外	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×
	原子力機構 サイクル工研 (再処理施設)	排水期 時間	最高濃度 (Bq/cm ³)		×	×	
			平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×
	原子力機構 大洗 (北地区)	降雨時	最高濃度 (Bq/cm ³)	9.1×10 ⁻²	1.4×10 ⁻¹	8.1×10 ⁻²	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	8.0×10 ⁻²	8.0×10 ⁻²	7.4×10 ⁻²	7.8×10 ⁻²
		降雨時以外	最高濃度 (Bq/cm ³)	8.5×10 ⁻²	9.4×10 ⁻²	7.9×10 ⁻²	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	8.0×10 ⁻²	7.6×10 ⁻²	7.4×10 ⁻²	7.7×10 ⁻²
	原電 (東海第二)	降雨時	最高濃度 (Bq/cm ³)	1.5×10 ⁻²	2.8×10 ⁻²	×	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	1.1×10 ⁻²	1.4×10 ⁻²	×	1.2×10 ⁻²
降雨時以外		最高濃度 (Bq/cm ³)	1.4×10 ⁻²	2.2×10 ⁻²	×		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	1.7×10 ⁻²	×	1.2×10 ⁻²	

(注1) 原子力機構サイクル工研：4月は排水の放出なし。

(注2) 測定値は、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含む。

平成24年度第1 四半期における排水から検出された核種を福島第一原子力発電所事故起因とする理由
(排水)

事業所名	排水溝名	福島第一原発事故 起因とする核種名	福島第一原発事故起因とする（各事業所起因でない）理由
原子力機構 原子科 研	第2排水溝 (JRR-3からの排水)	^{137}Cs	○施設定期自主検査中であり、原子炉の運転は実施していない。 ○地震以降、燃料要素の破損など ^{137}Cs が検出されるような異常は確認されていない。
原子力機構 サイクル工研	第1排水溝 (プルトニウム燃料第二開発室、プル ルトニウム燃料第三開発室、安全 管理棟、ウラン焼却施設、ウラン 系廃棄物貯蔵施設、洗濯場)	^{134}Cs , ^{137}Cs	○プルトニウム燃料第二開発室、プルトニウム燃料第三開発室、ウラン焼却施設、ウラン系廃棄物貯蔵 施設、洗濯場は ^{134}Cs , ^{137}Cs の使用許可を取っておらず、使用実績もない。 ○安全管理棟は本四半期における、 ^{134}Cs , ^{137}Cs の使用実績はない。
原子力機構 大 洗	北地区 (JMTR, HTTR, 常陽, FMF)	^{137}Cs	(JMTR, HTTR及び常陽) ○それぞれの原子炉は、施設定期検査中であり、放射性物質の放出を伴う運転等は実施されていない。 (FMF) ○燃料ピン切断作業やピンパンクチャー試験等の放出に伴う運転は実施されなかった。 (全施設共通) ○管理区域からの排水については、 ^3H 以外は検出されていない。 ○主要核種である ^{60}Co が検出されていない。
原 電	東海発電所	^{137}Cs	○廃止措置中であり、全燃料が取り出されている。 ○放射性物質の所外放出を伴うような設備の損傷はない。 ○ ^{60}Co 等の放射化生成物は放出前の排水測定において検出されていない。
	東海第二発電所	^{137}Cs	○東北地方太平洋沖地震により停止し、5月21日から第25回定期検査中である。 ○放射性物質の所外放出を伴うような設備の損傷はない。 ○ ^{60}Co 等の放射化生成物は放出前の排水測定において検出されていない。

参考 1 原子力機構再処理施設排水環境影響詳細調査結果

1. 調査目的

再処理施設低レベル廃液の海洋放出に伴う放出口周辺海域における放射能水準の変動を詳細に把握するため、放出口を中心とした一定海域について海水の放射性物質濃度の調査を行う。

2. 調査方法

放出口周辺、東西 3 km、南北10kmの海域において表層30地点で採水し、全 β 放射能（30地点）、トリチウム（30地点）、 ^{137}Cs （7地点）について分析する。

本調査は、原則として毎月上旬に定期的を実施する他、排水中の全 β 放射能濃度が、 $6.11\text{Bq}/\text{cm}^3$ を超えた場合に実施する。

3. 調査結果

当期の調査は、4月9日、5月14日及び6月18日に実施した。

その結果、上記海域の海水中放射性物質濃度の平均値は、全 β 放射能について $0.041\text{Bq}/\text{L}$ 、トリチウムについて検出限界値（ $40\text{Bq}/\text{L}$ ）未満、 ^{137}Cs について $0.064\text{Bq}/\text{L}$ であった。なお、放出排水の全 β 放射能濃度が、 $6.11\text{Bq}/\text{cm}^3$ を超えることはなかった。

なお、福島第一原子力発電所事故の放射性物質放出の影響により、全 β 放射能及び ^{137}Cs が検出された。

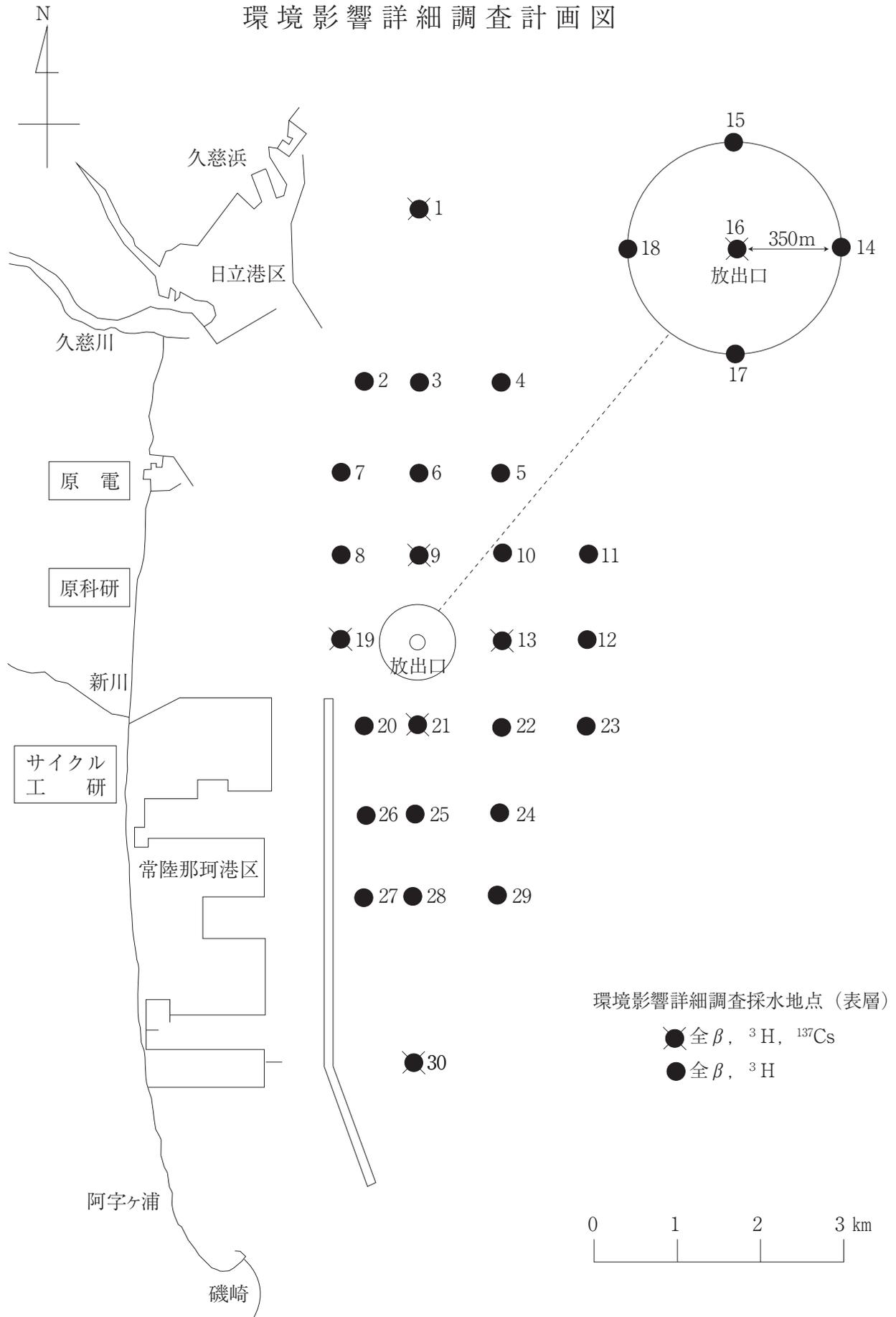
採水地点別濃度 (3ヶ月平均値)

採水地点	全β放射能	トリチウム	¹³⁷ Cs
	(Bq/L)	(Bq/L)	(Bq/L)
1	×	×	0.066
2	×	×	
3	×	×	
4	×	×	
5	×	×	
6	×	×	
7	×	×	
8	×	×	
9	×	×	0.062
10	×	×	
11	×	×	
12	×	×	
13	×	×	0.063
19	×	×	0.063
20	×	×	
21	×	×	0.073
22	×	×	
23	×	×	
24	×	×	
25	0.041	×	
26	0.040	×	
27	×	×	
28	×	×	
29	×	×	
30	×	×	0.063
放出点	0.046	×	0.059

注1. 検出限界値：全β放射能 0.04 Bq/L
 トリチウム 40 Bq/L

2. 放出点：放出口周辺5地点(14~18)の平均値

環境影響詳細調査計画図



環境影響詳細調査採水地点（表層）

- 全β, ³H, ¹³⁷Cs
- 全β, ³H



参考2 主要施設運転状況

事業所名	施設名	4月	5月	6月
(注1) 原子力機構 原科研	J R R - 2	残存施設の維持管理		
	J R R - 3	施設定期検査		
(注2) 原子力機構 サイクル工研	再処理施設	施設定期検査		
(注3) 原子力機構 大洗	J M T R	施設定期検査		
	H T T R	施設定期検査		
	高速実験炉 「常陽」	施設定期検査		
(注4) 原電	東海発電所	廃止措置		
	東海第二発電所	第25回定期検査		

- (注1) 原子力機構原科研
 J R R - 2 : 平成8年12月19日に共同利用運転を終了し解体工事に着手。原子炉本体を密封するとともに周辺機器の撤去を終了し、平成16年4月より残存施設の維持管理中。
 J R R - 3 : 施設定期検査(平成22年11月20日から受検)
- (注2) 原子力機構サイクル工研
 再処理施設: 施設定期検査(平成19年7月30日から受検)
- (注3) 原子力機構大洗
 J M T R : 施設定期検査(平成18年9月1日から受検)
 H T T R : 施設定期検査(平成23年2月1日から受検)
 高速実験炉「常陽」: 施設定期検査(平成19年5月15日から受検)
- (注4) 原電
 東海発電所: 平成10年3月31日 発電(運転)停止
 平成13年12月4日 廃止措置着手
 東海第二発電所: 平成23年5月21日 第25回定期検査開始

再処理施設処理状況（せん断処理について記載）

処 理 期 間	対 象 発 電 所 名	炉 型 式 (PWR, BWR又はATR)	処 理 量 (T)	平 均 燃 焼 度 (MWD/T)	冷 却 日 数 (年)
計					

第161報（平成24年度第2四半期環境放射線監視結果）

I 監視結果の評価

茨城県環境放射線監視計画に基づく監視結果は下記のとおりである。

記

1 短期的変動調査結果（平成24年7月～平成24年9月）

福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、一部の空間ガンマ線量率が平常の変動幅を上回った。また、同様に、大気塵埃及び降下塵から¹³⁷Csなどの放射性核種が検出された。

さらに、原子力施設の排水からも、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による放射性核種が検出された。

なお、これらについては、県内原子力施設からの影響ではない。

2 長期的変動調査結果（平成24年4月～平成24年9月）

福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、サーベイ（空間ガンマ線量率）の測定結果が事故前の測定値を上回り、積算線量の測定結果も平常の変動幅を上回った。また、同様に、土壌、飲料水、海水、海底土などから¹³⁷Csなどの放射性核種が検出された。

Ⅱ 監視結果の概要

Ⅱ－１ 短期的変動調査結果

評価対象期間：平成24年7月から平成24年9月

短期的変動調査は、原子力施設から平常稼働時に放出される放射性物質の他に、事故等により環境へ放出される放射線・放射性物質の有無や環境への影響の有無を早期に把握するために行っている。

なお、空間ガンマ線量率、大気塵埃、降下塵などの測定結果において、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響が見られた。

1 環境における測定結果

1－1 空間ガンマ線量率測定結果（86～94ページ）

空間の放射線（ガンマ線）の測定は、76地点のモニタリングステーション、モニタリングポストにおいて行っている。評価の対象となっている月平均値は、52nGy/時～390nGy/時の間にあり、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、76地点中28地点において平常の変動幅（上限値：100nGy/時）を上回った。

なお、1時間値の最大値（原子力機構原科研測定周辺の監視区域境界（MP-19）：7月1日）は400nGy/時であった。

一般環境（事業所周辺監視区域境界及び敷地内を除く）

（単位：nGy/時）

地区名	月平均値	1時間値の最大値	事故前1時間値の最大値（平成22年度）	事故後1時間値の最大値
東海地区 <21> （東海村，那珂市，常陸大宮市）	53～110	130（亀下：7月5日）	80（亀下：11月）	3,600（豊岡：平成23年3月15日）
日立地区 <6> （日立市，常陸太田市）	52～120	130（久慈：7月5日，8月7日，9月6日）	73（磯部：11月）	3,900（久慈：平成23年3月15日）
ひたちなか地区 <8> （ひたちなか市）	67～120	150（常陸那珂：8月7日）	78（馬渡：7月）	3,700（堀口：平成23年3月15日）
大洗地区 <15> （大洗町，銚田市，茨城町，水戸市（大場，吉沢））	55～120	130（成田（P-4）：7月14日，8月7日，9月1日，6日，23日）	71（荒地：12月）	3,100（広浦：平成23年3月15日）
比較対照地区 <1> （水戸市石川）	70～71	83（9月22日）	72（7月）	1,500（平成23年3月15日）

注） < >内は地点数

地区名	月平均値	1時間値の最大値	事故前1時間値の最大値(平成22年度)	事故後1時間値の最大値
東海地区 <14> (原子力機構原科研, 原子力機構サイクル工研, 原電)	注2) 88~390	400(原科研MP-19: 7月1日)	77(サイクル工研 MP-8:7月)	5,200(原科研MP-19: 平成23年3月15日)
大洗地区 <11> (原子力機構大洗)	注2) 82~290	300(P-11:8月7日)	69(P-6:7月)	3,100(P-11, P-12: 平成23年3月21日)

注1) < >内は地点数

注2) 福島第一原子力発電所事故の影響により, 松林等が存在している場所では, 空間ガンマ線量率が高くなる。

1-2 大気中放射能測定結果

1-2-1 大気塵埃中の放射性核種分析結果(95~97ページ)

東海村村松など15地点(東海村6地点, ひたちなか市3地点, 日立市1地点, 鉾田市1地点, 茨城町1地点, 大洗町2地点, 水戸市1地点)において測定した結果, 福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により, ^{134}Cs が12地点で, ^{137}Cs が全地点で検出された。

(単位：mBq/m³)

検出核種	分析値	事故前の最高値 ^{注)}	事故後の最高値
^{134}Cs	<0.1 ~ 2.9	<0.1	2,800(ひたちなか市長砂;平成23年3月)
^{137}Cs	<0.1 ~ 5.3	<0.1	3,800(東海村村松;平成23年3月)

注) 平成元年以降の最高値。なお, JCO臨界事故時のデータを除く。(以下, 同様)

1-2-2 降下塵中の放射性核種分析結果(98ページ)

水戸市愛宕町など3地点において測定した結果, 福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により, ^{134}Cs , ^{137}Cs が全地点で検出された。

(単位：Bq/m³)

検出核種	分析値	事故前の最高値	事故後の最高値
^{134}Cs	3.6 ~ 17	<0.4	25,000(原子力機構大洗構内;平成23年3月)
^{137}Cs	5.2 ~ 25	<0.4	27,000(原子力機構大洗構内;平成23年3月)

1-3 農畜産物中の放射能測定結果

1-3-1 牛乳(原乳)中の放射性核種分析結果(^{131}I)(99ページ)

茨城県央クーラーステーションなど2地点における測定結果は, 全て不検出であった。

1-4 海洋における放射能測定結果

1-4-1 海水中の放射性核種分析結果(^3H)(99ページ)

久慈沖(A)など12海域における測定結果は, 全て不検出であった。

2 主な原子力施設の敷地内における測定結果

2-1 空間ガンマ線量率測定結果(100~101ページ)

評価対象としている月平均値は, 東海地区(原子力機構サイクル工研)が81nGy/時から85nGy/時,

大洗地区（原子力機構大洗）が110nGy/時であり、大洗地区は、平常の変動幅（上限値:100nGy/時）を上回った。

なお、1時間値の最大値（原子力機構大洗測定のパ - 8：7月、8月）は、130nGy/時であった。
（単位：nGy/時）

地区名	月平均値	1時間値の最大値	事故前1時間値の最大値（平成22年度）	事故後1時間値の最大値
東海地区 <1> （原子力機構サイクル工研）	81~85	97（7月5日、8月7日）	52（7月）	4,000（平成23年3月15日）
大洗地区 <1> （原子力機構大洗）	110	130（7月14日、8月7日）	63（1月）	2,900（平成23年3月15日）

注1） < >内は地点数

2-2 大気中放射能測定結果

2-2-1 大気塵埃中の放射性核種分析結果（101ページ）

原子力機構原科研など3地点において測定した結果、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、原子力機構サイクル工研及び原子力機構大洗から、 ^{134}Cs 、 ^{137}Cs が2地点で検出された。

（単位：mBq/m³）

検出核種	分析値	事故前の最高値	事故後の最高値
^{134}Cs	<0.1 ~ 0.24	<0.1	2,300（原子力機構大洗；平成23年3月）
^{137}Cs	<0.1 ~ 0.39	<0.1	2,400（原子力機構大洗；平成23年3月）

3 放出源における測定結果

3-1 排気中の放射能測定結果

排気中に含まれる放射性物質については、原子力事業者が放射性核種分析、全ベータ放射能測定、全アルファ放射能測定を行っている。

主要放出核種の放射性核種分析結果は、過去のレベル又はそれ以下であった。全ベータ放射能及び全アルファ放射能については不検出であった。

3-1-1 放射性核種分析結果（主要放出核種）（102~112ページ）

測定対象の42排気筒のうち、今期に放出のなかった5排気筒を除いた原子力機構原科研 J R R - 3、原子力機構サイクル工研再処理施設の主排気筒など37排気筒において希ガス（ ^{41}Ar 、 ^{85}Kr など）、 ^3H など各施設の放出核種を測定したところ、下記の7排気筒で検出されたが、過去と同レベル又はそれ以下であった。

(検出状況)

(単位：Bq/cm³)

測定者	施設名	核種名	3ヶ月平均濃度	3ヶ月平均濃度 過去最大値	参考管理目標値
原子力機構 原科 研	JRR-3 燃料試験施設	³ H	4.5×10 ⁻⁵	5.3×10 ⁻⁴	6.0×10 ⁻³
		希ガス	7.5×10 ⁻³	1.4×10 ⁻²	7.8×10 ⁻²
原子力機構 サイクル工研	再処理施設・主排気筒	³ H	1.5×10 ⁻⁴	2.6×10 ⁻³	2.4×10 ⁻¹
積 水 メ ディ カ ル	第4棟排気筒	³ H	1.9×10 ⁻⁵	2.2×10 ⁻⁵	7.4×10 ⁻⁴
		¹⁴ C	4.3×10 ⁻⁶	2.3×10 ⁻⁵	1.6×10 ⁻⁴
N D C	照射後試験棟 (F棟) 化学分析棟 (R棟)	希ガス	2.0×10 ⁻³	3.2×10 ⁻³	4.8×10 ⁻³
		¹³¹ I	1.8×10 ⁻⁹	2.1×10 ⁻⁸	7.4×10 ⁻⁸
日 本 核 燃	照射後試験施設	希ガス	9.7×10 ⁻⁴	5.0×10 ⁻³	5.2×10 ⁻³

注) 検出された核種のみ記載

3-1-1' 放射性核種分析結果 (その他検出された核種) (113ページ)

原電東海発電所など2排気筒で³Hが検出されたが、過去と同じレベル又はそれ以下であった。

3-1-2, 3-1-2' 全ベータ放射能測定結果 (114~116ページ)

NDC材料試験棟及び原子力機構原科研JRR-3など22排気筒において測定した結果は、いずれも不検出であった。

3-1-3 全アルファ放射能測定結果 (117ページ)

核管センター開発棟など4排気筒において測定した結果は、いずれも不検出であった。

3-2 排水中の放射能測定結果

排水中に含まれる放射性物質の測定は、放射性核種分析、全ベータ放射能測定、再処理施設排水中の放射性核種分析、再処理施設排水中の全ベータ放射能測定、排水中の全ガンマ放射能測定によって行っている。

福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、¹³⁷Cs及び全ガンマ放射能が検出された。

3-2-1 放射性核種分析結果 (主要放出核種) (118~123ページ)

原子力事業者は、原子力機構原科研第1排水溝、原子力機構サイクル工研第2排水溝など17排水溝において⁶⁰Coなどの核種を測定している。下記の5排水溝で検出されたが、全て法令値(130ページ)以下であった。

なお、原子力機構原科研第2排水溝において検出された¹³⁷Csは福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含む。

(検出状況)

(単位：Bq/cm³)

測定者	排水溝名	核種名	3ヶ月平均濃度	法令値	3ヶ月平均濃度 ／法令値
原子力機構 原科 研	第2排水溝	³ H	1.1×10 ⁻¹	6×10 ⁻¹ *1)	1/550
		⁷ Be	9.3×10 ⁻⁵	3×10	1/320,000
		¹⁴ C	7.3×10 ⁻⁴	2	1/2,700
		⁶⁰ Co	2.4×10 ⁻⁵	2×10 ⁻¹	1/8,300
		¹³⁷ Cs *2)	2.7×10 ⁻⁵	9×10 ⁻²	1/3,300
原子力機構 大 洗	北地区	³ H	6.9×10 ⁻³	6×10 ⁻¹ *1)	1/8,700
原 電	東海第二発電所	³ H	4.5×10 ⁻²	6×10 ⁻¹ *1)	1/1,300
N D C	排水貯槽	¹³⁷ Cs	3.4×10 ⁻⁴	9×10 ⁻²	1/260
積水メディカル	調整槽	³ H	1.4	2×10 ⁻¹ *3)	1/14
		¹⁴ C	1.1	2	1/1.8

注) 検出された核種のみ記載。

* 1) 水としての法令値

* 2) ¹³⁷Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含む。

* 3) 有機物(メタンを除く)としての法令値

3-2-1' 放射性核種分析結果(主要放出核種)(124~128ページ)

県は原子力機構原科第1排水溝など12排水溝で測定している。原子力機構原科第2排水溝など10排水溝で³H, ¹⁴C, ⁶⁰Co, ¹³⁷Cs, またはUの5核種が検出されたが、いずれも法令値以下であった。

また、水戸原子力事務所は原子力機構原科第1排水溝など7排水溝で測定している。原子力機構原科第2排水溝など5排水溝で³H, ¹⁴Cまたは¹³⁷Csの3核種が検出されたが、いずれも法令値以下であった。

なお、原子力機構原科第2排水溝、原子力機構大洗北地区、原電東海発電所及び原電東海第二発電所において検出された¹³⁷Csは福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響である。

3-2-1'' 放射性核種分析結果(その他検出された核種)(129ページ)

原子力事業者が測定した上記17排水溝において、主要放出核種以外の核種として原子力機構原科第1排水溝など4排水溝で、²²Na, ³⁶Cl, ⁵⁴Mn, ⁹⁰Sr及び²³²Thの5核種が検出されたが、いずれも法令値以下であった。

3-2-2, 3-2-2' 全ベータ放射能測定結果(131~133ページ)

原子力事業者、県などは原子力機構原科第1排水溝及び原子力機構サイクル工研第1排水溝など13排水溝において測定している。原子力機構サイクル工研第1排水溝等の12排水溝で検出されたが、監視委員会が定めた判断基準を全て下回っていた。

3-2-3 再処理施設排水中の放射性核種分析結果(134~137ページ)

原子力機構サイクル工研が³Hなど14核種について分析した結果、³H及びPu(α)が検出されたが、法令値(138ページ)以下であった。

また、県が³Hなど9核種について測定した結果、³H及びPu(α)の2核種が検出されたが、いずれも法令値以下であった。

(検出状況)

(単位：MBq)

測定者	排水溝名	核種名	3ヶ月放出量	法令値	3ヶ月放出量 ／法令値
原子力機構 サイクル工研	再処理施設	^3H	1.7×10^5	4.7×10^8	1/2,800
		$\text{Pu}(\alpha)$	4.1×10^{-2}	5.9×10^2	1/14,000

備考 県の測定では、 ^3H 及び $\text{Pu}(\alpha)$ を検出。3ヶ月間の最大濃度はそれぞれ 4.8×10 、 $2.4 \times 10^{-5} \text{Bq/cm}^3$ であり、参考として法令（保安規定）に定める最大放出濃度（それぞれ 2.5×10^4 、 $3.0 \times 10^{-2} \text{Bq/cm}^3$ ）と比較すると、それぞれ1/520、1/1,200 以下であった。

3-2-4 再処理施設排水中の全ベータ放射能測定結果（139ページ）

原子力機構サイクル工研，県測定とも，不検出であった。

3-2-5 排水中の全ガンマ放射能連続測定結果（140ページ）

原子力機構原科研第2排水溝などの4排水溝で測定したところ，福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により，3排水溝で検出された。

II-2 長期的変動調査結果

評価対象期間：平成24年4月から平成24年9月

長期的変動調査は、原子力施設からの放射性物質の影響による周辺環境における放射線と放射性物質のレベル、蓄積傾向及び地域分布の状況などの長期的変動の有無を把握するために行っている。

なお、サーベイ、積算線量、土壌などの測定結果において、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響が見られた。

1 環境における測定結果

1-1 空間ガンマ線量率測定結果

1-1-1 サーベイ結果（142～146ページ）

福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、全ての地点で事故前の測定値を上回った。

（単位：nGy/時）

測定地点	地点数	測定値	事故前の最高値 (平成22年度)	事故後の最高値 ^{注2)}
東海地区	36	56 ～ 370	47	
大洗地区	18	62 ～ 180	64	
比較対照地区	2	75 ～ 140	40	

注1) 福島第一原子力発電所事故の影響により、樹木等が多く存在している場所では、サーベイ（空間ガンマ線量率）が高くなる傾向にある。

注2) 事故後は県内全域の特別調査を実施しており、同地点における平成23年度の測定結果（最高値）はない。

1-1-2 積算線量測定結果（147～155ページ）

福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、全ての地点で平常の変動幅の上限を上回った。

（検出状況）

（単位：mGy/6ヶ月）

		地点数	測定値	事故前最高値 (平成22年度上期)	事故後最高値 (平成23年度上期)
行政区域	東海地区	65	47	0.26 ～ 0.98	0.22
	大洗地区		15	0.30 ～ 0.94	0.18
	比較対照地区		3	0.36 ～ 0.46	0.17
施設境界	東海地区	28	20	0.31 ～ 2.6	0.22
	大洗地区		8	0.58 ～ 2.8	0.13

注) 福島第一原子力発電所事故の影響により、樹木等が多く存在している場所では、積算線量が高くなる傾向にある。

1-2 漁網表面吸収線量率の測定結果（156ページ）

東海沖において43時間曳航し、測定した結果は、不検出であった。

1-3 大気中の放射能測定結果

1-3-1 降下塵中の放射性核種分析結果 (156~158ページ)

水戸市愛宕町など3地点で採取、分析した結果、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、 ^{134}Cs 、 ^{137}Cs が全地点で検出された。

(検出状況) (単位：Bq/m²)

検出核種	分析値	事故前の最高値	事故後の最高値
^{134}Cs	3.6 ~ 29	<0.4	25,000 (原子力機構大洗;平成23年3月)
^{137}Cs	5.2 ~ 48	<0.4	27,000 (原子力機構大洗内;平成23年3月)

1-4 陸土中の放射能測定結果

1-4-1 土壌中の放射性核種分析結果 (159ページ)

水戸市見川など8地点で採取、分析した結果、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、 ^{134}Cs 、 ^{137}Cs が全地点で、 $^{110\text{m}}\text{Ag}$ が2地点で検出された。

(検出状況) (単位：Bq/kg・乾)

検出核種	分析値	事故前の最高値	事故後の最高値 ^{注)}
^{134}Cs	85 ~ 860	<1	
^{137}Cs	86 ~ 1,200	510 (常陸那珂;平成元年度)	

注) 事故後は県内全域の特別調査を実施しており、同地点における平成23年度の測定結果(最高値)はない。

1-4-2 河底土中の放射性核種分析結果 (159ページ)

東海村新川河口で採取、分析した結果、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、 ^{134}Cs 、 ^{137}Cs が検出された。

(検出状況) (単位：Bq/kg・乾)

検出核種	分析値	事故前の最高値	事故後の最高値
^{134}Cs	31	<1	120 (東海村新川河口;平成23年6月)
^{137}Cs	44	15 (東海村新川河口;平成2年度)	140 (東海村新川河口;平成23年6月)

1-4-3 海岸砂中の放射性核種分析結果 (159ページ)

大洗町大貫など3地点で採取、分析した結果、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、 ^{134}Cs 、 ^{137}Cs が全地点で検出された。

(検出状況) (単位：Bq/kg・乾)

検出核種	分析値	事故前の最高値	事故後の最高値
^{134}Cs	3.0 ~ 5.4	<1	48 (日立市久慈;平成23年7月)
^{137}Cs	4.8 ~ 8.3	0.57 (大洗町大貫;平成4年度)	53 (日立市久慈;平成23年7月)

1-5 陸水中の放射能測定結果

1-5-1 河川水及び湖沼水中の放射性核種分析結果 (160ページ)

那珂川下流など7地点で採取、分析した結果、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、 ^{134}Cs 、 ^{137}Cs が全地点で検出された。

(検出状況) (単位：Bq/L)

検出核種	分析値 ^{注)}	事故前の最高値	事故後の最高値
^{134}Cs	0.014 ~ 0.036	<0.004	0.42 (酒沼 (北松川);平成23年6月)
^{137}Cs	0.010 ~ 0.046	<0.004	0.49 (那珂川下流;平成23年6月)

注) 福島第一原子力発電所事故を踏まえて実施している測定では、河川水等をそのまま測定しているため、検出限界値が約0.5Bq/L未満となっているが、本測定では蒸発乾固して測定しているため、検出限界値が0.004Bq/L未満となっている。

1-5-2 飲料水中の放射性核種分析結果 (160ページ)

水戸市愛宕町など10地点で採取、測定した結果、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、 ^{134}Cs 、 ^{137}Cs が4地点で検出された。

(検出状況) (単位：Bq/L)

検出核種	分析値 ^{注1)}	事故前の最高値	事故後の最高値 ^{注2)}
^{134}Cs	<0.004 ~ 0.012	<0.004	
^{137}Cs	<0.004 ~ 0.016	<0.004	

注1) 福島第一原子力発電所事故を踏まえて実施している測定では、飲料水等をそのまま測定しているため、検出限界値が約0.5Bq/Lとなっているが、本測定では蒸発乾固して測定しているため、検出限界値が0.004Bq/Lとなっている。なお、この測定結果は、国が定める飲料水の基準値 (10Bq/L) を十分に下回っている。

注2) 事故後は県内全域の特別調査を実施しており、同地点における平成23年度の測定結果 (最高値) はない。

1-6 海洋における放射能測定結果

1-6-1 海水中の放射性核種分析結果 (161ページ)

久慈沖 (A) など12海域で採取、分析した結果、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、 ^{134}Cs 、 ^{137}Cs が全海域で検出された。

(検出状況) (単位：Bq/L)

検出核種	分析値	事故前の最高値	事故後の最高値 ^{注)}
^{134}Cs	0.0063 ~ 0.031	<0.004	
^{137}Cs	0.0096 ~ 0.040	0.0048 (久慈沖;平成元年)	

注) 事故後は県内全域の特別調査を実施しており、同地点における平成23年度の測定結果 (最高値) はない。

1-6-2 海底土中の放射性核種分析結果 (162~164ページ)

久慈沖 (A) など12海域で採取、分析した (ただしPu分析は9海域) 結果、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、 ^{134}Cs 、 ^{137}Cs が全海域で検出された。また、Puが9海域で検出されたが、過去のレベルと同程度であった。

(検出状況) (単位：Bq/kg・乾)

検出核種	分析値	事故前の最高値	事故後の最高値
^{134}Cs	5.0 ~ 220	<0.4	110 (再処理排水放出口周辺;平成23年7月)
^{137}Cs	7.7 ~ 320	4.7 (再処理排水放出口周辺;平成3年)	530 (サイクル工研沖;平成24年2月)
Pu	0.22 ~ 0.57	1.8 (阿字ヶ浦沖;平成3年)	1.3 (サイクル工研沖;平成24年2月)

1-7 排水口近辺土砂中の放射性核種分析結果 (165ページ)

原子力機構原科研第1排水口付近など7地点において採取、分析した結果、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、 ^{134}Cs 、 ^{137}Cs が6地点で検出された。

(検出状況) (単位：Bq/kg・乾)

検出核種	分析値	事故前の最高値	事故後の最高値
^{134}Cs	1.2 ~ 2.8	<1	30 (原子力機構大洗;平成23年7月)
^{137}Cs	2.7 ~ 4.7	<1	34 (原子力機構大洗;平成23年7月)

2 敷地内における測定結果

2-1 空間ガンマ線量測定結果

2-1-1 積算線量測定結果 (166ページ)

敷地内における積算線量の測定結果は、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により平常の変動幅の上限を上回った。

(単位：mGy/6ヶ月)

測定地点	測定値	平常の変動幅 (上限)	事故前の最高値 (平成22年度上期)	事故後の最高値 (平成23年度上期)
原子力機構原科研 MS-1	1.2	0.19	0.17	1.7

注) 福島第一原子力発電所事故の影響により、樹木等が多く存在している場所では、積算線量が高くなる傾向にある。

参考 1

原子力機構再処理施設排水環境影響詳細調査結果（167～168ページ）

本調査は、原子力機構サイクル工研が、再処理施設の低レベル放射性廃液の海洋放出に伴う放出口周辺海域における放射能水準の変動を詳細に把握するために毎月実施しているものであり、放出口を中心とした30地点で海水を採取し、全地点で全ベータ放射能及び³H濃度、7地点で¹³⁷Cs濃度の測定を行っている。

調査の結果、放射性物質濃度の平均値は、全ベータ放射能について0.040Bq/Lであり、³Hについて検出限界値未満、¹³⁷Csについて0.031 Bq/Lであった。検出された全ベータ放射能、¹³⁷Csは福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含む。

（測定結果）

区 分	地点数	分 析 値
海水の全ベータ放射能	30	0.040Bq/L
海水中の ³ H分析	30	不検出
海水中の ¹³⁷ Cs分析	7	0.031Bq/L

Ⅲ 測 定 結 果

Ⅲ－１ 短期的変動調査結果

１ 環境における測定結果

１－１ 空間γ線量率測定結果

１－１－１ モニタリングステーション

測 定 者	評 価 対 象	平常の変動幅（上限）
県 施 設 者	月 平 均 値	100nGy/時

測 定 者	測 定 地 点	測 定 値 (nGy/時)				
		種 別	7 月	8 月	9 月	平 均
県	東 海 村 石 神	最 大	100	97	96	
		平 均	85	83	82	83
	〃 豊 岡	最 大	99	98	95	
		平 均	83	82	80	82
	〃 舟 石 川	最 大	91	90	89	
		平 均	75	75	75	75
	〃 押 延	最 大	84	83	83	
		平 均	68	68	66	67
	〃 村 松	最 大	98	100	95	
		平 均	84	83	81	83
	〃 三 菱 原 燃	最 大	77	70	73	
		平 均	58	58	57	58
	〃 原 燃 工	最 大	99	99	98	
		平 均	88	87	85	87
	那 珂 市 横 堀	最 大	84	76	86	
		平 均	63	63	63	63
	〃 門 部	最 大	84	76	78	
		平 均	61	61	60	61
	〃 菅 谷	最 大	100	100	110	
		平 均	91	92	90	91
〃 本 米 崎	最 大	85	77	81		
	平 均	65	65	63	64	
〃 額 田	最 大	78	70	74		
	平 均	60	61	60	60	
〃 鴻 巣	最 大	74	68	74		
	平 均	54	54	53	54	

測定者	測定地点	測定値 (nGy/時)				
		種別	7月	8月	9月	平均
県	那珂市後台	最大	73	66	75	
		平均	59	59	59	59
	〃 瓜連	最大	79	69	78	
		平均	60	61	60	60
	ひたちなか市馬渡	最大	100	99	93	
		平均	87	86	84	86
	〃 常陸那珂	最大	130	150 (注2)	130	
		平均	120	120	120	120
	〃 阿字ヶ浦	最大	98	110	92	
		平均	86	84	80	83
	〃 堀口	最大	110	110	100	
		平均	93	93	88	91
	〃 佐和	最大	91	86	90	
		平均	75	74	72	74
	〃 柳沢	最大	85	90	84	
		平均	74	74	73	74
	日立市久慈	最大	130 (注3)	130 (注3)	130 (注3)	
		平均	120	120	110	120
	〃 大沼	最大	100	94	97	
		平均	88	88	86	87
	常陸太田市磯部	最大	87	78	81	
		平均	65	66	64	65
	〃 真弓	最大	72	62	70	
		平均	56	57	56	56
	〃 久米	最大	70	61	65	
		平均	52	52	52	52
	常陸大宮市根本	最大	80	67	77	
		平均	53	53	54	53
大洗町大貫	最大	100	94	90		
	平均	82	81	78	80	
〃 磯浜	最大	79	74	73		
	平均	66	64	63	64	

測定者	測定地点	測定値 (nGy/時)				
		種別	7月	8月	9月	平均
県	銚田市造谷	最大	120	100	110	
		平均	100	100	98	99
	〃 荒地	最大	100	93	99	
		平均	90	89	87	89
	〃 田崎	最大	92	84	87	
		平均	78	78	76	77
	〃 縦山	最大	100	93	96	
		平均	90	90	87	89
	〃 上富田	最大	90	80	83	
		平均	76	76	74	75
	〃 徳宿	最大	84	78	79	
		平均	75	75	73	74
	茨城町広浦	最大	110	110	100	
		平均	96	96	93	95
	〃 海老沢	最大	94	83	87	
		平均	78	78	76	77
	〃 谷田部	最大	82	73	77	
		平均	68	68	67	68
水戸市吉沢	最大	71	70	67		
	平均	55	55	55	55	
〃 大場	最大	88	83	82		
	平均	73	72	71	72	
〃 石川	最大	81	75	83 (注4)		
	平均	71	70	70	70	
原子力機構原科研	東海村須和間	最大	100	99	100	
		平均	88	87	85	87
〃 亀下	最大	130 (注5)	120	120		
	平均	110	110	110	110	
原子力機構サイクル工研	〃 舟石川	最大	85	79	83	
		平均	66	65	64	65
	ひたちなか市長砂	最大	100	98	95	
		平均	86	86	84	85
	〃 高野	最大	81	83	79	
		平均	69	69	67	68

測定者	測定地点	測定値 (nGy/時)				
		種別	7月	8月	9月	平均
原子力機構大洗	周辺監視区域境界 (P-2)	最大	150	150	150	
		平均	140	140	140	140
	〃 (P-6)	最大	100	100	94	
		平均	85	84	82	84
原電	東海村船場	最大	79	74	75	
		平均	62	62	61	62
電	日立市留	最大	91	91	90	
		平均	77	78	76	77

(注1) 福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質放出の影響を含む。

(注2) ひたちなか地区の一般環境における1時間値の最大値150nGy/時(県測定:ひたちなか市常陸那珂)が観測されたのは、8月7日22時であり、降雨の影響である。

(注3) 日立地区の一般環境における1時間値の最大値130nGy/時(県測定:日立市久慈)が観測されたのは、7月5日18時、8月7日22時、9月6日17時であり、降雨の影響である。

(注4) 比較対照地点における1時間値の最大値83nGy/時(県測定:水戸市石川)が観測されたのは、9月22日1時であり、降雨の影響である。

(注5) 東海地区の一般環境における1時間値の最大値130nGy/時(原子力機構原科研測定:東海村亀下)が観測されたのは、7月5日18時であり、降雨の影響である。

1-1-2 モニタリングポスト

測定者	評価対象	平常の変動幅(上限)
施設者	月平均値	100nGy/時

測定者	測定地点	測定値 (nGy/時)				
		種別	7月	8月	9月	平均
原子力機構原科研	周辺監視区域境界 (MP-11)	最大	180	180	170	
		平均	160	160	160	160
	〃 (MP-16)	最大	190	190	180	
		平均	180	180	170	180
	〃 (MP-17)	最大	160	160	150	
		平均	140	140	130	140
	〃 (MP-18)	最大	330	320	320	
		平均	320	320	300	310
	〃 (MP-19)	最大	400 ^(注2)	390	390	
		平均	390	390	360	380
原子力機構サイクル工研	周辺監視区域境界 (MP-1)	最大	170	170	160	
		平均	150	150	140	150
	〃 (MP-6)	最大	150	150	140	
		平均	130	140	130	130
	〃 (ST-5)	最大	140	130	130	
		平均	120	120	110	120
	〃 (MP-7)	最大	190	200	190	
		平均	180	180	170	180
	〃 (MP-8)	最大	180	180	180	
		平均	170	170	160	170
原子力機構大洗	周辺監視区域境界 (P-1)	最大	140	130	130	
		平均	120	130	120	120
	大洗町成田 (P-3)	最大	110	100	99	
		平均	92	91	89	91
	〃 (P-4)	最大	130 ^(注3)	130 ^(注3)	130 ^(注3)	
		平均	120	120	120	120
	周辺監視区域境界 (P-5)	最大	130	130	120	
		平均	110	110	110	110
	〃 (P-7)	最大	180	180	170	
		平均	170	170	160	170

測定者	測定地点	測定値 (nGy/時)				
		種別	7月	8月	9月	平均
原子力機構大洗	周辺監視区域境界 (P-11)	最大	290	300 ^(注4)	290	
		平均	290	290	280	290
	〃 (P-12)	最大	250	250	250	
		平均	240	240	230	240
	〃 (P-13)	最大	150	150	150	
		平均	150	140	140	140
	〃 (P-14)	最大	160	150	150	
		平均	150	150	140	150
	〃 (P-15)	最大	160	150	150	
		平均	150	140	140	140
	〃 (P-16)	最大	130	130	120	
		平均	120	120	110	120
原電	周辺監視区域境界 (A)	最大	100	100	100	
		平均	91	91	88	90
	〃 (B)	最大	140	140	140	
		平均	130	130	120	130
	〃 (C)	最大	140	130	130	
		平均	120	120	110	120
	〃 (D)	最大	180	180	170	
		平均	160	170	160	160
東海村豊岡	最大	120	120	120		
	平均	110	110	110	110	

(注1) 福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質放出の影響を含む。

(注2) 東海地区の事業所周辺監視区域境界における1時間値の最大値400nGy/時(原子力機構原科研測定:MP-19)が観測されたのは、7月1日22時であり、降雨の影響である。

(注3) 大洗地区の一般環境における1時間値の最大値130 nGy/時(原子力機構大洗測定:大洗町成田P-4)が観測されたのは、7月14日5時、8月7日19時、9月1日14時、9月6日18時、9月23日9時であり、降雨の影響である。

(注4) 大洗地区の事業所周辺監視区域境界における1時間値の最大値300nGy/時(原子力機構大洗測定:P-11)が観測されたのは、8月7日19時であり、降雨の影響である。

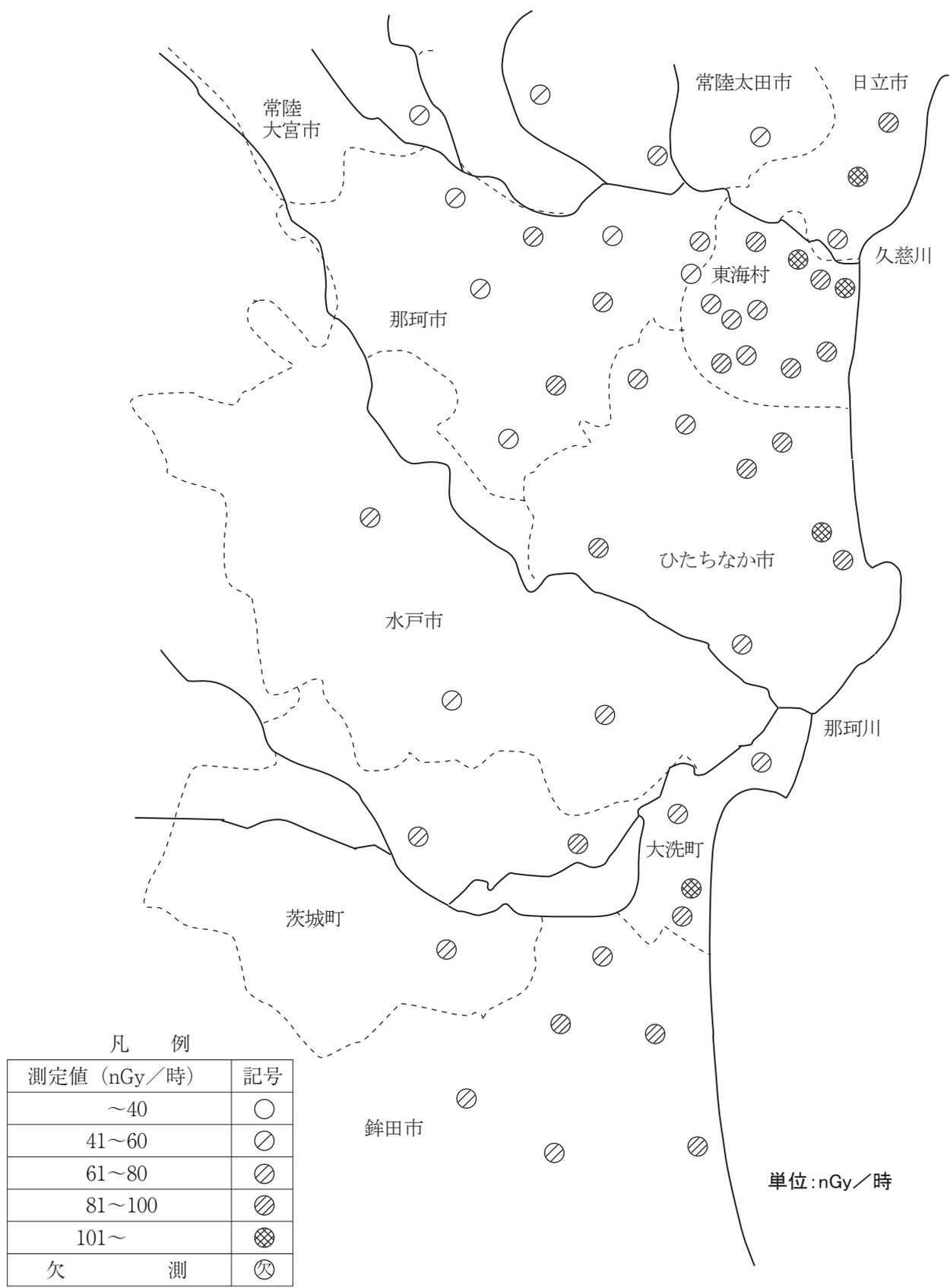


図 一般環境における空間γ線量率測定結果（3ヶ月平均値）
（事業所周辺監視区域境界を除く）

平成24年度第2四半期におけるモニタリングステーション, モニタリングポストにおいて測定した空間線量率の経月変化

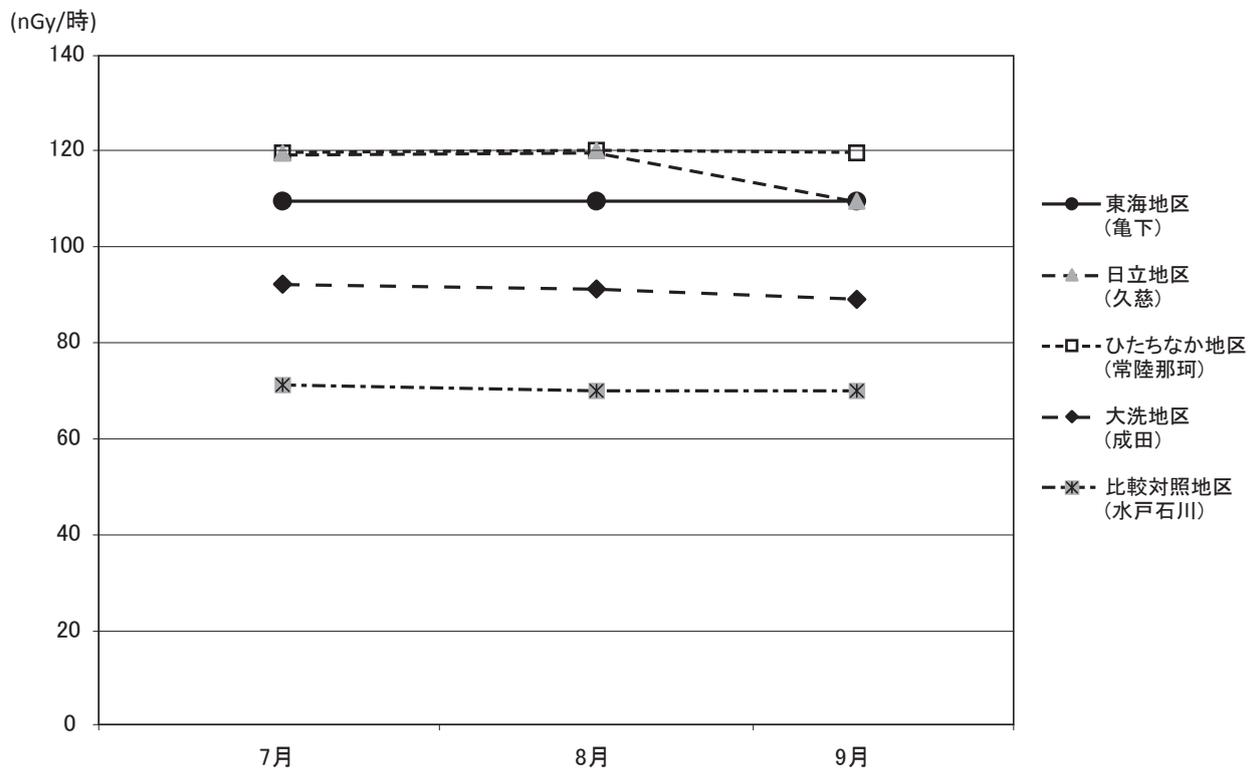


図1 空間ガンマ線量率測定結果の一般環境における月平均値の経月変化

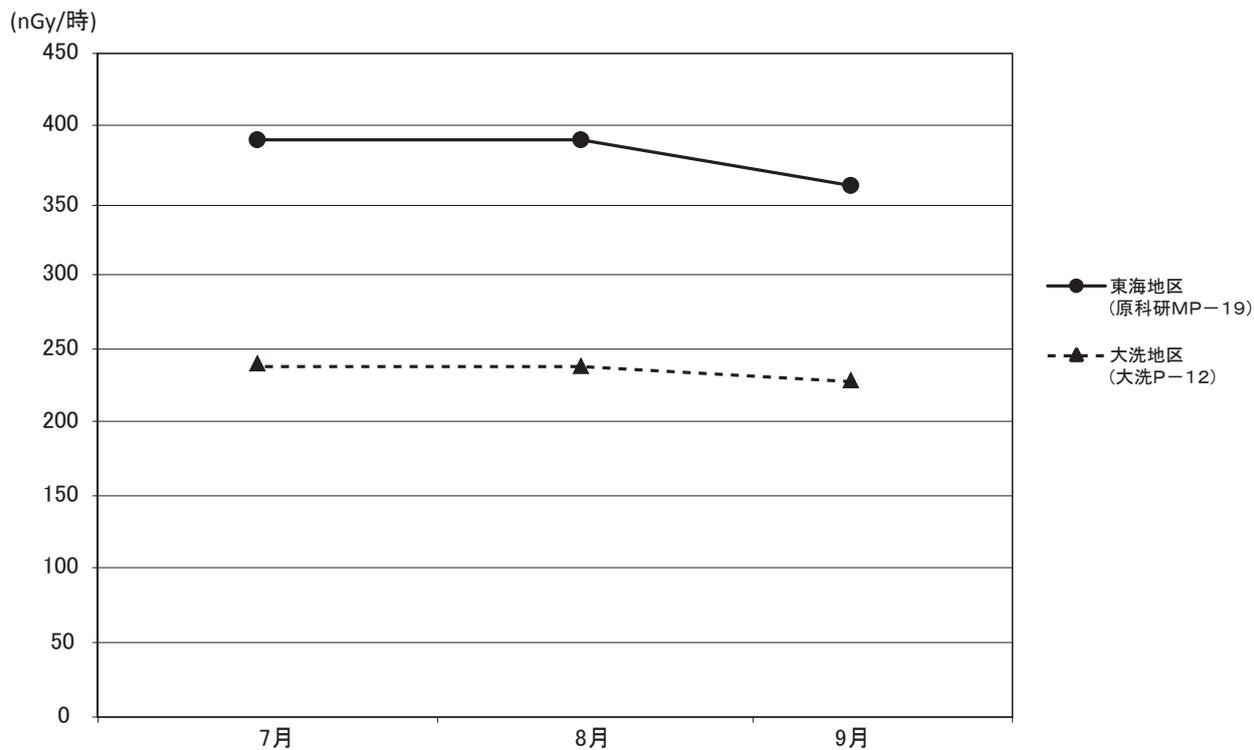
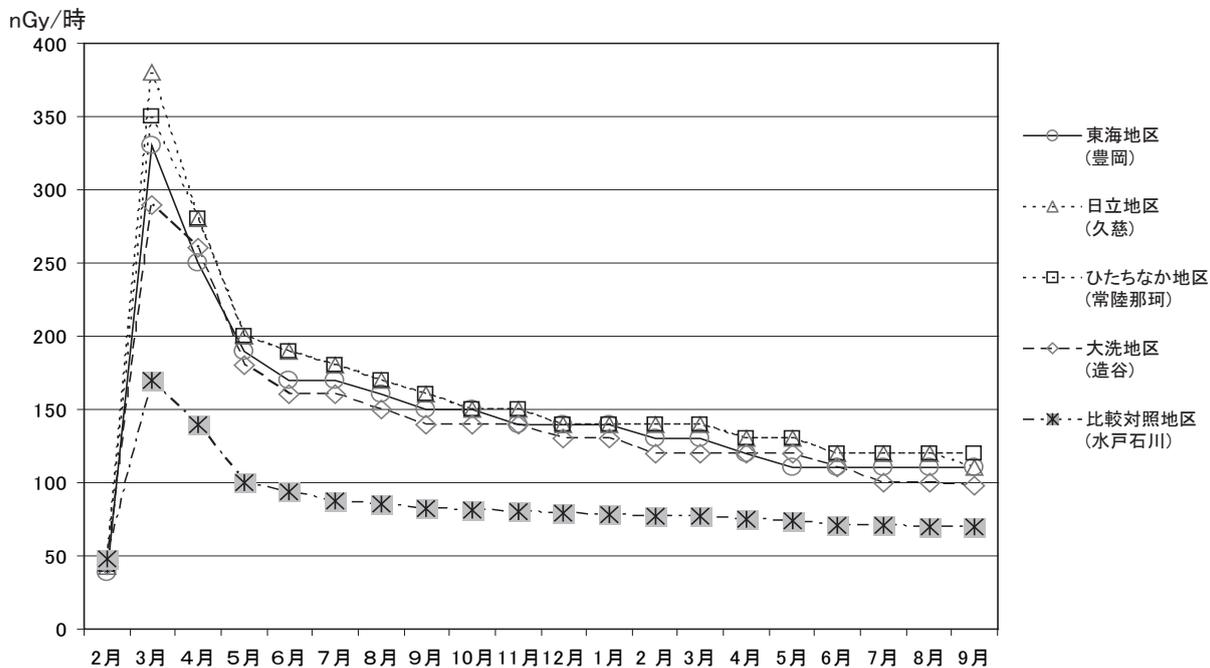
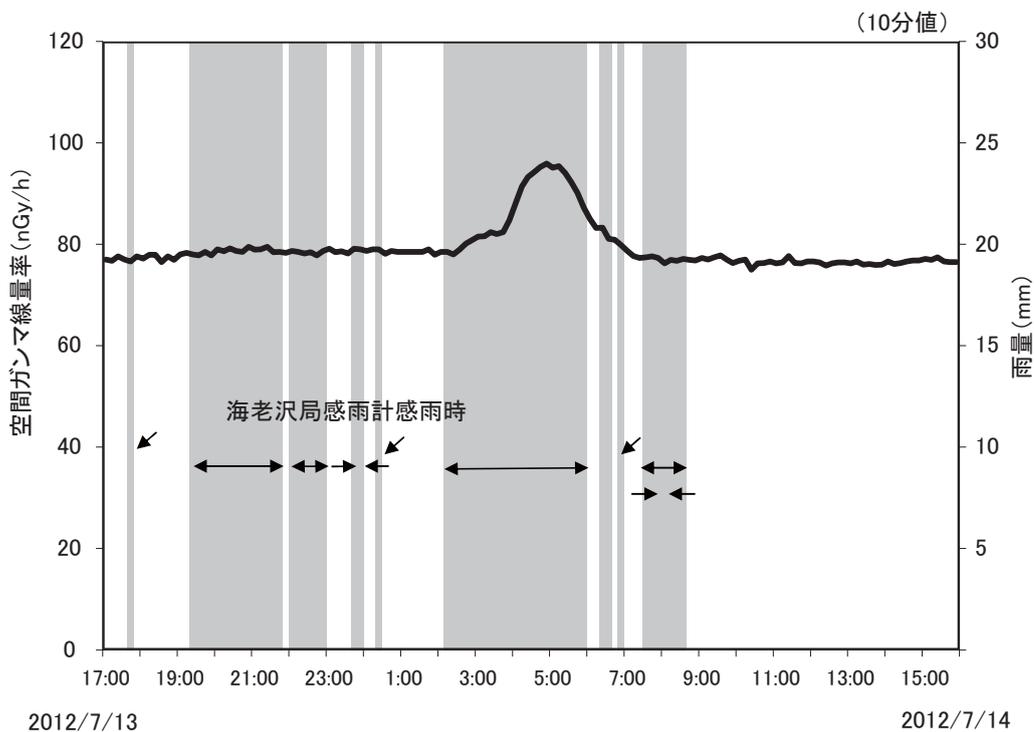


図2 空間ガンマ線量率測定結果の事業所周辺監視区域境界の経月変化

空間ガンマ線量率測定結果の一般環境における月平均値の経月変化
 (福島第一原子力発電所事故後(平成23年2月)から平成24年9月まで)



今期の測定の中で降雨によって最大値が観測された局における空間線量率の時系列(海老沢局)



注)
 当該グラフにおける空間ガンマ線量率の上昇の原因は降雨によるもの。
 降雨により空間線量率が上昇するのは、自然放射性核種(ラドンとトロンから生まれた核種)が雨により地表に落下するためであり、それらの核種の半減期は短いことから、雨が止んでから短時間で線量率は降雨前の水準に戻る。

1-2 大気中放射能測定結果

1-2-1 大気塵埃中の放射性核種分析結果

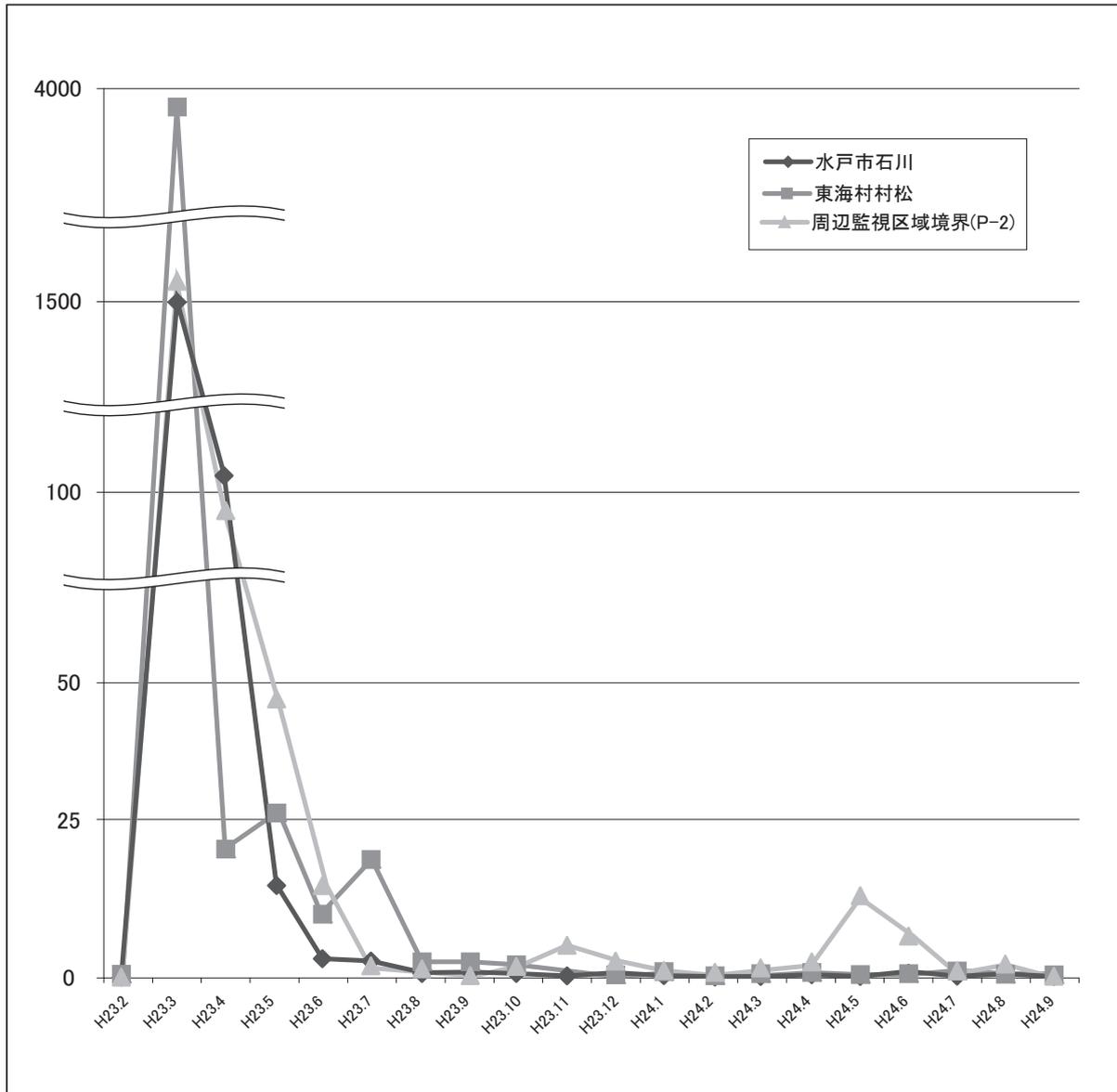
測定者	採取地点	採取月日	核種・分析値 (mBq/m ³)							
			⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce	Pu
県	水戸市 石川	7. 1~ 8. 1	×	×	×	×	×	0.22 [0.15]	×	
		8. 1~ 9. 1	×	×	×	×	×	0.57 [0.38]	×	
		9. 1~10. 1	×	×	×	×	×	0.21 [0.13]	×	
	東海村 村松	7. 1~ 8. 1	×	×	×	×	×	0.88 [0.59]	×	
		8. 1~ 9. 1	×	×	×	×	×	0.45 [0.31]	×	
		9. 1~10. 1	×	×	×	×	×	0.37 [0.24]	×	
	ひたちなか市 常陸那珂	7. 1~ 8. 1	×	×	×	×	×	1.1 [0.80]	×	
		8. 1~ 9. 1	×	×	×	×	×	0.77 [0.52]	×	
		9. 1~10. 1	×	×	×	×	×	1.0 [0.60]	×	
	茨城町 広浦	7. 1~ 8. 1	×	×	×	×	×	0.16 [0.11]	×	
		8. 1~ 9. 1	×	×	×	×	×	0.27 [0.17]	×	
		9. 1~10. 1	×	×	×	×	×	0.17 [0.11]	×	
	鉾田市 造谷	7. 1~ 8. 1	×	×	×	×	×	0.68 [0.44]	×	
		8. 1~ 9. 1	×	×	×	×	×	0.36 [0.23]	×	
		9. 1~10. 1	×	×	×	×	×	0.19 [0.13]	×	
原子力 機構 原科研	周辺監視区域境界 (MS-2)	7. 2~ 7.30	×	×	×	×	×	×	×	
		7.30~ 9. 3	×	×	×	×	×	0.10 [×]	×	
		9. 3~10. 1	×	×	×	×	×	×	×	
	東海村 須和間	7. 2~ 7.30	×	×	×	×	×	5.3 [2.9]	×	
		7.30~ 9. 3	×	×	×	×	×	3.0 [1.6]	×	
		9. 3~10. 1	×	×	×	×	×	2.9 [1.5]	×	
	〃 亀下	7. 2~ 7.30	×	×	×	×	×	0.62 [0.34]	×	
		7.30~ 9. 3	×	×	×	×	×	0.79 [0.43]	×	
		9. 3~10. 1	×	×	×	×	×	0.25 [0.13]	×	

測定者	採取地点	採取月日	核種・分析値 (mBq/m ³)							
			⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce	Pu
原子力 機構 サイクル 工研	東海村 舟石川	7. 2～ 8. 1	×	×	×	×	×	0.56 [0.40]	×	×
		8. 1～ 8.31	×	×	×	×	×	0.57 [0.42]	×	
		8.31～10. 1	×	×	×	×	×	0.38 [0.26]	×	
	ひたちなか市長砂	7. 2～ 8. 1	×	×	×	×	×	0.60 [0.40]	×	×
		8. 1～ 8.31	×	×	×	×	×	0.52 [0.37]	×	
		8.31～10. 1	×	×	×	×	×	0.24 [0.18]	×	
	〃 高野	7. 2～ 8. 1	×	×	×	×	×	0.30 [0.21]	×	×
		8. 1～ 8.31	×	×	×	×	×	0.18 [0.11]	×	
		8.31～10. 1	×	×	×	×	×	0.59 [0.43]	×	
原子力 機構 大洗	周辺監視区域境界 (P-2)	7. 2～ 8. 1	×	×	×	×	×	0.93 [0.62]	×	/
		8. 1～ 9. 3	×	×	×	×	×	1.8 [1.1]	×	
		9. 3～10. 1	×	×	×	×	×	0.24 [0.15]	×	
	〃 (P-6)	7. 2～ 8. 1	×	×	×	×	×	0.66 [0.45]	×	/
		8. 1～ 9. 3	×	×	×	×	×	0.19 [0.12]	×	
		9. 3～10. 1	×	×	×	×	×	×	×	
原 電	東海村 船場	7. 4～ 8. 1	×	×	×	×	×	0.41 [0.24]	×	/
		8. 1～ 9. 5	×	×	×	×	×	0.12 [×]	×	
		9. 5～10. 3	×	×	×	×	×	0.29 [0.23]	×	
	日立市 留	7. 4～ 8. 1	×	×	×	×	×	0.17 [×]	×	/
		8. 1～ 9. 5	×	×	×	×	×	×	×	
		9. 5～10. 3	×	×	×	×	×	0.29 [0.21]	×	

(注) ¹³⁷Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響及び過去の核実験等に起因するフォールアウトの影響による。

なお、¹³⁴Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。
検出された¹³⁴Csは〔 〕に記載。

大気塵埃中の¹³⁷Cs経月変化(mBq/m³)



1-2-2 降下塵中の放射性核種分析結果

測定者	採取地点	採取月日	核種・分析値 (Bq/m ²)						
			⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce
県	水戸市 愛宕町	7. 1～ 8. 1	×	×	×	×	×	13 [8.7]	×
		8. 1～ 9. 1	×	×	×	×	×	18 [12]	×
		9. 1～10. 1	×	×	×	×	×	21 [14]	×
原子力 機構 原科研	内	7. 2～ 8. 1	×	×	×	×	×	12 [6.6]	×
		8. 1～ 9. 3	×	×	×	×	×	12 [6.2]	×
		9. 3～10. 1	×	×	×	×	×	20 [11]	×
原子力 機構 大洗	内	7. 2～ 8. 1	×	×	×	×	×	5.2 [3.6]	×
		8. 1～ 9. 3	×	×	×	×	×	12 [8.2]	×
		9. 3～10. 1	×	×	×	×	×	25 [17]	×

(注) ¹³⁷Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響及び過去の核実験等に起因するフォールアウトの影響による。

なお、¹³⁴Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。

検出された¹³⁴Csは〔 〕に記載。

1-3 農畜産物中の放射能測定結果

1-3-1 牛乳（原乳）中の放射性核種分析結果（¹³¹I）

測定者	採取地点	採取月日	核種	分析値 (Bq/L)
県	茨城県央クーラーステーション	9.4	¹³¹ I	×
	里美クーラーステーション	9.4	¹³¹ I	×

(注) 県内全域調査の地点で実施。

1-4 海洋における放射能測定結果

1-4-1 海水中の放射性核種分析結果（³H）

測定者	採取地点	採取月日	水温 (℃)	塩素量 (%)	核種	分析値 (Bq/L)
県	久慈沖 (A)	7.11	20.5	16.88	³ H	×
	原子力機構サイクル工研沖 (G)	7.11	21.4	16.86	³ H	×
	阿字ヶ浦沖 (I)	7.11	19.6	17.80	³ H	×
	那珂湊沖 (J)	7.11	20.9	15.92	³ H	×
	大貫沖 (K)	7.11	22.4	16.28	³ H	×
	再処理排水放出口周辺 (P)	7.9	21.0	13.85	³ H	×
原子力機構原科研	原子力機構原科研沖 (C)	7.5	21.5	15.15	³ H	×
原子力機構 サイクル工研	原子力機構サイクル工研沖 (F)	7.9	20.9	13.58	³ H	×
	長砂沖 (H)	7.9	21.7	14.04	³ H	×
	再処理排水放出口周辺 (P)	7.9	21.0	14.03	³ H	×
原子力機構大洗	原子力機構大洗沖 (L)	7.11	22.2	17.01	³ H	×
	〃 (M)	7.11	22.0	17.01	³ H	×
原電	原電沖 (B)	7.10	21.7	9.85	³ H	×

(注1) 採水地点の () 内は採水海域記号。位置は163ページの図を参照。

(注2) 採水部位は表層

2 敷地内における測定結果

2-1 空間 γ 線量率測定結果

2-1-1 モニタリングステーション

測定者	評価対象	平常の変動幅（上限）
施設者	月平均値	100nGy/時

測定者	測定地点	測定値（nGy/時）				
		種別	7月	8月	9月	平均
原子力機構 サイクル工研	S T - 1	最大	97	97	91	
		平均	85	84	81	83

（注） 最大値97nGy/時は、7月5日19時及び8月7日22時に観測されたものであり、降雨の影響である。

2-1-2 モニタリングポスト

測定者	評価対象	平常の変動幅（上限）
施設者	月平均値	100nGy/時

測定者	測定地点	測定値（nGy/時）				
		種別	7月	8月	9月	平均
原子力機構 大洗	構内 (P-8)	最大	130	130	120	
		平均	110	110	110	110

（注） 最大値130nGy/時は、7月14日5時及び8月7日19時に観測されたものであり、降雨の影響である。

平成24年度第2四半期におけるモニタリングステーション, モニタリングポストにおいて測定した空間線量率の経月変化

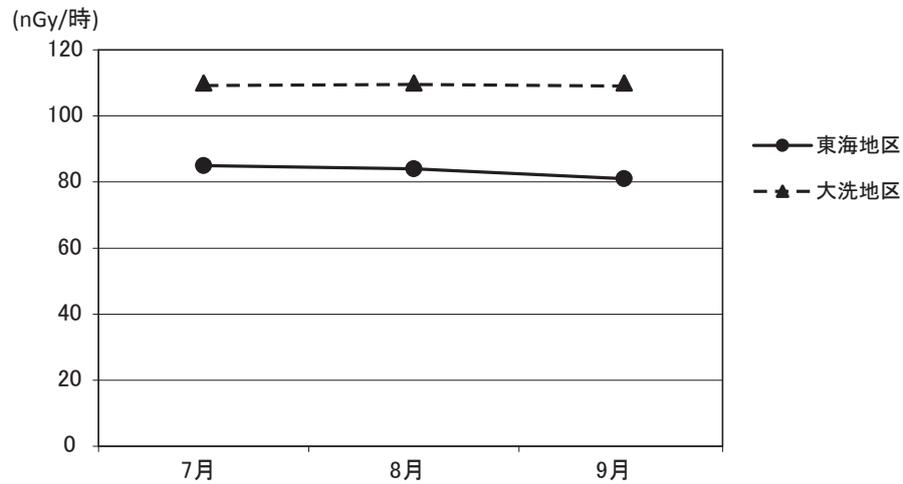


図3 空間ガンマ線量率測定結果(原子力施設敷地内)における月平均値の経月変化

2-2 大気中放射能測定結果

2-2-1 大気塵埃中の放射性核種分析結果

測定者	採取地点	採取月日	核種・分析値 (mBq/m ³)							
			⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce	Pu
原子力機構 原科研	MS-1	7.2~7.30	×	×	×	×	×	×	×	/
		7.30~9.3	×	×	×	×	×	×	×	
		9.3~10.1	×	×	×	×	×	×	×	
原子力機構 サイクル工研	ST-1	7.2~8.1	×	×	×	×	×	0.11 [×]	×	×
		8.1~8.31	×	×	×	×	×	×	×	
		8.31~10.1	×	×	×	×	×	0.39 [0.24]	×	
原子力機構 大洗	構内	7.2~8.1	×	×	×	×	×	0.17 [0.11]	×	/
		8.1~9.3	×	×	×	×	×	0.20 [0.11]	×	
		9.3~10.1	×	×	×	×	×	0.19 [0.13]	×	

(注) ¹³⁷Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響及び過去の核実験等に起因するフォールアウトの影響による。

なお、¹³⁴Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。

検出された¹³⁴Csは〔 〕に記載。

3 放出源における測定結果

3-1 排 気

3-1-1 排気中の放射性核種分析結果

(主要放出核種)

測定者	施設名	項目	放 出 状 況				分析核種 及びDL			
			7 月	8 月	9 月	平 均				
(注2) 原 子 力 機 構 原 科 研	J R R - 2	最 高 濃 度 (Bq/cm ³)					³ H			
		平 均 濃 度 (Bq/cm ³)								
		放 出 量	実 測 分 (GBq)	0	0	0		計 0		
			不 検 出 分 (GBq)	0	0	0		計 0		
	J R R - 3	最 高 濃 度 (Bq/cm ³)					希ガス (⁴¹ Ar) 1.4×10 ⁻³ ~ 1.6×10 ⁻³ Bq/cm ³			
		平 均 濃 度 (Bq/cm ³)								
		放 出 量	実 測 分 (GBq)	0	0	0		計 0		
			不 検 出 分 (GBq)	0	0	0		計 0		
		最 高 濃 度 (Bq/cm ³)	×	5.5×10 ⁻⁵	×			³ H 3.8×10 ⁻⁵ ~ 4.5×10 ⁻⁵ Bq/cm ³		
			平 均 濃 度 (Bq/cm ³)	×	5.5×10 ⁻⁵	×			4.5×10 ⁻⁵	
			放 出 量	実 測 分 (GBq)	0	6.1			0	計 6.1
				不 検 出 分 (GBq)	4.0	0			4.0	計 8.0
	J R R - 4	最 高 濃 度 (Bq/cm ³)					希ガス (⁴¹ Ar) 1.4×10 ⁻³ Bq/cm ³			
		平 均 濃 度 (Bq/cm ³)								
		放 出 量	実 測 分 (GBq)	0	0	0		計 0		
			不 検 出 分 (GBq)	0	0	0		計 0		
	N S R R	最 高 濃 度 (Bq/cm ³)					希ガス (⁴¹ Ar) 3.6×10 ⁻³ Bq/cm ³			
		平 均 濃 度 (Bq/cm ³)								
		放 出 量	実 測 分 (GBq)	0	0	0		計 0		
			不 検 出 分 (GBq)	0	0	0		計 0		
最 高 濃 度 (Bq/cm ³)		×	×	×		¹³¹ I 5.1×10 ⁻⁹ ~ 2.8×10 ⁻⁸ Bq/cm ³				
		平 均 濃 度 (Bq/cm ³)	×	×	×			×		
		放 出 量	実 測 分 (GBq)	0	0			0	計 0	
			不 検 出 分 (GBq)	6.0×10 ⁻⁵	7.8×10 ⁻⁵			6.0×10 ⁻⁵	計 2.0×10 ⁻⁴	

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種及びDL			
			7月	8月	9月	平均				
(注2) 原子力機構 原科 研	燃料試験施設	最高濃度 (Bq/cm ³)	1.0×10 ⁻²	×	×		希ガス (⁸⁵ Kr) 7.3×10 ⁻³ ~ 8.3×10 ⁻³ Bq/cm ³			
		平均濃度 (Bq/cm ³)	7.8×10 ⁻³	×	×	7.5×10 ⁻³				
		放出量	実測分 (GBq)	1.4	0	0		計 1.4		
			不検出分 (GBq)	3.5×10 ²	3.4×10 ²	3.2×10 ²		計 1.0×10 ³		
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×			¹³¹ I 1.1×10 ⁻⁹ ~ 1.8×10 ⁻⁹ Bq/cm ³		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×				
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0			計 0	
			不検出分 (GBq)	6.2×10 ⁻⁵	7.4×10 ⁻⁵	6.1×10 ⁻⁵			計 2.0×10 ⁻⁴	
	燃料サイクル安全工学研究施設 (NUCEF)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		希ガス (¹³⁸ Xe) 9.0×10 ⁻⁴ Bq/cm ³			
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×				
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0			計 0	
			不検出分 (GBq)	1.7×10 ²	1.7×10 ²	1.6×10 ²			計 5.0×10 ²	
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×			¹³¹ I 6.4×10 ⁻¹⁰ ~ 1.2×10 ⁻⁹ Bq/cm ³		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×				
放出量		実測分 (GBq)	0	0	0	計 0				
		不検出分 (GBq)	1.3×10 ⁻⁴	1.8×10 ⁻⁴	1.3×10 ⁻⁴	計 4.4×10 ⁻⁴				
原子力機構 再処理施設 サイクル工 研	再処理施設	主排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×			⁸⁵ Kr 2.4×10 ⁻³ Bq/cm ³	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0			計 0
				不検出分 (GBq)	7.3×10 ²	7.1×10 ²	7.0×10 ²			計 2.1×10 ³
		主排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	2.0×10 ⁻⁴	2.2×10 ⁻⁴	1.5×10 ⁻⁴		³ H 3.7×10 ⁻⁵ Bq/cm ³		
			平均濃度 (Bq/cm ³)	1.7×10 ⁻⁴	1.5×10 ⁻⁴	1.3×10 ⁻⁴	1.5×10 ⁻⁴			
			放出量	実測分 (GBq)	4.8×10	4.1×10	4.6×10		計 1.4×10 ²	
				不検出分 (GBq)	0	0	0		計 0	
		主排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹⁴ C 4.0×10 ⁻⁵ Bq/cm ³		
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0	
				不検出分 (GBq)	1.1×10	1.1×10	1.4×10		計 3.6×10	

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種 及びDL	
			7月	8月	9月	平均		
原子力 機構 サイ クル 工 研	再 処 理 施 設	主 排 気 筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I 3.7×10 ⁻⁸ Bq/cm ³
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	
			放出量 実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	
			放出量 不検出分 (GBq)	1.0×10 ⁻²	9.9×10 ⁻³	1.3×10 ⁻²	計 3.3×10 ⁻²	
		主 排 気 筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹²⁹ I 3.7×10 ⁻⁸ Bq/cm ³
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	
			放出量 実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	
			放出量 不検出分 (GBq)	1.0×10 ⁻²	9.9×10 ⁻³	1.3×10 ⁻²	計 3.3×10 ⁻²	
		第 一 付 属 排 気 筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁸⁵ Kr 2.4×10 ⁻³ Bq/cm ³
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	
			放出量 実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	
			放出量 不検出分 (GBq)	1.7×10 ²	1.7×10 ²	1.7×10 ²	計 5.1×10 ²	
		第 一 付 属 排 気 筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		³ H 3.7×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	
			放出量 実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	
			放出量 不検出分 (GBq)	24	24	31	計 7.9	
		第 一 付 属 排 気 筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹⁴ C 4.0×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	
			放出量 実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	
			放出量 不検出分 (GBq)	26	26	33	計 8.5	
		第 一 付 属 排 気 筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I 3.7×10 ⁻⁸ Bq/cm ³
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	
			放出量 実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	
			放出量 不検出分 (GBq)	2.4×10 ⁻³	2.4×10 ⁻³	3.1×10 ⁻³	計 7.9×10 ⁻³	
第 一 付 属 排 気 筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹²⁹ I 3.7×10 ⁻⁸ Bq/cm ³		
	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
	放出量 実測分 (GBq)	0	0	0	計 0			
	放出量 不検出分 (GBq)	2.4×10 ⁻³	2.4×10 ⁻³	3.1×10 ⁻³	計 7.9×10 ⁻³			

測定者	施設名		項目	放出状況				分析核種 及びDL
				7月	8月	9月	平均	
原子力 機構 サイクル 工 研	再 処 理 施 設	第 二 付 属 排 気 筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁸⁵ Kr 2.4×10 ⁻³ Bq/cm ³
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0
				不検出分 (GBq)	2.2×10 ²	2.2×10 ²	2.1×10 ²	計 6.5×10 ²
			最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		³ H 3.7×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	
			不検出分 (GBq)	3.1	3.1	3.9	計 1.0×10	
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹⁴ C 4.0×10 ⁻⁵ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	
			不検出分 (GBq)	3.3	3.3	4.2	計 1.1×10	
	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I 3.7×10 ⁻⁸ Bq/cm ³		
	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
	放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0		
		不検出分 (GBq)	3.1×10 ⁻³	3.1×10 ⁻³	3.9×10 ⁻³	計 1.0×10 ⁻²		
	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹²⁹ I 3.7×10 ⁻⁸ Bq/cm ³		
	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
	放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0		
		不検出分 (GBq)	3.1×10 ⁻³	3.1×10 ⁻³	3.9×10 ⁻³	計 1.0×10 ⁻²		
	高レベル 放射性物質 研究施設 (CPF)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		希ガス 〔 ⁸⁵ Kr〕 〔 ¹³³ Xe〕 2.4×10 ⁻³ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	
			不検出分 (GBq)	1.5×10 ²	1.6×10 ²	1.5×10 ²	計 4.6×10 ²	
最高濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×		³ H 3.7×10 ⁻⁵ Bq/cm ³		
平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×			
放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0			
	不検出分 (GBq)	2.6	2.2	2.2	計 7.0			

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種及びDL	
			7月	8月	9月	平均		
原子力機構サイクル工研	高レベル放射性物質研究施設(CPF)	最高濃度(Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I 3.7×10 ⁻⁸ Bq/cm ³	
		平均濃度(Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分(GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分(GBq)	2.6×10 ⁻³	2.2×10 ⁻³	2.2×10 ⁻³		計 7.0×10 ⁻³
(注3)原子力機構大洗	J M T R	最高濃度(Bq/cm ³)	×	×	×		希ガス 〔主に ⁴¹ Ar〕 2.3×10 ⁻³ Bq/cm ³	
		平均濃度(Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分(GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分(GBq)	1.6×10 ²	1.5×10 ²	1.6×10 ²		計 4.7×10 ²
	H T T R	最高濃度(Bq/cm ³)	×	×	×		希ガス 〔主に ⁸⁸ Kr〕 ¹³⁸ Xe 2.1×10 ⁻³ Bq/cm ³	
		平均濃度(Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分(GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分(GBq)	1.4×10 ²	1.3×10 ²	1.4×10 ²		計 4.1×10 ²
	H T T R	最高濃度(Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I 1.6×10 ⁻⁹ Bq/cm ³	
		平均濃度(Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分(GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分(GBq)	8.0×10 ⁻⁵	1.1×10 ⁻⁴	8.1×10 ⁻⁵		計 2.7×10 ⁻⁴
	照射燃料体試験施設(FMF)	最高濃度(Bq/cm ³)	×	×	×		希ガス 〔主に ⁸⁵ Kr〕 ¹³³ Xe 1.2×10 ⁻³ Bq/cm ³	
		平均濃度(Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分(GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分(GBq)	0	0	0		計 0
照射燃料体試験施設(FMF)	最高濃度(Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I 7.3×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³		
	平均濃度(Bq/cm ³)	×	×	×	×			
	放出量	実測分(GBq)	0	0	0		計 0	
		不検出分(GBq)	0	0	0		計 0	

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種及びDL	
			7月	8月	9月	平均		
(注3) 原子力機構大洗	高速実験炉「常陽」	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		希ガス 〔主に ⁴¹ Ar ⁸⁵ Kr ¹³³ Xe〕 1.3×10 ⁻³ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	1.3×10 ²	1.3×10 ²	1.3×10 ²		計 3.9×10 ²
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I 2.6×10 ⁻⁹ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	1.6×10 ⁻⁴	2.1×10 ⁻⁴	1.5×10 ⁻⁴		計 5.2×10 ⁻⁴
(注4) 原子力機構那珂	JT-60 〔臨界プラズマ〕 実験棟	最高濃度 (Bq/cm ³)					³ H 2.3×10 ⁻⁵ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)						
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	0	0	0		計 0
(注5) 原電	東海発電所 排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co 1.4×10 ⁻⁹ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	1.5×10 ⁻⁴	1.9×10 ⁻⁴	1.8×10 ⁻⁴		計 5.2×10 ⁻⁴
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³⁷ Cs 1.3×10 ⁻⁹ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
	放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0		
		不検出分 (GBq)	1.4×10 ⁻⁴	1.9×10 ⁻⁴	1.7×10 ⁻⁴	計 5.0×10 ⁻⁴		
	東海発電所 その他排気口	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co 1.6×10 ⁻⁹ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	2.0×10 ⁻⁴	2.4×10 ⁻⁴	1.9×10 ⁻⁴		計 6.3×10 ⁻⁴
最高濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×		¹³⁷ Cs 1.7×10 ⁻⁹ Bq/cm ³		
平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×			
放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0			
	不検出分 (GBq)	2.2×10 ⁻⁴	2.7×10 ⁻⁴	2.2×10 ⁻⁴	計 7.1×10 ⁻⁴			

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種 及びDL	
			7月	8月	9月	平均		
(注5) 原 電	東海第二 発電所	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		希ガス 〔主に ⁸⁵ Kr ¹³³ Xe〕	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	1.0×10 ⁻³
			不検出分 (GBq)	7.1×10 ²	7.1×10 ²	6.8×10 ²	計 2.1×10 ³	Bq/cm ³
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		2.8×10 ⁻⁹
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	2.0×10 ⁻³	2.1×10 ⁻³	1.8×10 ⁻³	計 5.9×10 ⁻³	
住友 鋁山	技術センター 排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.3×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
(注6) J C O	第1管理棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
	第2管理棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
	第3管理棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	3.7×10 ⁻¹⁰	
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
固体廃棄物 処理棟	最高濃度 (Bq/cm ³)			×		U		
	平均濃度 (Bq/cm ³)			×	×	3.7×10 ⁻¹⁰		
	放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³	
		不検出分 (GBq)	0	0	微	計 微		

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種 及びDL	
			7月	8月	9月	平均		
三 菱 原 燃	転換工場	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U 1.0×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微
	成形工場	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U 1.0×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微
	第1廃棄物 処理所	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U 1.0×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微
第2廃棄物 処理所	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U 1.0×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³		
	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
	放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0	
		不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微	
燃料加工 試験棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U 1.0×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³		
	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
	放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0	
		不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微	
積水 メ デイ カル	集合排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		³ H 1.9×10 ⁻⁵ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹⁴ C 3.7×10 ⁻⁶ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種 及びDL		
			7月	8月	9月	平均			
積水メデイカル	第4棟筒気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	2.3×10 ⁻⁵	×	2.4×10 ⁻⁵		³ H 1.9×10 ⁻⁵		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	1.9×10 ⁻⁵	×	1.9×10 ⁻⁵	1.9×10 ⁻⁵			
		放出量	実測分 (GBq)	3.5×10 ⁻³	0	1.9×10 ⁻³	計 5.4×10 ⁻³	Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微		
		最高濃度 (Bq/cm ³)	1.2×10 ⁻⁵	×	5.4×10 ⁻⁵		¹⁴ C 3.7×10 ⁻⁶		
			平均濃度 (Bq/cm ³)	4.2×10 ⁻⁶	×	5.1×10 ⁻⁶		4.3×10 ⁻⁶	
		放出量	実測分 (GBq)	7.5×10 ⁻³	0	1.8×10 ⁻²	計 2.5×10 ⁻²	Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微		
(注7) N	照射後試験棟 (F棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	4.3×10 ⁻³		希ガス 〔主に ⁸⁵ Kr〕		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	2.1×10 ⁻³	2.0×10 ⁻³			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	4.4×10	計 4.4×10	2.0×10 ⁻³ Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	1.1×10 ²	1.1×10 ²	1.0×10 ²	計 3.2×10 ²		
		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I 2.6×10 ⁻¹⁰ ～		
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		×	
	放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	5.2×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³		
		不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微			
	D	化学分析棟 (R棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	1.9×10 ⁻⁹	8.1×10 ⁻⁹		¹³¹ I 6.2×10 ⁻¹⁰ ～	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	1.3×10 ⁻⁹	3.0×10 ⁻⁹	1.8×10 ⁻⁹		
			放出量	実測分 (GBq)	0	9.0×10 ⁻⁶	3.8×10 ⁻⁵	計 4.7×10 ⁻⁵	1.6×10 ⁻⁹ Bq/cm ³
				不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
C	ウラン実験棟 (U棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U 1.1×10 ⁻¹⁰ ～		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	2.1×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微		
	燃料試験棟 (A棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U 3.4×10 ⁻¹¹ ～		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	7.8×10 ⁻¹¹ Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微		

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種 及びDL	
			7月	8月	9月	平均		
(注8) 東	原子炉棟	最高濃度 (Bq/cm ³)					⁴¹ Ar 4.0×10 ⁻³ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)						
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	0	0	0		計 0
大	ライナック棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³ N+ ¹⁵ O 2.0×10 ⁻³ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	5.4×10 ⁻³	1.3×10 ⁻²	3.1×10 ⁻²		計 4.9×10 ⁻²
原	加工工場	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U 1.3×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微
燃	廃棄物処理棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U 1.3×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微
工	HTR燃料 製造施設	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U 1.3×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微
三 菱 マ テ リ ア ル	開発試験 第Ⅰ棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U 4.0×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微
開発試験 第Ⅱ棟	開発試験 第Ⅱ棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		U 4.0×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種及びDL	
			7月	8月	9月	平均		
(注9) 日本核燃	照射後 試験施設	最高濃度 (Bq/cm ³)	3.0×10 ⁻²	×	×		希ガス 〔 ⁸⁵ Kr ¹³³ Xe〕 1.0×10 ⁻⁴ ～ 6.7×10 ⁻⁵ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	2.9×10 ⁻³	×	×	9.7×10 ⁻⁴		
		放出量				計 7.8×10		
			実測分 (GBq)	7.8×10	0	0		
			不検出分 (GBq)	27	27	26	計 8.0	
			最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		¹³¹ I 2.2×10 ⁻⁹ ～ 1.9×10 ⁻⁹ Bq/cm ³
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	
			放出量				計 0	
				実測分 (GBq)	0	0	0	
		不検出分 (GBq)	5.6×10 ⁻⁵	5.6×10 ⁻⁵	5.5×10 ⁻⁵	計 1.7×10 ⁻⁴		

(注1) 平均濃度は、検出された放出量を月間排気量で除した値。

(注2) 原子力機構原科研

JRR-2：7月～9月は給排気停止。

JRR-3：7月～9月は施設定期検査，原子炉停止，希ガスの放出なし。

JRR-4：7月～9月は施設定期検査，原子炉停止，希ガスの放出なし。

NSRR：7月～9月は施設定期検査，原子炉停止，希ガスの放出なし。

(注3) 原子力機構大洗

JMTR, HTTR, 高速実験炉「常陽」：7月～9月は施設定期検査。

照射燃料集合体試験施設 (FMF)：7月～9月は放出を伴う運転なし。

(注4) 原子力機構那珂

JT-60実験棟：JT-60SAに向けた改造工事の準備のためJT-60の運転なし。

(注5) 原電

東海発電所その他排気口：使用済燃料冷却池建屋，サービス建屋等からの排気。

(注6) JCO

固体廃棄物処理棟：7月，8月は核燃料物質等の処理がなく運転しなかったため，放出なし。

(注7) NDC

照射後試験棟 (F棟) で検出された希ガスは，燃料棒切断作業により発生。

化学分析棟 (R棟) で検出された¹³¹Iは，チャコールフィルタの吸着試験に伴って検出されたもの。

(注8) 東大

原子炉棟：今期は放出を伴う運転なし

(注9) 日本核燃

7月はピンパンクチャー試験を実施。

3-1-1' 排気中の放射性核種分析結果（その他検出された核種）

測定者	施設名	項目	放出状況				分析核種 及びDL
			7月	8月	9月	平均	
(注) 原	東海発電所	最高濃度 (Bq/cm ³)	1.5×10 ⁻⁵	1.1×10 ⁻⁵	1.0×10 ⁻⁵	計 3.8	³ H 7.8×10 ⁻⁷ Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)	1.3×10 ⁻⁵	8.7×10 ⁻⁶	9.0×10 ⁻⁶		
		放出量(実測分) (GBq)	1.6	1.1	1.1		
電	東海第二 発電所	最高濃度 (Bq/cm ³)	4.4×10 ⁻⁶	5.4×10 ⁻⁶	6.5×10 ⁻⁶	計 9.3	³ H 9.5×10 ⁻⁷ Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)	3.9×10 ⁻⁶	4.2×10 ⁻⁶	5.6×10 ⁻⁶		
		放出量(実測分) (GBq)	2.7	2.9	3.7		

(注) 原電

東海発電所：³H 炉内グラファイトの不純物 (⁶Li) の放射化による。

東海第二発電所：³H 冷却材中の重水素の放射化による。

3-1-2 排気中の全β放射能測定結果

測定者	施設名	項目	放出状況				主な放出核種及びDL		
			7月	8月	9月	平均			
N	材料試験棟 (R棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co 1.5×10 ⁻¹⁰		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	5.4×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微		
	D	化学分析棟 (R棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co 2.9×10 ⁻¹¹	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
			放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	6.5×10 ⁻¹¹ Bq/cm ³
				不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微	
C	燃料試験棟 (A棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co 3.6×10 ⁻¹¹		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	8.2×10 ⁻¹¹ Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微		
東 北 大	ホットラボ棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co ⁵⁹ Fe 2.45×10 ⁻⁹		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	7.1×10 ⁻⁵	7.1×10 ⁻⁵	6.9×10 ⁻⁵	計 2.1×10 ⁻⁴		
日 揮	第2研究棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		³⁶ Cl等 1.7×10 ⁻⁹		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	3.2×10 ⁻⁵	
			不検出分 (GBq)	1.1×10 ⁻⁵	1.2×10 ⁻⁵	8.9×10 ⁻⁶	計 3.2×10 ⁻⁵		
三 菱 マ テ リ ア ル	開発試験 第IV棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co等 1.5×10 ⁻⁹		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×			
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³	
			不検出分 (GBq)	微	微	微	計 微		

3-1-2' 排気中の全β放射能測定結果

測定者	施設名	項目	放出状況				D L	
			7月	8月	9月	平均		
(注)原子力機構原子科研	J R R - 2	最高濃度 (Bq/cm ³)						
		平均濃度 (Bq/cm ³)						
	J R R - 3	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		6.1×10 ⁻¹¹ ~	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.5×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³	
	J R R - 4	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		3.0×10 ⁻¹⁰ ~	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	8.5×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³	
	N S R R	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		1.6×10 ⁻¹⁰ ~	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	8.2×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³	
	燃料試験施設	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		3.1×10 ⁻¹¹ ~	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	7.5×10 ⁻¹¹ Bq/cm ³	
	燃料サイクル安全工学研究施設 (NUCEF)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		2.0×10 ⁻¹¹ ~	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	4.7×10 ⁻¹¹ Bq/cm ³	
	原子力機構サイクル工研	再処理施設主排気筒	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		1.5×10 ⁻⁹
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³
再処理施設第一付属排気筒		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		1.5×10 ⁻⁹	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³	
再処理施設第二付属排気筒		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		1.5×10 ⁻⁹	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³	
原子力機構大洗	J M T R	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		1.2×10 ⁻¹⁰	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³	
	H T T R	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		1.2×10 ⁻¹⁰	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³	

測定者	施設名	項目	放出状況				D L
			7月	8月	9月	平均	
原子力機構大洗	照射燃料集合体試験施設(FMF)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		2.2×10 ⁻¹⁰
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³
	高速実験炉「常陽」	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		2.2×10 ⁻¹⁰
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³
原電	東海第二所	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		6.9×10 ⁻¹⁰
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³
	廃棄物処理建屋	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		5.5×10 ⁻¹⁰
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³
東大	原子炉棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		7.0×10 ⁻⁷
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Bq/cm ³
NDC	照射後試験棟(F棟)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		4.8×10 ⁻¹¹
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	1.1×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³

(注) 原子力機構原科研
JRR-2：7月～9月は給排気停止。

3-1-3 排気中の全 α 放射能測定結果

測定者	施設名	項目	放出状況				主な放出核種及びDL	
			7月	8月	9月	平均		
核管センター	開発棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		Pu, U 1.1×10 ⁻¹¹ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微
	新分析棟	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		Pu, U 1.4×10 ⁻¹¹ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微
原子力機構原科研	燃料サイクル安全工学研究施設 (NUCEF)	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		Pu 9.8×10 ⁻¹² ~ 2.4×10 ⁻¹¹ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	微	微	微		計 微
原子力機構サイクル工研	プルトニウム燃料第一開発室、プルトニウム燃料第二開発室、プルトニウム燃料第三開発室、プルトニウム廃棄物処理開発施設	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		Pu 1.5×10 ⁻¹⁰ Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		
		放出量	実測分 (GBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (GBq)	6.6×10 ⁻⁵	5.3×10 ⁻⁵	5.3×10 ⁻⁵		計 1.7×10 ⁻⁴

3-2 排水

3-2-1 排水中の放射性核種分析結果

測定者	評価対象	排出基準
施設者	月平均濃度	法令値

(主要放出核種)

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びD L	
			7月	8月	9月	平均		
(注1) 原子力機構 原子科 研	第1	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co 2.5×10 ⁻³ ～ 3.5×10 ⁻³ Bq/cm ³	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	3.5×10 ⁻³ Bq/cm ³
			不検出分 (MBq)	微	微	微	計 微	
	第2	平均濃度 (Bq/cm ³)	1.3×10 ⁻¹	1.0×10 ⁻¹	9.5×10 ⁻²	1.1×10 ⁻¹	³ H 4.0×10 ⁻² ～ 2.1×10 ⁻¹ Bq/cm ³	
		放出量	実測分 (MBq)	2.4×10 ⁴	1.8×10 ⁴	1.7×10 ⁴	計 5.9×10 ⁴	2.1×10 ⁻¹ Bq/cm ³
			不検出分 (MBq)	2.9×10	5.4×10	3.1×10	計 1.1×10 ²	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	8.1×10 ⁻⁵	7.1×10 ⁻⁵	1.3×10 ⁻⁴	9.3×10 ⁻⁵	⁷ Be 1.9×10 ⁻² ～ 3.3×10 ⁻² Bq/cm ³	
		放出量	実測分 (MBq)	5.6	4.8	1.1×10	計 2.1×10	3.3×10 ⁻² Bq/cm ³
			不検出分 (MBq)	9.0	7.9	1.2×10	計 2.9×10	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	9.9×10 ⁻⁵	7.3×10 ⁻⁴	¹⁴ C 8.2×10 ⁻² ～ 1.3×10 ⁻¹ Bq/cm ³	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	2.9	計 2.9	1.3×10 ⁻¹ Bq/cm ³
			不検出分 (MBq)	1.3×10 ²	2.4×10 ²	1.5×10	計 3.9×10 ²	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	3.3×10 ⁻⁵	3.6×10 ⁻⁵	3.6×10 ⁻⁶	2.4×10 ⁻⁵	⁶⁰ Co 2.1×10 ⁻³ ～ 3.3×10 ⁻³ Bq/cm ³	
		放出量	実測分 (MBq)	3.9	1.7×10 ⁻¹	2.2×10 ⁻¹	計 4.3	3.3×10 ⁻³ Bq/cm ³
			不検出分 (MBq)	2.0	6.3	4.3×10 ⁻¹	計 8.7	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	3.5×10 ⁻⁵	4.2×10 ⁻⁵	3.5×10 ⁻⁶	2.7×10 ⁻⁵	¹³⁷ Cs 2.7×10 ⁻³ ～ 3.9×10 ⁻³ Bq/cm ³	
放出量	実測分 (MBq)	3.6	2.7	4.8×10 ⁻²	計 6.3	3.9×10 ⁻³ Bq/cm ³		
	不検出分 (MBq)	2.7	4.8	5.8×10 ⁻¹	計 8.1			

測定者	排水溝	項目		放出状況				分析核種 及びD L
				7月	8月	9月	平均	
(注1) 原子力機構原科研	第3	平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	⁶⁰ Co 2.1×10 ⁻³ ~ 3.6×10 ⁻³ Bq/cm ³
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	
			不検出分 (MBq)	微	4.7×10 ⁻²	微	計 4.7×10 ⁻²	
(注2) 原子力機構サイクル工研	第2	平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	Pu(a) 3.7×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	
			不検出分 (MBq)	微	4.1×10 ⁻³	6.1×10 ⁻³	計 1.0×10 ⁻²	
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	U 1.0×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	
			不検出分 (MBq)	微	微	微	計 微	
(注3) 原子力機構大洗	北地区	平均濃度 (Bq/cm ³)				2.1×10 ⁻²	6.9×10 ⁻³	³ H 7.3×10 ⁻² Bq/cm ³
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	6.9×10 ²	計 6.9×10 ²	
			不検出分 (MBq)	0	0	0	計 0	
		平均濃度 (Bq/cm ³)				×	×	⁶⁰ Co 3.0×10 ⁻³ Bq/cm ³
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	
			不検出分 (MBq)	0	0	9.6×10 ⁻¹	計 9.6×10 ⁻¹	
	平均濃度 (Bq/cm ³)				×	×	¹³⁷ Cs 4.3×10 ⁻³ Bq/cm ³	
	放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0		
		不検出分 (MBq)	0	0	1.3	計 1.3		
	南地区	平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	⁶⁰ Co 1.8×10 ⁻³ Bq/cm ³
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	
			不検出分 (MBq)	微	4.9×10 ⁻²	微	計 4.9×10 ⁻²	
平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	¹³⁷ Cs 1.8×10 ⁻³ Bq/cm ³		
放出量		実測分 (MBq)	0	0	0		計 0	
		不検出分 (MBq)	微	4.9×10 ⁻²	微		計 4.9×10 ⁻²	

測定者	排水溝	項目		放出状況				分析核種及びD L
				7月	8月	9月	平均	
(注4) 原子力機構	貯水槽	平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	³ H
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	4.0×10 ⁻²
			不検出分 (MBq)	0	0	3.4×10 ⁻¹	計 3.4×10 ⁻¹	Bq/cm ³
(注5) 原電	東海発電所	平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	⁶⁰ Co
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	7.1×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	5.2×10 ⁻¹	1.2	8.1×10 ⁻¹	計 2.5	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	¹³⁷ Cs
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	8.4×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	7.3×10 ⁻¹	1.4	8.2×10 ⁻¹	計 3.0	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	¹⁵² Eu
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	3.8×10 ⁻²
			不検出分 (MBq)	3.0	6.0	4.2	計 1.3×10	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	¹⁵⁴ Eu
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	2.0×10 ⁻²
			不検出分 (MBq)	1.6	3.3	2.0	計 6.9	Bq/cm ³
	東海第二発電所	平均濃度 (Bq/cm ³)		3.2×10 ⁻²	4.8×10 ⁻²	5.3×10 ⁻²	4.5×10 ⁻²	³ H
		放出量	実測分 (MBq)	3.3×10 ³	7.3×10 ³	5.9×10 ³	計 1.7×10 ⁴	5.8×10 ⁻²
			不検出分 (MBq)	0	0	2.7×10 ⁻¹	計 2.7×10 ⁻¹	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	⁵⁴ Mn
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	7.0×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	3.9	5.5	3.7	計 1.3×10	Bq/cm ³
平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	⁵⁸ Co		
放出量		実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	7.1×10 ⁻³	
	不検出分 (MBq)	4.1	5.3	3.9	計 1.3×10	Bq/cm ³		

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種 及びD L		
			7月	8月	9月	平均			
(注5) 原 電	東海第二 発電所	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	8.1×10 ⁻³	
			不検出分 (MBq)	4.8	6.0	4.4	計 1.5×10	Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)				×	⁸⁹ Sr		
		放出量	実測分 (MBq)	(3ヶ月合成試料)				計 0	6.8×10 ⁻⁴
			不検出分 (MBq)				計 8.6×10 ⁻¹	Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)				×	⁹⁰ Sr		
		放出量	実測分 (MBq)	(3ヶ月合成試料)				計 0	6.8×10 ⁻⁵
			不検出分 (MBq)				計 1.1×10 ⁻¹	Bq/cm ³	
J C O	廃水ポンド	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	U		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	7.4×10 ⁻⁴	
			不検出分 (MBq)	2.1×10 ⁻¹	2.1×10 ⁻¹	1.0×10 ⁻¹	計 5.2×10 ⁻¹	Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Th, Pa		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.1×10 ⁻³	
			不検出分 (MBq)	3.1×10 ⁻¹	3.1×10 ⁻¹	1.5×10 ⁻¹	計 7.7×10 ⁻¹	Bq/cm ³	
(注6) 三 菱 原 燃	排水ポンド	平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	U		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	4.0×10 ⁻⁴	
			不検出分 (MBq)	1.7	1.5	1.7	計 4.9	Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Th, Pa		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.0×10 ⁻³	
			不検出分 (MBq)	4.2	3.8	4.4	計 1.2×10	Bq/cm ³	
	排水貯槽	平均濃度 (Bq/cm ³)		×		×	U		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	4.0×10 ⁻⁴	
			不検出分 (MBq)	0	微	0	計 微	Bq/cm ³	

測定者	排水溝	項目		放出状況				分析核種 及びDL
				7月	8月	9月	平均	
(注6) 三菱原燃	排水貯槽	平均濃度 (Bq/cm ³)			×		×	Th, Pa
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.0×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	微	0	計 微	Bq/cm ³
N D C	排水貯槽	平均濃度 (Bq/cm ³)		2.8×10 ⁻⁴	4.4×10 ⁻⁴	3.1×10 ⁻⁴	3.4×10 ⁻⁴	¹³⁷ Cs
		放出量	実測分 (MBq)	1.1×10 ⁻²	3.5×10 ⁻²	1.5×10 ⁻²	計 6.1×10 ⁻²	2.3×10 ⁻⁴
			不検出分 (MBq)	0	0	微	計 微	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	⁶⁰ Co
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.3×10 ⁻⁴
			不検出分 (MBq)	微	微	微	計 微	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	⁵⁸ Co
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.3×10 ⁻⁴
			不検出分 (MBq)	微	微	微	計 微	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	U
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.2×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	4.8×10 ⁻²	9.6×10 ⁻²	9.6×10 ⁻²	計 2.4×10 ⁻¹	Bq/cm ³
原 燃 工	排水ポンド	平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	U
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	3.4×10 ⁻⁴
			不検出分 (MBq)	2.3×10 ⁻¹	1.5×10 ⁻¹	1.9×10 ⁻¹	計 5.7×10 ⁻¹	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	Th, Pa
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	8.4×10 ⁻⁴
			不検出分 (MBq)	5.7×10 ⁻¹	3.8×10 ⁻¹	4.8×10 ⁻¹	計 1.4	Bq/cm ³
(注7) 三菱マテリアル	排水貯槽	平均濃度 (Bq/cm ³)			×		×	U
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.2×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	6.0×10 ⁻²	0	計 6.0×10 ⁻²	Bq/cm ³

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL	
			7月	8月	9月	平均		
(注7) 三菱マテリアル	排水貯槽	平均濃度 (Bq/cm ³)		×		×	Th, Pa	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	4.4×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	2.2×10 ⁻¹	0	計 2.2×10 ⁻¹	Bq/cm ³
積水メデイカル	調整槽	平均濃度 (Bq/cm ³)	1.9	1.5	6.3×10 ⁻¹	1.4	³ H	
		放出量	実測分 (MBq)	3.0×10 ³	1.9×10 ³	6.8×10 ²	計 5.5×10 ³	2.0×10 ⁻²
			不検出分 (MBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)	1.2	1.1	7.9×10 ⁻¹	1.1	¹⁴ C	
		放出量	実測分 (MBq)	1.8×10 ³	7.3×10 ²	8.5×10 ²	計 4.2×10 ³	2.0×10 ⁻²
			不検出分 (MBq)	0	0	0	計 0	Bq/cm ³
(注8) 住友鉱山	屋外排水槽	平均濃度 (Bq/cm ³)	×			×	U	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	7.4×10 ⁻⁴
			不検出分 (MBq)	微	0	0	計 微	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×			×	Th, Pa	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.1×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	5.5×10 ⁻²	0	0	計 5.5×10 ⁻²	Bq/cm ³

(注1) 原子力機構原科研

第1：希釈倍率 1.0×10³倍。

第2：希釈倍率 9.6×10倍。

7月期の¹³⁷Csは、施設からの影響であり、8月期及び9月期の¹³⁷Csについては、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含む。

第3：希釈倍率1.1×10倍。

(注2) 原子力機構サイクル工研

第2：Pu (α), Uは月合成試料。

(注3) 原子力機構大洗

北地区：希釈倍率 1.9×10³倍。7月, 8月は排水の放出なし。

(注4) 原子力機構那珂

貯水槽：希釈倍率 1.8×10³倍。7月, 8月は排水の放出なし。

(注5) 原電

東海発電所：希釈倍率 2.7×10倍。

東海第二発電所：希釈倍率 1.9×10²倍。

³Hは月合成試料。⁸⁸Sr, ⁹⁰Srは3ヶ月合成試料。

(注6) 三菱原燃

排水貯槽：7月, 9月は排水の放出なし。

(注7) 三菱マテリアル

排水貯槽：7月, 9月は排水の放出なし。

(注8) 住友鉱山

屋外排水槽：8月, 9月は排水の放出なし。

3-2-1' 排水中の放射性核種分析結果

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種 及びDL
			7月	8月	9月	平均	
県	原子力機構 原科 研 (第 1)	濃度 (Bq/cm ³)	※	※	※	※	⁶⁰ Co 3.8×10 ⁻⁵ ~ 4.1×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	7.4	8.1	9.4		
	(注1) 〃 (第 2)	濃度 (Bq/cm ³)	2.2×10 ⁻²	7.4×10 ⁻¹	1.8×10 ⁻³	1.3×10 ⁻¹	³ H 3.2×10 ⁻⁴ ~ 3.1×10 ⁻³ Bq/cm ³
		採水月日	7.4	8.1	9.4		
		濃度 (Bq/cm ³)	2.2×10 ⁻³	1.1×10 ⁻³	8.7×10 ⁻⁴		
		採水月日	7.17	8.16	9.19		
		濃度 (Bq/cm ³)	※	※	※	※	⁷ Be 3.1×10 ⁻⁴ ~ 5.8×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日	7.4	8.1	9.4		
		濃度 (Bq/cm ³)	※	※	※		
		採水月日	7.17	8.16	9.19		
	濃度 (Bq/cm ³)	※	※	※	※	⁶⁰ Co 4.1×10 ⁻⁵ ~ 5.5×10 ⁻⁵ Bq/cm ³	
	採水月日	7.4	8.1	9.4			
	濃度 (Bq/cm ³)	※	※	※			
	採水月日	7.17	8.16	9.19			
	(第 3) 〃	濃度 (Bq/cm ³)	1.4×10 ⁻⁴	7.0×10 ⁻⁵	9.9×10 ⁻⁵	7.6×10 ⁻⁵	¹³⁷ Cs 3.6×10 ⁻⁵ ~ 5.7×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	7.4	8.1	9.4		
		濃度 (Bq/cm ³)	4.7×10 ⁻⁵	※	※		
		採水月日	7.17	8.16	9.19		
	原子力機構 サイクル工研 (第 2)	濃度 (Bq/cm ³)	※	※	※	※	⁶⁰ Co 3.8×10 ⁻⁵ ~ 4.3×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	7.25	8.3	9.20		
〃	濃度 (Bq/cm ³)	1.2×10 ⁻⁵	1.0×10 ⁻⁵	1.4×10 ⁻⁵	1.2×10 ⁻⁵	U 6.0×10 ⁻⁶ Bq/cm ³	
	採水月日	7.13	8.6	9.7			

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種 及びDL
			7月	8月	9月	平均	
県	原子力機構 サイクル工研 (第2)	濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	Pu(α) 1.4×10 ⁻⁶ ~ 2.8×10 ⁻⁶ Bq/cm ³
		採水月日	7.13	8.6	9.7		
	(注2) 原子力機構 大洗 (北地区)	濃度 (Bq/cm ³)	×	6.2×10 ⁻⁴	×	4.2×10 ⁻⁴	³ H 3.1×10 ⁻⁴ ~ 3.2×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日	7.2	8.16	9.4		
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co 4.1×10 ⁻⁵ ~ 5.0×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	7.2	8.16	9.4		
		濃度 (Bq/cm ³)	1.0×10 ⁻⁴	1.6×10 ⁻⁴	1.3×10 ⁻⁴	1.3×10 ⁻⁴	¹³⁷ Cs 3.5×10 ⁻⁵ ~ 4.9×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	7.2	8.16	9.4		
	(注3) 原電 (東海)	濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co 6.9×10 ⁻⁵ ~ 8.4×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	7.4	8.1	9.4		
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	2.4×10 ⁻⁴	¹³⁷ Cs 1.4×10 ⁻⁴ ~ 2.0×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日	7.17	8.16	9.19		
		濃度 (Bq/cm ³)	3.5×10 ⁻⁴	2.1×10 ⁻⁴	×		
		採水月日	7.4	8.1	9.4		
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	3.6×10 ⁻⁴	6.7×10 ⁻⁴	³ H 3.1×10 ⁻⁴ ~ 3.5×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日	7.17	8.16	9.19		
	(注3) 〃 (東海第二)	濃度 (Bq/cm ³)	4.3×10 ⁻⁴	4.0×10 ⁻⁴	3.1×10 ⁻⁴	6.7×10 ⁻⁴	³ H 3.1×10 ⁻⁴ ~ 3.5×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日	7.4	8.1	9.4		
		濃度 (Bq/cm ³)	×	4.5×10 ⁻⁴	2.1×10 ⁻³	×	⁵⁴ Mn 7.1×10 ⁻⁵ ~ 1.7×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日	7.17	8.16	9.19		
濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×			
採水月日		7.4	8.1	9.4			
濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	×	⁵⁴ Mn 7.1×10 ⁻⁵ ~ 1.7×10 ⁻⁴ Bq/cm ³	
採水月日		7.17	8.16	9.19			

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種 及びDL
			7月	8月	9月	平均	
県	(注3) 原電 (東海第二)	濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co 7.6×10 ⁻⁵ ~ 1.0×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日	7.4	8.1	9.4		
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		
		採水月日	7.17	8.16	9.19		
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	4.6×10 ⁻⁴	2.2×10 ⁻⁴	¹³⁷ Cs 1.1×10 ⁻⁴ ~ 1.4×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日	7.4	8.1	9.4		
		濃度 (Bq/cm ³)	×	1.2×10 ⁻⁴	2.9×10 ⁻⁴		
		採水月日	7.17	8.16	9.19		
	JCO	濃度 (Bq/cm ³)	3.6×10 ⁻⁵	7.8×10 ⁻⁵	2.4×10 ⁻⁴	1.2×10 ⁻⁴	U 1.5×10 ⁻⁵ ~ 4.8×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	7.12	8.9	9.13		
	三菱原燃	濃度 (Bq/cm ³)	3.6×10 ⁻⁴	1.8×10 ⁻⁴	1.4×10 ⁻⁴	2.3×10 ⁻⁴	U 3.6×10 ⁻⁵ ~ 6.6×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	7.4	8.16	9.4		
	原燃工	濃度 (Bq/cm ³)	3.1×10 ⁻⁵	2.7×10 ⁻⁵	6.4×10 ⁻⁴	4.1×10 ⁻⁴	U 1.2×10 ⁻⁵ ~ 2.1×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	7.4	8.1	9.19		
	ND C	濃度 (Bq/cm ³)	2.2×10 ⁻⁴	9.2×10 ⁻⁵	7.3×10 ⁻⁵	1.3×10 ⁻⁴	⁶⁰ Co 4.5×10 ⁻⁵ ~ 4.7×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	7.6	8.7	9.12		
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁵⁸ Co 4.8×10 ⁻⁵ ~ 6.2×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	7.6	8.7	9.12		
		濃度 (Bq/cm ³)	3.7×10 ⁻⁴	4.4×10 ⁻⁴	3.1×10 ⁻⁴	3.7×10 ⁻⁴	¹³⁷ Cs 6.7×10 ⁻⁵ ~ 9.3×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日	7.6	8.7	9.12		
積水 メデイカル	濃度 (Bq/cm ³)	1.9	1.5	7.5×10 ⁻²	1.2	³ H 4.2×10 ⁻² ~ 1.2×10 ⁻¹ Bq/cm ³	
	採水月日	7.17	8.1	9.4			
	濃度 (Bq/cm ³)	1.0	1.2	1.9×10 ⁻¹	8.0×10 ⁻¹	¹⁴ C 3.3×10 ⁻² ~ 7.8×10 ⁻² Bq/cm ³	
	採水月日	7.17	8.1	9.4			

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種 及びDL		
			7月	8月	9月	平均			
水 戸 原 子 力 事 務 所	原子力機構 原 科 研 (第 1)	濃 度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co 6.8×10 ⁻⁵		
		採 水 月 日	7.2	8.1	9.4		^{7.7} ×10 ⁻⁵ Bq/cm ³		
	(注1) "	(第 2)	濃 度 (Bq/cm ³)	×	5.3×10 ⁻¹	×	1.8×10 ⁻¹	³ H 4.6×10 ⁻³	
			採 水 月 日	7.2	8.1	9.4		^{4.7} ×10 ⁻³ Bq/cm ³	
		(第 2)	(第 2)	濃 度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁷ Be 7.7×10 ⁻⁴
				採 水 月 日	7.2	8.1	9.4		^{8.5} ×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		(第 2)	(第 2)	濃 度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	¹⁴ C 2.6×10 ⁻³
				採 水 月 日	7.2	8.1	9.4		^{2.7} ×10 ⁻³ Bq/cm ³
		(第 2)	(第 2)	濃 度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co 7.0×10 ⁻⁵
				採 水 月 日	7.2	8.1	9.4		^{7.6} ×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		(第 2)	(第 2)	濃 度 (Bq/cm ³)	1.1×10 ⁻⁴	×	1.8×10 ⁻⁴	1.3×10 ⁻⁴	¹³⁷ Cs 9.5×10 ⁻⁵
				採 水 月 日	7.2	8.1	9.4		^{9.8} ×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
	(第 3)	(第 3)	濃 度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co 6.8×10 ⁻⁵	
			採 水 月 日	7.25	8.3	9.20		^{7.4} ×10 ⁻⁵ Bq/cm ³	
	(注2) 原子力機構 大 洗 (北地区)	(第 2)	濃 度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	³ H 4.6×10 ⁻³	
			採 水 月 日	7.2	8.2	9.4		^{4.7} ×10 ⁻³ Bq/cm ³	
		(第 2)	(第 2)	濃 度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co 6.8×10 ⁻⁵
				採 水 月 日	7.2	8.2	9.4		^{7.2} ×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		(第 2)	(第 2)	濃 度 (Bq/cm ³)	1.8×10 ⁻⁴	2.3×10 ⁻⁴	5.6×10 ⁻⁴	3.2×10 ⁻⁴	¹³⁷ Cs 9.6×10 ⁻⁵
				採 水 月 日	7.2	8.2	9.4		^{9.9} ×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
積 水 メ デ イ カ ル	積 水 メ デ イ カ ル	濃 度 (Bq/cm ³)	2.1	1.4	5.9×10 ⁻²	1.2	³ H 4.6×10 ⁻³		
		採 水 月 日	7.2	8.1	9.4		^{4.7} ×10 ⁻³ Bq/cm ³		

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種 及びDL
			7月	8月	9月	平均	
水戸原子力事務所	積水メデイカル	濃度 (Bq/cm ³)	9.9×10 ⁻¹	1.2	2.2×10 ⁻¹	8.0×10 ⁻¹	¹⁴ C 2.6×10 ⁻³
		採水月日	7.2	8.1	9.4		2.7×10 ⁻³ Bq/cm ³
	(注3) 原電 (東海)	濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	³ H 4.6×10 ⁻³
		採水月日	7.2	8.1	9.4		4.7×10 ⁻³ Bq/cm ³
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co 7.4×10 ⁻⁵
		採水月日	7.2	8.1	9.4		8.7×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	1.1×10 ⁻⁴	1.1×10 ⁻⁴	¹³⁷ Cs 9.8×10 ⁻⁵
		採水月日	7.2	8.1	9.4		1.1×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
	(注3) 〃 (東海第二)	濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	³ H 4.6×10 ⁻³
		採水月日	7.2	8.1	9.4		4.7×10 ⁻³ Bq/cm ³
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁵⁴ Mn 6.5×10 ⁻⁵
		採水月日	7.2	8.1	9.4		1.1×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	⁶⁰ Co 7.4×10 ⁻⁵
		採水月日	7.2	8.1	9.4		8.7×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
濃度 (Bq/cm ³)		1.4×10 ⁻⁴	×	×	1.1×10 ⁻⁴	¹³⁷ Cs 9.8×10 ⁻⁵	
採水月日		7.2	8.1	9.4		1.0×10 ⁻⁵ Bq/cm ³	

(注1) 原子力機構原科研(第2): ¹³⁷Csについては、県及び水戸原子力事務所の採取日には、施設から¹³⁷Csを含む廃液の放出はないため、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。

(注2) 原子力機構大洗(北地区): ¹³⁷Csについては、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。

(注3) 原電(東海)・(東海第二): ¹³⁷Csについては、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。

3-2-1” 排水中の放射性核種分析結果

(その他検出された核種)

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析及びDL
			7月	8月	9月	平均	
(注1) 原子力機構 原科研	第1	平均濃度 (Bq/cm ³)	/	/	7.5×10^{-8}		²³² Th 3.6×10^{-4}
		放出量 (実測分) (MBq)	/	/	6.4×10^{-3}	計 6.4×10^{-3}	Bq/cm ³
	第2	平均濃度 (Bq/cm ³)	7.8×10^{-6}	2.1×10^{-6}	8.9×10^{-6}	/	²² Na 2.5×10^{-3}
		放出量 (実測分) (MBq)	1.4	3.7×10^{-1}	1.6	計 3.4	4.9×10^{-3} Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)	/	/	6.1×10^{-6}	/	⁵⁴ Mn 2.6×10^{-3}
		放出量 (実測分) (MBq)	/	/	1.1	計 1.1	4.0×10^{-3} Bq/cm ³
	平均濃度 (Bq/cm ³)	(3ヶ月合成試料)			1.3×10^{-9}	⁹⁰ Sr	
	放出量 (実測分) (MBq)	(3ヶ月合成試料)			計 7.0×10^{-4}	6.2×10^{-5} Bq/cm ³	
(注2) 原電	東海発電所	平均濃度 (Bq/cm ³)	(3ヶ月合成試料)			7.6×10^{-6}	⁹⁰ Sr
		放出量 (実測分) (MBq)	(3ヶ月合成試料)			計 7.4×10^{-2}	5.6×10^{-5} Bq/cm ³
	東海第二発電所	平均濃度 (Bq/cm ³)	/	/	1.8×10^{-6}	/	³⁶ Cl
		放出量 (実測分) (MBq)	/	/	2.0×10^{-1}	計 2.0×10^{-1}	1.5×10^{-2} Bq/cm ³

(注1) 原子力機構原科研

第1：希釈倍率 1.0×10^3 倍

²³²Th：第4研究棟からの廃液

第2：希釈倍率 9.6×10 倍

²²Na：J-PARC施設からの廃液

⁵⁴Mn：J-PARC施設からの廃液

⁹⁰Sr：RI製造棟からの廃液

(注2) 原電

東海発電所：希釈倍率 2.7×10 倍, 3ヶ月合成試料

東海第二発電所：希釈倍率 2.0×10^2 倍, 月合成試料

³⁶Clは雑固体減容処理設備の排ガス洗浄廃液より検出(東海発電所の燃料被覆材及び減速材(黒鉛)中の不純物(³⁶Cl)の放射化)。

参考) 排液中又は排水中の濃度限度

試験研究の用に供する原子炉等の設置、運転等に関する規則等の規定に基づき、線量限度等を定める告示
(昭和63年7月26日科学技術庁告示第20号、平成17年11月30日文部科学省告示第163号により一部改正)

核種	濃度限度 ^(注1) (Bq/cm ³)	核種	濃度限度 (Bq/cm ³)	核種	濃度限度 (Bq/cm ³)
³ H	6×10 ^(注2)	⁶⁵ Zu	2×10 ⁻¹	¹³⁴ Cs	6×10 ⁻²
⁷ Be	3×10	⁸⁷ Y	2	¹³⁷ Cs	9×10 ⁻²
¹⁴ C	2	⁸⁹ Sr	3×10 ⁻¹	¹⁴⁴ Ce	2×10 ⁻¹
²² Na	3×10 ⁻¹	⁹⁰ Sr	3×10 ⁻²	¹⁵² Eu	6×10 ⁻¹
³⁵ S	1	⁹⁵ Zr	9×10 ⁻¹	¹⁵⁴ Eu	4×10 ⁻¹
³⁶ Cl	9×10 ⁻¹	⁹⁵ Nb	1	¹⁹² Ir	6×10 ⁻¹
⁵¹ Cr	2×10	^{99m} Tc	4×10	²³² Th	4×10 ⁻³
⁵⁴ Mn	1	¹⁰³ Ru	1	²³⁴ Th	2×10 ⁻¹
⁵⁷ Co	4×10	¹⁰⁶ Ru	1×10 ⁻¹	U	2×10 ⁻²
⁵⁸ Co	1	^{110m} Ag	3×10 ⁻¹	²³⁷ Np	9×10 ⁻³
⁵⁹ Fe	4×10 ⁻¹	¹²⁹ I	9×10 ⁻³	²³⁹ Pu	4×10 ⁻³
⁶⁰ Co	2×10 ⁻¹	¹³¹ I	4×10 ⁻²	²⁴¹ Am	5×10 ⁻³

(注1) 濃度限度は3ヶ月平均濃度であり、³H以外の核種はその核種において最も低い値である。

(注2) 水としての濃度限度。有機物(メタンを除く)としての濃度限度は2×10Bq/cm³。

3-2-2 排水中の全β放射能測定結果

測定者	評価対象	判断基準
施設者	月最高濃度	2×10^{-2} Bq/cm ³
	月平均濃度	4×10^{-3} Bq/cm ³
県 水戸原子力事務所	測定毎濃度	2×10^{-2} Bq/cm ³

測定者	排水溝	項目	放出状況				主な放出核種及びDL	
			7月	8月	9月	平均		
(注1) 原子力機構原科研	第1	最高濃度 (Bq/cm ³)	2.1×10^{-4}	2.0×10^{-4}	2.5×10^{-4}		⁶⁰ Co 2.2×10^{-5}	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	2.0×10^{-4}	2.0×10^{-4}	2.5×10^{-5} Bq/cm ³	
	第2	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co, ¹³⁷ Cs 2.1×10^{-5}	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	2.5×10^{-5} Bq/cm ³	
	第3	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		⁶⁰ Co 2.2×10^{-5}	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	2.6×10^{-5} Bq/cm ³	
(注2) 原サイクル機工構研	第1	最高濃度 (Bq/cm ³)	1.5×10^{-6}	8.1×10^{-6}	5.9×10^{-6}		U 1.8×10^{-4} Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	1.5×10^{-6}	2.5×10^{-6}	3.2×10^{-6}	2.4×10^{-6}		
		放出量	実測分 (MBq)	2.6×10^{-2}	4.8×10^{-2}	5.9×10^{-2}		計 1.3×10^{-1}
			不検出分 (MBq)	0	0	0		計 0
(注3) 原大子力機構洗	北地区	最高濃度 (Bq/cm ³)	3.6×10^{-4}	4.0×10^{-4}	4.1×10^{-4}		⁶⁰ Co, ¹³⁷ Cs 2.0×10^{-4} Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	2.9×10^{-4}	3.6×10^{-4}	3.5×10^{-4}	3.3×10^{-4}		
(注4) 原那子力機構珂	貯水槽	最高濃度 (Bq/cm ³)			×		全β 3.6×10^{-3} Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)			×	×		
積メデイカル水	調整槽	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		全β 2.0×10^{-4} Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×		

- (注1) 原子力機構原科研
福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含む。
- (注2) 原子力機構サイクル工研
希釈倍率 1.2×10^2 倍。連続採取による合成試料。
- (注3) 原子力機構大洗
福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含む。
- (注4) 原子力機構那珂
希釈倍率 1.8×10^3 倍。7月、8月は排水の放出なし。

3-2-2' 排水中の全β放射能測定結果

測定者	排水溝	項目	放出状況			
			7月	8月	9月	平均
県	原子力機構原科研 (第1)	濃度 (Bq/cm ³)	×	×	2.5×10 ⁻⁴	2.2×10 ⁻⁴
		採水月日	7.4	8.1	9.4	
	〃 (第2)	濃度 (Bq/cm ³)	2.1×10 ⁻⁴	3.0×10 ⁻⁴	2.3×10 ⁻⁴	2.2×10 ⁻⁴
		採水月日	7.4	8.1	9.4	
		濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	
		採水月日	7.17	8.16	9.19	
	〃 (第3)	濃度 (Bq/cm ³)	2.4×10 ⁻⁴	×	×	2.1×10 ⁻⁴
		採水月日	7.25	8.3	9.20	
	原子力機構サイクル工研 (第1)	濃度 (Bq/cm ³)	4.9×10 ⁻⁴	4.9×10 ⁻⁴	4.9×10 ⁻⁴	4.9×10 ⁻⁴
		採水月日	7.4	8.1	9.4	
	〃 (第2)	濃度 (Bq/cm ³)	2.4×10 ⁻⁴	5.6×10 ⁻⁴	×	3.3×10 ⁻⁴
		採水月日	7.13	8.6	9.7	
	原子力機構大洗 (北地区)	濃度 (Bq/cm ³)	2.6×10 ⁻⁴	2.8×10 ⁻⁴	3.6×10 ⁻⁴	3.0×10 ⁻⁴
		採水月日	7.2	8.16	9.4	
	三菱原燃	濃度 (Bq/cm ³)	8.9×10 ⁻⁴	5.8×10 ⁻⁴	4.6×10 ⁻⁴	6.4×10 ⁻⁴
		採水月日	7.4	8.16	9.4	
	原燃工	濃度 (Bq/cm ³)	7.1×10 ⁻⁴	7.0×10 ⁻⁴	6.3×10 ⁻⁴	6.8×10 ⁻⁴
		採水月日	7.4	8.1	9.19	
JCO	濃度 (Bq/cm ³)	5.0×10 ⁻⁴	7.9×10 ⁻⁴	4.5×10 ⁻⁴	5.8×10 ⁻⁴	
	採水月日	7.12	8.9	9.13		
NDC	濃度 (Bq/cm ³)	9.5×10 ⁻⁴	9.2×10 ⁻⁴	2.4×10 ⁻⁴	7.0×10 ⁻⁴	
	採水月日	7.6	8.7	9.12		
積水メディカル	濃度 (Bq/cm ³)	3.4×10 ⁻⁴	4.0×10 ⁻⁴	2.3×10 ⁻⁴	3.2×10 ⁻⁴	
	採水月日	7.17	8.1	9.4		
(注) 住友鋳山	濃度 (Bq/cm ³)	4.9×10 ⁻⁴			1.6×10 ⁻⁴	
	採水月日	7.12				

測定者	排水溝	項目	放出状況			
			7月	8月	9月	平均
水戸原子力事務所	原子力機構原科研 (第1)	濃度 (Bq/cm ³)	5.6×10 ⁻⁴	×	×	3.2×10 ⁻⁴
		採水月日	7.2	8.1	9.4	
	〃 (第2)	濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×
		採水月日	7.2	8.1	9.4	
	〃 ^(注1) (第3)	濃度 (Bq/cm ³)	2.6×10 ⁻⁴	×	×	2.2×10 ⁻⁴
		採水月日	7.25	8.3	9.20	
	原子力機構サイクル工研 (第1)	濃度 (Bq/cm ³)	4.8×10 ⁻⁴	3.3×10 ⁻⁴	3.7×10 ⁻⁴	3.9×10 ⁻⁴
		採水月日	7.2	8.1	9.4	
	原子力機構大洗 (北地区)	濃度 (Bq/cm ³)	2.7×10 ⁻⁴	2.9×10 ⁻⁴	7.7×10 ⁻⁴	4.4×10 ⁻⁴
		採水月日	7.2	8.2	9.4	
	積水メディカル	濃度 (Bq/cm ³)	×	2.7×10 ⁻⁴	×	2.2×10 ⁻⁴
		採水月日	7.2	8.1	9.4	
三菱原燃	濃度 (Bq/cm ³)	×	2.2×10 ⁻⁴	2.9×10 ⁻⁴	2.4×10 ⁻⁴	
	採水月日	7.2	8.2	9.4		
JCO	濃度 (Bq/cm ³)	4.6×10 ⁻⁴	2.2×10 ⁻⁴	2.2×10 ⁻⁴	3.0×10 ⁻⁴	
	採水月日	7.12	8.9	9.13		
原燃工	濃度 (Bq/cm ³)	×	4.9×10 ⁻⁴	3.4×10 ⁻⁴	3.4×10 ⁻⁴	
	採水月日	7.11	8.1	9.5		

(注) 住友鉱山：8月、9月は排水の放出なし。

3-2-3 再処理施設排水中の放射性核種分析結果

測定者	評価対象	判断基準
施設者	3ヶ月放出量	保安規定に定める3ヶ月当たりの最大放出量
県	測定毎濃度	保安規定に定める最大放出濃度

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL	
			7月	8月	9月	平均		
原子力機構サイクル工研	再処理施設	平均濃度 (Bq/cm ³)		1.6×10 ²	1.4×10 ²	1.5×10 ²	³ H	
		放出量	実測分 (MBq)	0	9.3×10 ⁴	8.1×10 ⁴	計 1.7×10 ⁵	3.7
			不検出分 (MBq)	0	1.9×10	0	計 1.9×10	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	⁸⁹ Sr	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	2.2×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	1.3	1.3	計 2.6	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	⁹⁰ Sr	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.1×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	6.4×10 ⁻¹	6.4×10 ⁻¹	計 1.3	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	⁹⁵ Zr	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	2.5×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	1.5	1.5	計 3.0	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	⁹⁵ Nb	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.8×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	1.1	1.0	計 2.1	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹⁰³ Ru	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.1×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	6.4×10 ⁻¹	6.4×10 ⁻¹	計 1.3	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹⁰⁶ Ru - ¹⁰⁶ Rh	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	3.2×10 ⁻²
			不検出分 (MBq)	0	1.9×10	1.9×10	計 3.8×10	Bq/cm ³

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種 及びDL	
			7月	8月	9月	平均		
原子力 機構 サイ クル 工 研	再 処 理 施 設	平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹²⁹ I	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.4×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	8.2×10 ⁻¹	8.1×10 ⁻¹	計 1.6	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹³¹ I	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.8×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	1.1	1.0	計 2.1	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹³⁴ Cs	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.1×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	6.4×10 ⁻¹	6.4×10 ⁻¹	計 1.3	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹³⁷ Cs	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	1.8×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	1.1	1.0	計 2.1	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹⁴¹ Ce	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	2.2×10 ⁻³
			不検出分 (MBq)	0	1.3	1.3	計 2.6	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹⁴⁴ Ce - ¹⁴⁴ Pr	
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0	計 0	2.2×10 ⁻²
			不検出分 (MBq)	0	1.3×10	1.3×10	計 2.6×10	Bq/cm ³
		平均濃度 (Bq/cm ³)			7.0×10 ⁻⁵	×	5.3×10 ⁻⁵	Pu (α)
		放出量	実測分 (MBq)	0	4.1×10 ⁻²	0	計 4.1×10 ⁻²	3.7×10 ⁻⁵
			不検出分 (MBq)	0	0	2.1×10 ⁻²	計 2.1×10 ⁻²	Bq/cm ³

(注) ⁸⁹Sr, ⁹⁰Sr, ¹²⁹I 及びPu (α) は月合成試料
7月は排水の放出なし。

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL
			7月	8月	9月	平均	
県	原子力機構 サイクル工研 (再処理施設)	濃度 (Bq/cm ³)		1.5×10 ²	1.4×10 ²	4.8×10	³ H 6.6×10 ⁻¹ ~ 6.8×10 ⁻¹ Bq/cm ³
		採水月日		8.2	9.13		
		濃度 (Bq/cm ³)					
		採水月日					
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	⁹⁵ Zr 2.5×10 ⁻⁴ ~ 3.3×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日		8.2	9.13		
		濃度 (Bq/cm ³)					
		採水月日					
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	⁹⁵ Nb 2.3×10 ⁻⁴ ~ 4.5×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日		8.2	9.13		
		濃度 (Bq/cm ³)					
		採水月日					
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹⁰⁶ Ru 9.5×10 ⁻⁴ ~ 1.3×10 ⁻³ Bq/cm ³
		採水月日		8.2	9.13		
		濃度 (Bq/cm ³)					
		採水月日					
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹³¹ I 1.4×10 ⁻³ ~ 2.3×10 ⁻³ Bq/cm ³
		採水月日		8.2	9.13		
		濃度 (Bq/cm ³)					
		採水月日					
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹³⁴ Cs 1.8×10 ⁻⁴ ~ 2.8×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日		8.2	9.13		
		濃度 (Bq/cm ³)					
		採水月日					

測定者	排水溝	項目	放出状況				分析核種及びDL
			7月	8月	9月	平均	
県	原子力機構 サイクル工研 (再処理施設)	濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹³⁷ Cs 1.6×10 ⁻⁴ ~ 2.6×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日		8.2	9.13		
		濃度 (Bq/cm ³)					
		採水月日					
		濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×	¹⁴⁴ Ce 6.3×10 ⁻⁴ ~ 6.5×10 ⁻⁴ Bq/cm ³
		採水月日		8.2	9.13		
		濃度 (Bq/cm ³)					
		採水月日					
		濃度 (Bq/cm ³)		6.8×10 ⁻⁵	7.6×10 ⁻⁵	2.4×10 ⁻⁵	Pu (α) 2.0×10 ⁻⁵ Bq/cm ³
		採水月日		8.2	9.13		
		濃度 (Bq/cm ³)					
		採水月日					

(注) 7月は排水の放出なし。
8月、9月の排水の放出は1ロットのみ。

参 考 法 令 値

核燃料物質の加工の事業に関する規則等の規定に基づき、線量限度等を定める告示（平成12年12月26日科学技術庁告示第13号，平成17年11月22日経済産業省告示第293号により一部改正）第9条第2～4項（再処理施設に適用）

海洋放出に起因する線量限度は3ヶ月間につき250マイクロシーベルトとするに基づき、原子力機構サイクル工研再処理施設保安規定では、次表のとおり放出の基準を定めている。

なお、本基準の「1年間の最大放出量」で放射性液体廃棄物を海洋へ放出した場合の実効線量は、年間約5.4マイクロシーベルトに相当する。また、「3ヶ月当たりの最大放出量」は、「1年間の最大放出量」の4分の1に当たる。「最大放出濃度」及び「1日当たりの最大放出量」は、これらを守るための日常の運転管理に係る基準である。

区 分	最 大 放 出 濃 度 (Bq/cm ³)	1 日 当 た り の 最 大 放 出 量 (GBq)	3 ヶ 月 当 た り の 最 大 放 出 量 (GBq)	1 年 間 の 最 大 放 出 量 (GBq)
全α放射能	3.0×10^{-2}	1.1×10^{-2}	1.0	4.1
全β放射能 (³ Hを除く)	1.2×10	3.7	2.4×10^2	9.6×10^2
⁸⁹ Sr	(注1) 2.3×10^{-1}	(注2) 7.0×10^{-2}	4.1	1.6×10
⁹⁰ Sr	(注1) 4.8×10^{-1}	(注2) 1.4×10^{-1}	8.1	3.2×10
⁹⁵ Zr - ⁹⁵ Nb	5.9×10^{-1}	1.7×10^{-1}	1.0×10	4.1×10
¹⁰³ Ru	9.3×10^{-1}	2.7×10^{-1}	1.6×10	6.4×10
¹⁰⁶ Ru - ¹⁰⁶ Rh	7.4	2.1	1.3×10^2	5.1×10^2
¹³⁴ Cs	8.5×10^{-1}	2.5×10^{-1}	1.5×10	6.0×10
¹³⁷ Cs	7.8×10^{-1}	2.3×10^{-1}	1.4×10	5.5×10
¹⁴¹ Ce	8.1×10^{-2}	2.4×10^{-2}	1.5	5.9
¹⁴⁴ Ce - ¹⁴⁴ Pr	1.7	5.2×10^{-1}	3.0×10	1.2×10^2
³ H	2.5×10^4	7.4×10^3	4.7×10^5	1.9×10^6
¹²⁹ I	(注1) 3.7×10^{-1}	(注2) 1.1×10^{-1}	6.7	2.7×10
¹³¹ I	1.6	5.2×10^{-1}	3.0×10	1.2×10^2
Pu (α)	(注1) 3.0×10^{-2}	(注2) 1.1×10^{-2}	5.9×10^{-1}	2.3

(注1) 1ヶ月平均1日最大放出濃度

(注2) 1ヶ月平均1日最大放出量

3-2-4 再処理施設排水中の全β放射能測定結果

測定者	評価対象	再処理排水に係わる低減化目標値
施設者	月最高濃度	10 Bq/cm ³
	月平均濃度	4 Bq/cm ³
県	測定毎濃度	10 Bq/cm ³

測定者	排水溝	項目	放出状況				主な放出核種及びDL	
			7月	8月	9月	平均		
原子力機構 サイクル工研	再処理施設	最高濃度 (Bq/cm ³)		×	×		2.2×10 ⁻² Bq/cm ³	
		平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×		
		放出量	実測分 (MBq)	0	0	0		計 0
			不検出分 (MBq)	0	1.3×10	1.3×10		計 2.6×10

(注) 7月は排水の放出なし。

3-2-4' 再処理施設排水中の全β放射能測定結果

測定者	排水溝	項目	放出状況			
			7月	8月	9月	平均
県	原子力機構 サイクル工研 (再処理施設)	濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×
		採水月日		8.2	9.13	
		濃度 (Bq/cm ³)				
		採水月日				

(注) 7月は排水の放出なし。

3-2-5 排水中の全γ放射能連続測定結果

測定者	排水溝	項目		放出状況			
				7月	8月	9月	平均
県	原子力機構 原科研 (第2)	降雨時	最高濃度 (Bq/cm ³)	1.2×10 ⁻¹	1.1×10 ⁻¹	8.9×10 ⁻²	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×
		降雨時以外	最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×
	(注1) 原子力機構 サイクル工研 (再処理施設)	排水期時間	最高濃度 (Bq/cm ³)		×	×	
			平均濃度 (Bq/cm ³)		×	×	×
	原子力機構 大洗 (北地区)	降雨時	最高濃度 (Bq/cm ³)	1.0×10 ⁻¹	1.5×10 ⁻¹	1.1×10 ⁻¹	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	7.2×10 ⁻²	7.9×10 ⁻²	6.9×10 ⁻²	7.3×10 ⁻²
		降雨時以外	最高濃度 (Bq/cm ³)	8.5×10 ⁻²	9.1×10 ⁻²	7.5×10 ⁻²	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	7.2×10 ⁻²	7.1×10 ⁻²	6.7×10 ⁻²	7.0×10 ⁻²
	原電 (東海第二)	降雨時	最高濃度 (Bq/cm ³)	1.1×10 ⁻²	×	×	
			平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×
降雨時以外		最高濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×		
		平均濃度 (Bq/cm ³)	×	×	×	×	

(注1) 原子力機構サイクル工研(再処理施設): 7月は排水の放出なし。

(注2) 測定値は、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含む。

平成24年度第2 四半期における排水から検出された核種を福島第一原子力発電所事故起因とする理由
(排水)

事業所名	排水溝名	福島第一原発事故 起因とする核種名	福島第一原発事故起因とする（各事業所起因でない）理由
原子力機構 原子科 研	第2排水溝 (JRR-3からの排水)	^{137}Cs	○施設定期自主検査中であり、原子炉の運転は実施していない。 ○地震以降、燃料要素の破損など ^{137}Cs が検出されるような異常は確認されていない。
原子力機構 サイクル工研	第1排水溝 (プルトニウム燃料第二開発室、プルトニウム燃料第三開発室、安全管理棟、ウラン焼却施設、ウラン系廃棄物貯蔵施設、洗濯場)	^{134}Cs , ^{137}Cs	○プルトニウム燃料第二開発室、プルトニウム燃料第三開発室、ウラン焼却施設、ウラン系廃棄物貯蔵施設、洗濯場は ^{134}Cs , ^{137}Cs の使用許可を取っておらず、使用実績もない。 ○安全管理棟は本四半期における、 ^{134}Cs , ^{137}Cs の使用実績はない。
原子力機構 大 洗	北地区 (JMTR, HTTR, 常陽, FMF)	^{137}Cs	(JMTR, HTTR及び常陽) ○それぞれの原子炉は、施設定期検査中であり、放射性物質の放出を伴う運転等は実施されていない。 (FMF) ○燃料ピン切断作業やピンパンチャー試験等の放出に伴う運転は実施されなかった。 (全施設共通) ○管理区域からの排水については、 ^3H 以外は検出されていない。 ○主要核種である ^{60}Co が検出されていない。
原 電	東海発電所	^{137}Cs	○廃止措置中であり、全燃料が取り出されている。 ○放射性物質の所外放出を伴うような設備の損傷はない。 ○ ^{60}Co 等の放射化生成物は放出前の排水測定において検出されていない。
	東海第二発電所	^{137}Cs	○東北地方太平洋沖地震により停止し、5月21日から第25回定期検査中である。 ○放射性物質の所外放出を伴うような設備の損傷はない。 ○ ^{60}Co 等の放射化生成物は放出前の排水測定において検出されていない。

Ⅲ－２ 長期的変動調査結果

１ 環境における測定結果

１－１ 空間γ線量測定結果

１－１－１ サーベイ

測定者	測定地点	測定値 (nGy/時)	
		平成24年4月	平成24年7月
県	東海村 舟石川 ^(注2)	94	
	〃 須和間	110	
	〃 豊岡	85	
	〃 外宿	130	
	常陸太田市 真弓	58	
	〃 佐竹	56	
	日立市 河原子	100	
	那珂市 額田	71	
	〃 瓜連	69	
	ひたちなか市 部田野	64	
	大洗町 成田	100	
	〃 磯浜	180	
	茨城町 若宮	62	
	鉾田市 大谷川	87	
	〃 旭中学校	110	
	〃 舟木	110	
	〃 徳宿	95	
水戸市 石川	75		
原子力機構原科研	東海村 舟石川 ^(注2)	120	
	〃 須和間	200	
	〃 照沼	110	
	ひたちなか市 稲田	94	
	〃 宮前	370	
原子力機構大洗	大洗町 原子力機構南グラウンド	180	
	〃 旧陣屋	92	
	鉾田市 大谷川	150	
	〃 旭中学校	130	

測定者	測定地点	測定値 (nGy/時)	
		平成24年4月	平成24年7月
水戸原原子力事務所	東海村舟石川 ^(注2)		130
	〃 須和間		170
	〃 豊岡		110
	〃 外宿		160
	〃 照沼		140
	常陸太田市真弓		91
	日立市河原子		95
	那珂市額田		81
	〃 瓜連		96
	ひたちなか市宮前		96
	〃 稲田		79
	〃 部田野		200
	大洗町旧陣屋		130
	〃 磯浜		140
	茨城町若宮		110
	鉾田市大谷川		96
	〃 旭中学校		130
	〃 舟木		110
	〃 徳宿		120
	水戸市愛宕町		140
原子力機構サイクル工研	東海村舟石川 ^(注2)		110
	〃 須和間		210
	〃 照沼		92
	ひたちなか市稲田		80
	〃 宮前		320
原電	東海村舟石川 ^(注2)		120
	〃 須和間		120
	〃 豊岡		110
	〃 外宿		200

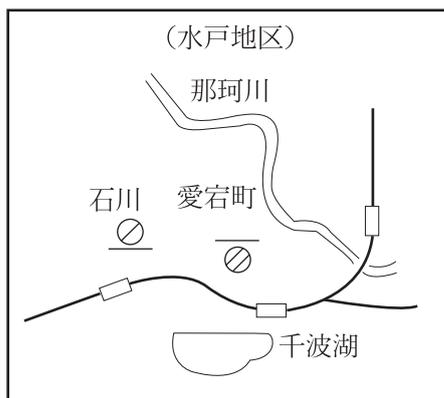
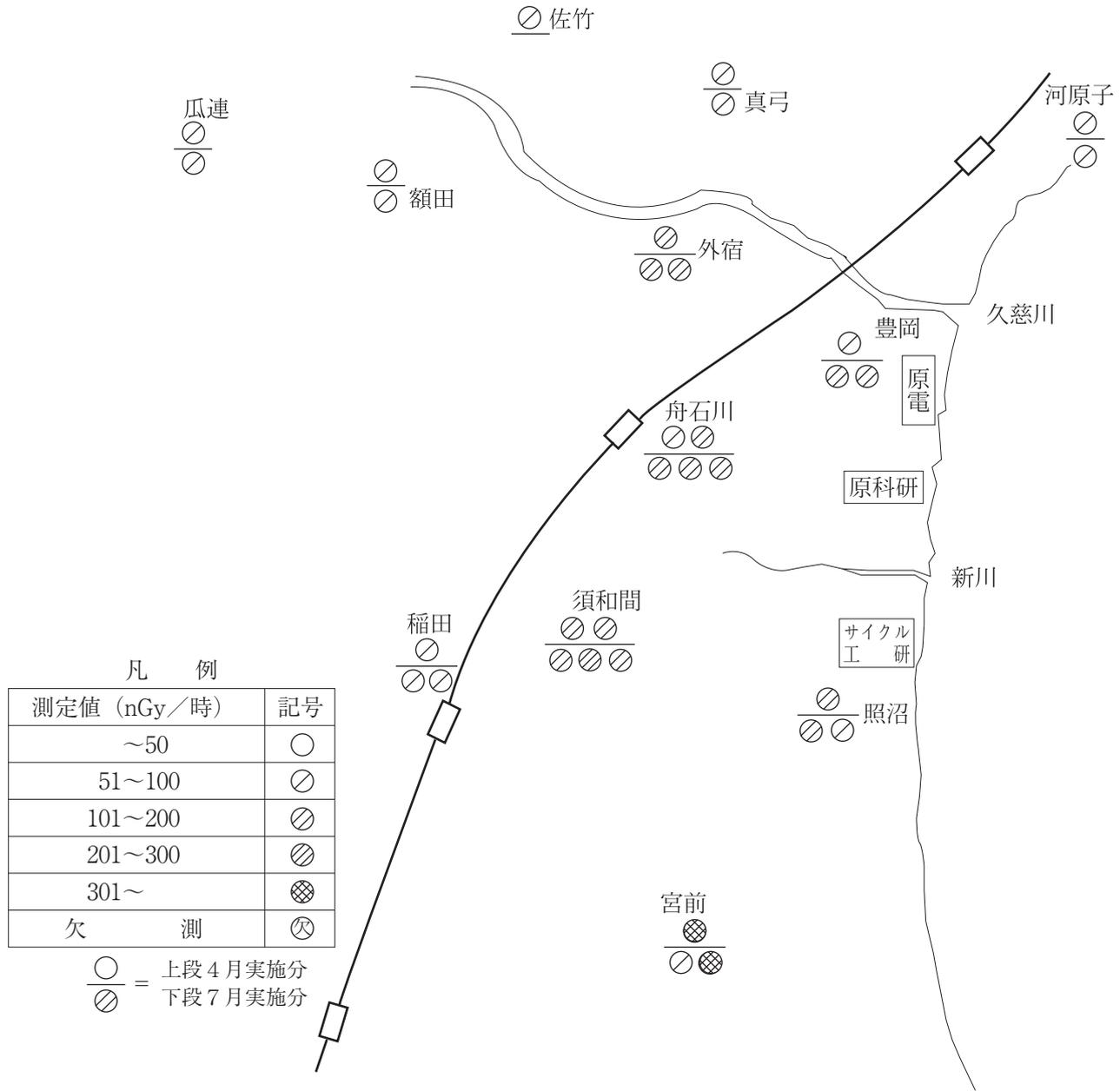
(注1) 測定値は福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含む。

(注2) 東海村舟石川地点については、東海中学校グラウンド拡張工事に伴う原電住宅の廃止により、平成24年4月から原子力機構長堀住宅に変更。

(注3) 福島第一原子力発電所事故の影響により、樹木等が多く存在している場所では、空間ガンマ線量率が高くなる傾向にあるが、いずれの値も測定地点における計測値であり、その地域全体を代表する値ではない。

サーベイ（空間ガンマ線量率）分布図（平成24年4月，24年7月）

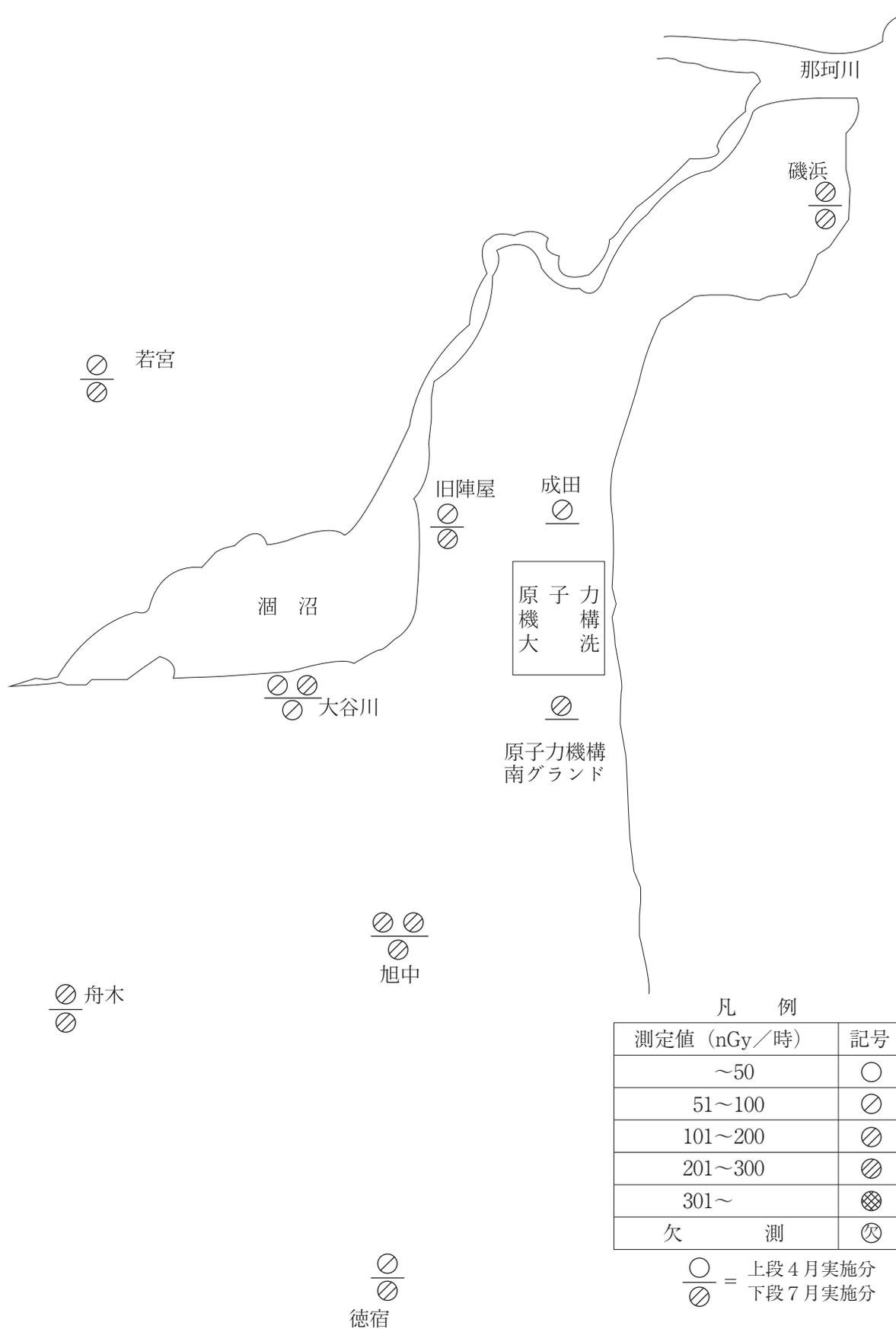
【東海地区】



部田野
◌
◐

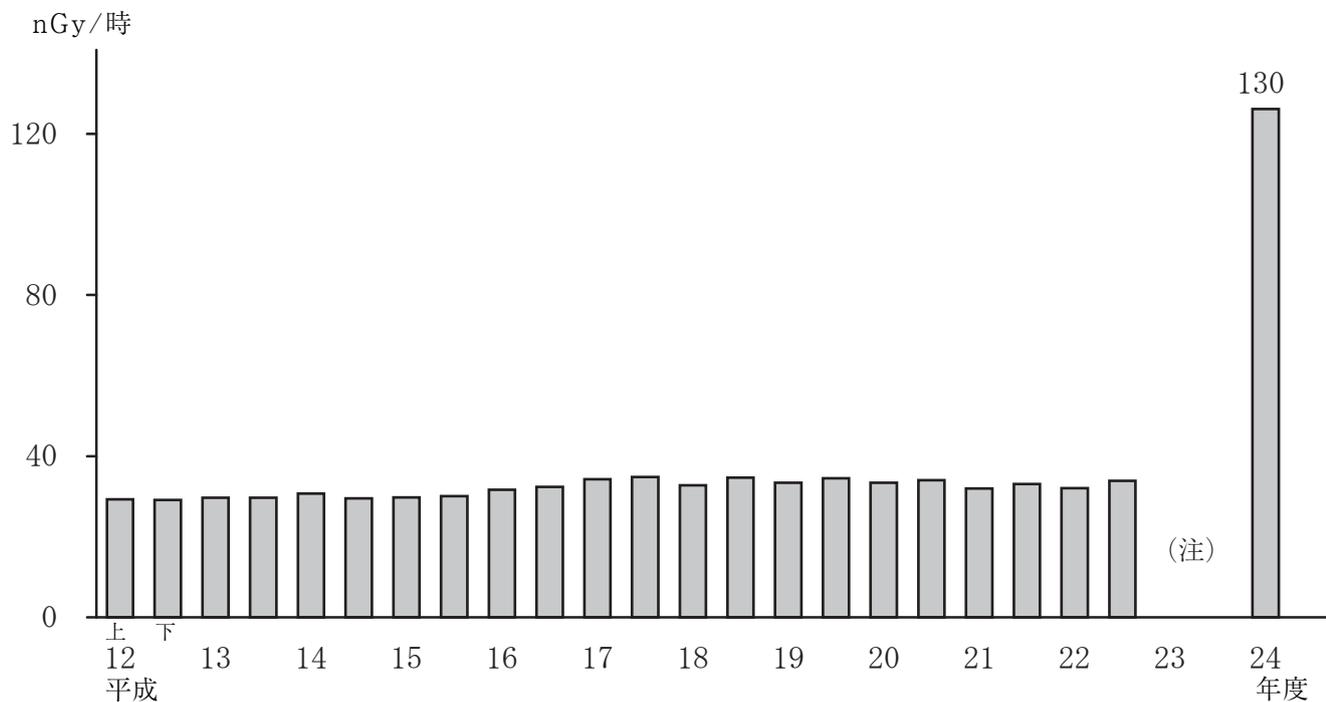
サーベイ（空間ガンマ線量率）分布図（平成24年4月，24年7月）

【大洗地区】



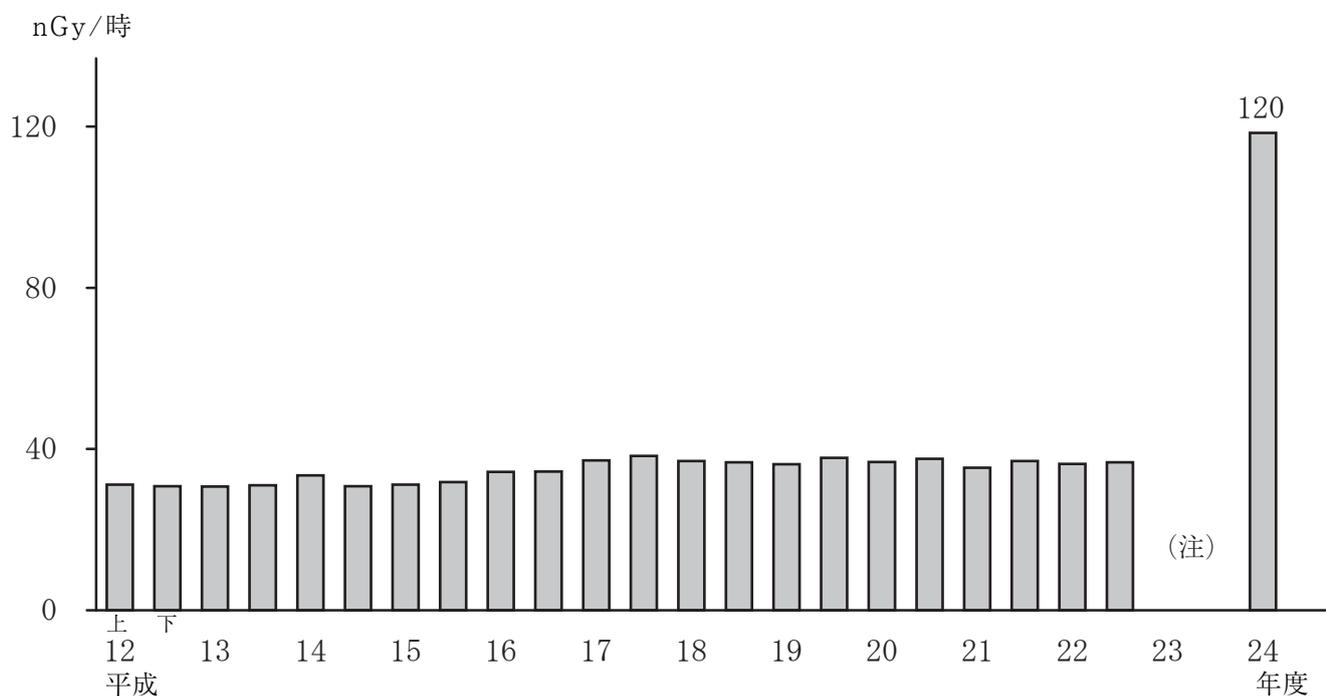
サーベイ（空間ガンマ線量率）経年変化

【東海地区の平均値】



サーベイ（空間ガンマ線量率）経年変化

【大洗地区の平均値】



(注) 平成23年度は県内全域で特別調査を実施。本グラフからは割愛。

1-1-2 積算線量測定結果

測定者	評価対象	平常の変動幅の上限
県・施設者	6ヶ月積算値	下表の各地点の値

区分	地区名	測定者	測定地点	測定期間	測定値(mGy)		平常の変動幅(上限) (mGy/6ヶ月)	測定方法	
					3ヶ月	計			
行政区域	東海地区	県	東海村原子力科学館	3.12 ~ 6.11 (91)	0.31	0.59	0.16	蛍光ガラス線量計	
				6.11 ~ 9.10 (91)	0.28				
			〃 東海中学校	3.12 ~ 6.11 (91)	0.24	0.47	0.15	〃	
				6.11 ~ 9.10 (91)	0.23				
			〃 舟石川小学校	3.12 ~ 6.11 (91)	0.24	0.47	0.17	〃	
				6.11 ~ 9.10 (91)	0.23				
			那珂市第一中学校	3.12 ~ 6.11 (91)	0.14	0.28	0.15	〃	
				6.11 ~ 9.10 (91)	0.14				
			〃 額田小学校	3.12 ~ 6.11 (91)	0.13	0.26	0.18	〃	
				6.11 ~ 9.10 (91)	0.13				
			〃 第二中学校	3.12 ~ 6.11 (91)	0.14	0.27	0.13	〃	
				6.11 ~ 9.10 (91)	0.13				
			〃 本米崎小学校	3.12 ~ 6.11 (91)	0.16	0.31	0.17	〃	
				6.11 ~ 9.10 (91)	0.15				
			〃 笠松運動公園	3.12 ~ 6.11 (91)	0.16	0.31	0.15	〃	
				6.11 ~ 9.10 (91)	0.15				
			〃 瓜連小学校	3.12 ~ 6.11 (91)	0.13	0.26	0.13	〃	
				6.11 ~ 9.10 (91)	0.13				
		原子力機構原科研	〃	東海村新川下流	3.22 ~ 6.21 (91)	0.33	0.65	0.19	〃
					6.21 ~ 9.20 (91)	0.32			
				〃 宿	3.22 ~ 6.21 (91)	0.24	0.47	0.18	〃
					6.21 ~ 9.20 (91)	0.23			
				〃 阿漕ヶ浦南西	3.22 ~ 6.21 (91)	0.36	0.72	0.12	〃
					6.21 ~ 9.20 (91)	0.36			
〃 阿漕ヶ浦西	3.22 ~ 6.21 (91)			0.19	0.38	0.17	〃		
	6.21 ~ 9.20 (91)			0.19					
〃 白方	3.22 ~ 6.21 (91)			0.23	0.46	0.18	〃		
	6.21 ~ 9.20 (91)			0.23					
〃 原電グランド北西	3.22 ~ 6.21 (91)			0.17	0.33	0.19	〃		
	6.21 ~ 9.20 (91)			0.16					

区分	地区名	測定者	測定地点	測定期間	測定値(mGy)		平常の変動幅(上限) (mGy/6ヶ月)	測定方法
					3ヶ月	計		
行政区域	東海地区	原子力機構原科研	東海村川根	3.22 ~ 6.21 (91)	0.23	0.46	0.18	蛍光ガラス線量計
				6.21 ~ 9.20 (91)	0.23			
			〃 須和間	3.22 ~ 6.21 (91)	0.17	0.34	0.17	〃
				6.21 ~ 9.20 (91)	0.17			
			〃 亀下	3.22 ~ 6.21 (91)	0.23	0.46	0.22	〃
				6.21 ~ 9.20 (91)	0.23			
			〃 東海中学校	3.22 ~ 6.21 (91)	0.25	0.49	0.14	〃
				6.21 ~ 9.20 (91)	0.24			
			〃 照沼公民館	3.27 ~ 6.26 (91)	0.24	0.47	0.23	TLD
				6.26 ~ 9.25 (91)	0.23			
			〃 川根公民館	3.27 ~ 6.26 (91)	0.24	0.45	0.21	〃
				6.26 ~ 9.25 (91)	0.21			
		〃 須和間公民館	3.27 ~ 6.26 (91)	0.24	0.46	0.19	〃	
			6.26 ~ 9.25 (91)	0.22				
		〃 外宿公民館	3.27 ~ 6.26 (91)	0.18	0.33	0.19	〃	
			6.26 ~ 9.25 (91)	0.15				
		〃 中丸小学校	3.27 ~ 6.26 (91)	0.21	0.40	0.18	〃	
			6.26 ~ 9.25 (91)	0.19				
		〃 東海中学校	3.27 ~ 6.26 (91)	0.27	0.51	0.15	〃	
			6.26 ~ 9.25 (91)	0.24				
		〃 合同庁舎 (旧役場)	3.27 ~ 6.26 (91)	0.19	0.35	0.23	〃	
			6.26 ~ 9.25 (91)	0.16				
		原子力機構サイクル工研	〃 東海中学校	3.22 ~ 6.21 (91)	0.23	0.42	0.14	〃
				6.21 ~ 9.20 (91)	0.19			
			〃 原電グラウンド	3.22 ~ 6.21 (91)	0.37	0.66	0.21	〃
				6.21 ~ 9.20 (91)	0.29			
			〃 豊岡	3.22 ~ 6.21 (91)	0.18	0.33	0.26	〃
				6.21 ~ 9.20 (91)	0.15			
			〃 二軒茶屋	3.22 ~ 6.21 (91)	0.15	0.29	0.17	〃
				6.21 ~ 9.20 (91)	0.14			
日立地区	県		日立市 日立商業高等学校	3.12 ~ 6.11 (91)	0.33	0.65	0.16	蛍光ガラス線量計
				6.11 ~ 9.10 (91)	0.32			

区分	地区名	測定者	測定地点	測定期間	測定値(mGy)		平常の変動幅(上限) (mGy/6ヶ月)	測定方法			
					3ヶ月	計					
行政区域	東海	日立地区	日立市 日立第二高等学校	3.12 ~ 6.11 (91)	0.22	0.43	0.17	蛍光ガラス線量計			
				6.11 ~ 9.10 (91)	0.21						
			〃 大久保小学校	3.12 ~ 6.11 (91)	0.19	0.37	0.15	〃			
				6.11 ~ 9.10 (91)	0.18						
			常陸太田市 峰山中学校	3.12 ~ 6.11 (91)	0.17	0.33	0.19	〃			
				6.11 ~ 9.10 (91)	0.16						
			日立市 留	3.22 ~ 6.21 (91)	0.20	0.38	0.18	TLD			
				6.21 ~ 9.20 (91)	0.18						
			〃 東小沢小学校	3.22 ~ 6.21 (91)	0.25	0.47	0.19	〃			
				6.21 ~ 9.20 (91)	0.22						
			〃 金沢小学校	3.22 ~ 6.21 (91)	0.18	0.34	0.15	〃			
				6.21 ~ 9.20 (91)	0.16						
			東海	ひたちなか地区	原子力機構サイクル工研	ひたちなか市 勝田中央	3.13 ~ 6.12 (91)	0.24	0.47	0.20	蛍光ガラス線量計
							6.12 ~ 9.11 (91)	0.23			
	〃 漁業無線局	3.13 ~ 6.12 (91)				0.38	0.75	0.14	〃		
		6.12 ~ 9.11 (91)				0.36					
	〃 阿字ヶ浦中学校	3.13 ~ 6.12 (91)				0.51	0.98	0.15	〃		
		6.12 ~ 9.11 (91)				0.47					
	〃 那珂湊総合支所	3.13 ~ 6.12 (91)				0.25	0.50	0.21	〃		
		6.12 ~ 9.11 (91)				0.25					
	〃 長砂公民館	3.27 ~ 6.26 (91)				0.20	0.38	0.20	TLD		
		6.26 ~ 9.25 (91)				0.18					
	〃 足崎公民館	3.27 ~ 6.26 (91)				0.26	0.49	0.21	〃		
		6.26 ~ 9.25 (91)				0.23					
	〃 前渡小学校	3.27 ~ 6.26 (91)				0.35	0.55	0.22	〃		
		6.26 ~ 9.25 (91)				0.20					
	〃 高野小学校	3.27 ~ 6.26 (91)	0.22	0.42	0.21	〃					
		6.26 ~ 9.25 (91)	0.20								
〃 佐野小学校	3.27 ~ 6.26 (91)	0.18	0.33	0.17	〃						
	6.26 ~ 9.25 (91)	0.15									
〃 市役所	3.27 ~ 6.26 (91)	0.25	0.47	0.20	〃						
	6.26 ~ 9.25 (91)	0.22									

区分	地区名	測定者	測定地点	測定期間	測定値(mGy)		平常の変動幅(上限) (mGy/6ヶ月)	測定方法
					3ヶ月	計		
行政区域	大洗地区	県	大洗町南中学校	3.13 ~ 6.12 (91)	0.22	0.44	0.19	蛍光ガラス線量計
				6.12 ~ 9.11 (91)	0.22			
			〃 磯浜小学校	3.13 ~ 6.12 (91)	0.31	0.52	0.15	〃
				6.12 ~ 9.11 (91)	0.21			
			銚田市旭北小学校	3.13 ~ 6.12 (91)	0.28	0.54	0.16	〃
				6.12 ~ 9.11 (91)	0.26			
			〃 旭南小学校	3.13 ~ 6.12 (91)	0.49	0.94	0.18	〃
				6.12 ~ 9.11 (91)	0.45			
			〃 舟木小学校	3.13 ~ 6.12 (91)	0.32	0.62	0.14	〃
				6.12 ~ 9.11 (91)	0.30			
			水戸市稲荷第一小学校	3.13 ~ 6.12 (91)	0.17	0.33	0.17	〃
				6.12 ~ 9.11 (91)	0.16			
			茨城町若宮	3.13 ~ 6.12 (91)	0.16	0.31	0.18	〃
				6.12 ~ 9.11 (91)	0.15			
			〃 沼前小学校	3.13 ~ 6.12 (91)	0.18	0.35	0.14	〃
				6.12 ~ 9.11 (91)	0.17			
			〃 明光中学校	3.13 ~ 6.12 (91)	0.20	0.39	0.18	〃
				6.12 ~ 9.11 (91)	0.19			
			大洗町南中学校 ^(注4)	3.22 ~ 6.21 (91)	0.21	0.41	0.19	TLD
				6.21 ~ 9.19 (90)	0.20			
	〃 北松川	3.22 ~ 6.21 (91)	0.17	0.33	0.20	〃		
		6.21 ~ 9.19 (90)	0.16					
	銚田市上釜	3.22 ~ 6.21 (91)	0.28	0.53 (0.54)	0.15	〃		
		6.21 ~ 9.19 (90)	0.25 (0.26)					
	大洗町成田	3.22 ~ 6.21 (91)	0.26	0.48	0.15	〃		
		6.21 ~ 9.19 (90)	0.22					
〃 夏海	3.22 ~ 6.21 (91)	0.15	0.30	0.22	〃			
	6.21 ~ 9.19 (90)	0.15						
銚田市下太田	3.22 ~ 6.21 (91)	0.18	0.34	0.16	〃			
	6.21 ~ 9.19 (90)	0.16						
比較対照地点	県	水戸市第五中学校	3.13 ~ 6.12 (91)	0.21	0.41	0.14	蛍光ガラス線量計	
			6.12 ~ 9.11 (91)	0.20				

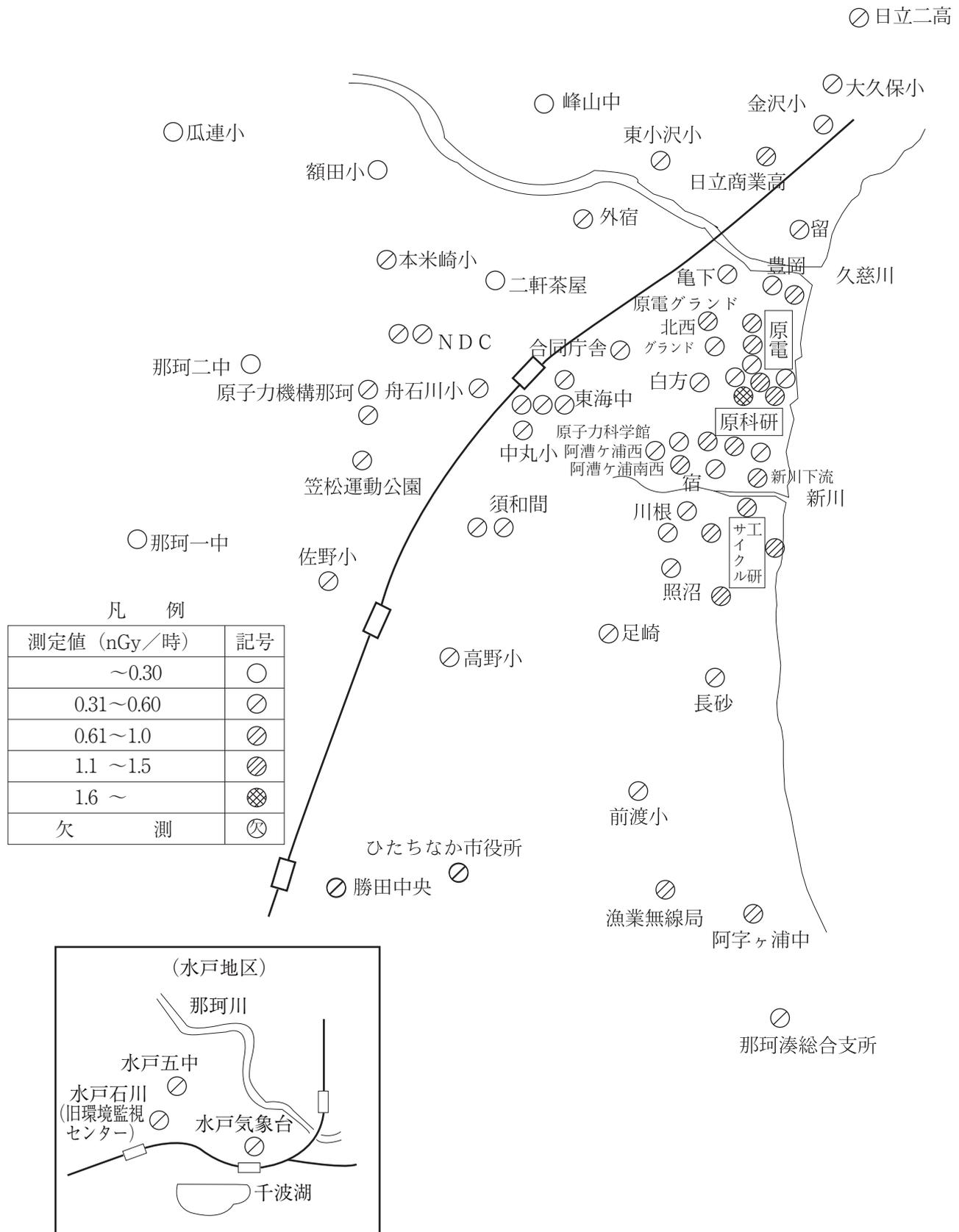
区分	地区名	測定者	測定地点	測定期間	測定値(mGy)		平常の変動幅(上限) (mGy/6ヶ月)	測定方法			
					3ヶ月	計					
行政区域	比較対照地点	原子力機構 原子力研究所	水戸地方気象台	3.22 ~ 6.21 (91)	0.18	0.36	0.15	蛍光ガラス線量計			
				6.21 ~ 9.20 (91)	0.18						
		サイクル工場	水戸市石川 (旧環境監視センター)	3.27 ~ 6.26 (91)	0.23	0.46	0.20	TLD			
				6.26 ~ 9.25 (91)	0.23						
施設境界	原子力機構 原子力研究所	原子力機構 原子力研究所	周辺監視区域境界 (MP-11)	3.22 ~ 6.21 (91)	0.76	1.5	0.19	蛍光ガラス線量計			
				6.21 ~ 9.20 (91)	0.71						
			〃 (Pu研裏)	3.22 ~ 6.21 (91)	0.24	0.46	0.15	〃			
				6.21 ~ 9.20 (91)	0.22						
			〃 (MP-17)	3.22 ~ 6.21 (91)	0.38	0.75	0.16	〃			
				6.21 ~ 9.20 (91)	0.37						
			〃 (MP-18)	3.22 ~ 6.21 (91)	1.4	2.6	0.18	〃			
				6.21 ~ 9.20 (91)	1.2						
			〃 (MS-2)	3.22 ~ 6.21 (91)	0.52	1.0	0.20	〃			
				6.21 ~ 9.20 (91)	0.52						
			東海地区	原子力機構 サイクル工場	原子力機構 サイクル工場	〃 (S-1)	3.27 ~ 6.26 (91)	0.49	0.95	0.20	TLD
							6.26 ~ 9.25 (91)	0.46			
						〃 (S-6)	3.27 ~ 6.26 (91)	0.72	1.4	0.17	〃
							6.26 ~ 9.25 (91)	0.66			
	〃 (S-8)	3.27 ~ 6.26 (91)				0.61	1.1	0.17	〃		
		6.26 ~ 9.25 (91)				0.53					
	〃 (S-11)	3.27 ~ 6.26 (91)				0.44	0.83	0.18	〃		
		6.26 ~ 9.25 (91)		0.39							
	原子力機構 那珂	原子力機構 那珂		〃 (MP-1)	3.15 ~ 6.15 (92)	0.17	0.32	0.15	〃		
					6.15 ~ 9.14 (91)	0.15					
				〃 (MP-2)	3.15 ~ 6.15 (92)	0.19	0.35	0.25	〃		
					6.15 ~ 9.14 (91)	0.16					
	原子力機構 原電	原子力機構 原電		〃 (MP-A)	3.22 ~ 6.21 (91)	0.28	0.53	0.21	〃		
					6.21 ~ 9.20 (91)	0.25					
			〃 (MP-B)	3.22 ~ 6.21 (91)	0.33	0.63	0.23	〃			
				6.21 ~ 9.20 (91)	0.30						
			〃 (MP-C)	3.22 ~ 6.21 (91)	0.38	0.72	0.24	〃			
				6.21 ~ 9.20 (91)	0.34						

区分	地区名	測定者	測定地点	測定期間	測定値(mGy)		平常の変動幅(上限) (mGy/6ヶ月)	測定方法	
					3ヶ月	計			
施設境界	東海地区	原電	周辺監視区域境界 (MP-D)	3.22 ~ 6.21 (91)	0.41	0.76	0.20	TLD	
				6.21 ~ 9.20 (91)	0.35				
		NDC	NDC	敷地境界(南側)	4.2 ~ 7.2 (91)	0.21	0.40	0.18	〃
					7.2 ~ 10.1 (91)	0.19			
				〃(東側)	4.2 ~ 7.2 (91)	0.16	0.31	0.19	〃
					7.2 ~ 10.1 (91)	0.15			
		東大	東大	周辺監視区域境界 (MB-1)	4.3 ~ 7.3 (91)	0.27	0.53	0.24	〃
					7.3 ~ 10.4 (93)	0.26			
	〃 (MB-2)			4.3 ~ 7.3 (91)	0.73	1.4	0.24	〃	
				7.3 ~ 10.4 (93)	0.69 (0.68)				
	〃 (MB-4)			4.3 ~ 7.3 (91)	0.30	0.59	0.22	〃	
				7.3 ~ 10.4 (93)	0.29				
	大洗地区	原子力機構大洗	〃 (敷地北)	3.22 ~ 6.21 (91)	0.37	0.71	0.18	〃	
				6.21 ~ 9.19 (90)	0.34				
			〃 (北門)	3.22 ~ 6.21 (91)	0.30	0.57 (0.58)	0.16	〃	
				6.21 ~ 9.19 (90)	0.27 (0.28)				
			〃 (敷地東)	3.22 ~ 6.21 (91)	1.4	2.7 (2.8)	0.16	〃	
				6.21 ~ 9.19 (90)	1.3 (1.4)				
			〃 (敷地南)	3.22 ~ 6.21 (91)	0.53	1.0	0.14	〃	
				6.21 ~ 9.19 (90)	0.51				
			〃 (敷地西)	3.22 ~ 6.21 (91)	0.39	0.74	0.16	〃	
				6.21 ~ 9.19 (90)	0.35				
			〃 (排水監視施設)	3.22 ~ 6.21 (91)	0.66	1.2	0.17	〃	
				6.21 ~ 9.19 (90)	0.57 (0.58)				
			〃 (No.1)	3.22 ~ 6.21 (91)	0.70	1.3	0.17	〃	
				6.21 ~ 9.19 (90)	0.60				
			〃 (No.2)	3.22 ~ 6.21 (91)	0.48	0.91 (0.92)	0.16	〃	
				6.21 ~ 9.19 (90)	0.43 (0.44)				

- (注1) 測定値は福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含み、宇宙線成分及びTLD・蛍光ガラス線量計の自己汚染の寄与分を除く。
- (注2) 3ヶ月間の測定値の()は91日当りに換算した値で、6ヶ月間合計の測定値の()は91日当りに換算した3ヶ月間の測定値を合計した場合である。なお、()書きがないものは、91日当りに換算しても値が変わらない場合である。
- (注3) 福島第一原子力発電所事故の影響により、樹木等が多く存在している場所では、積算線量が高くなる傾向にあるが、いずれの値も線量計の設置地点における計測値であり、設置された学校等の施設全体を代表する値ではない。
- (注4) ひたちなか市前渡小学校については、同校敷地内での地点の見直しにより、平成24年7月23日に設置場所を変更した。

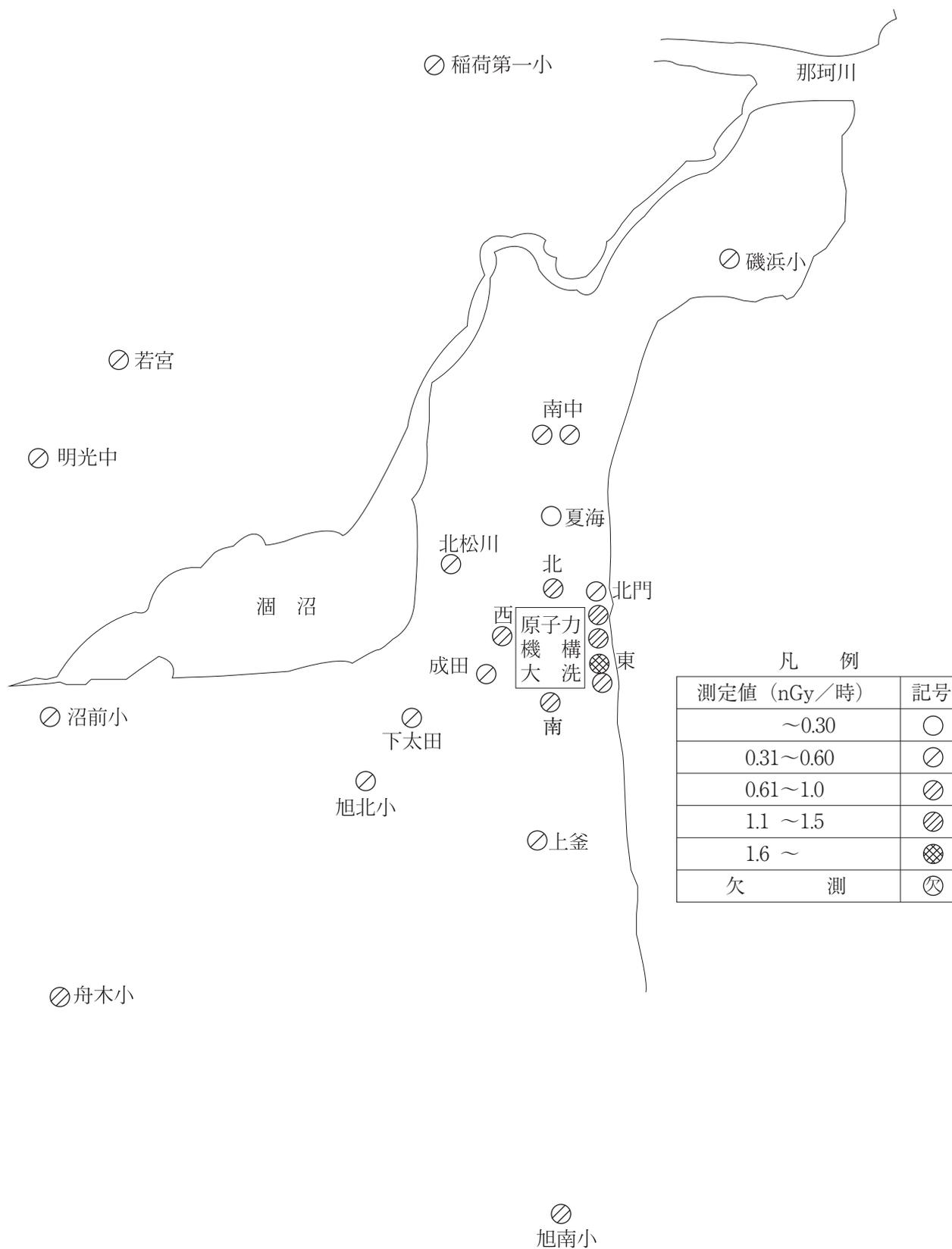
積算線量（TLD・蛍光ガラス線量計）分布図（平成24年4月～24年9月）

【東海地区】



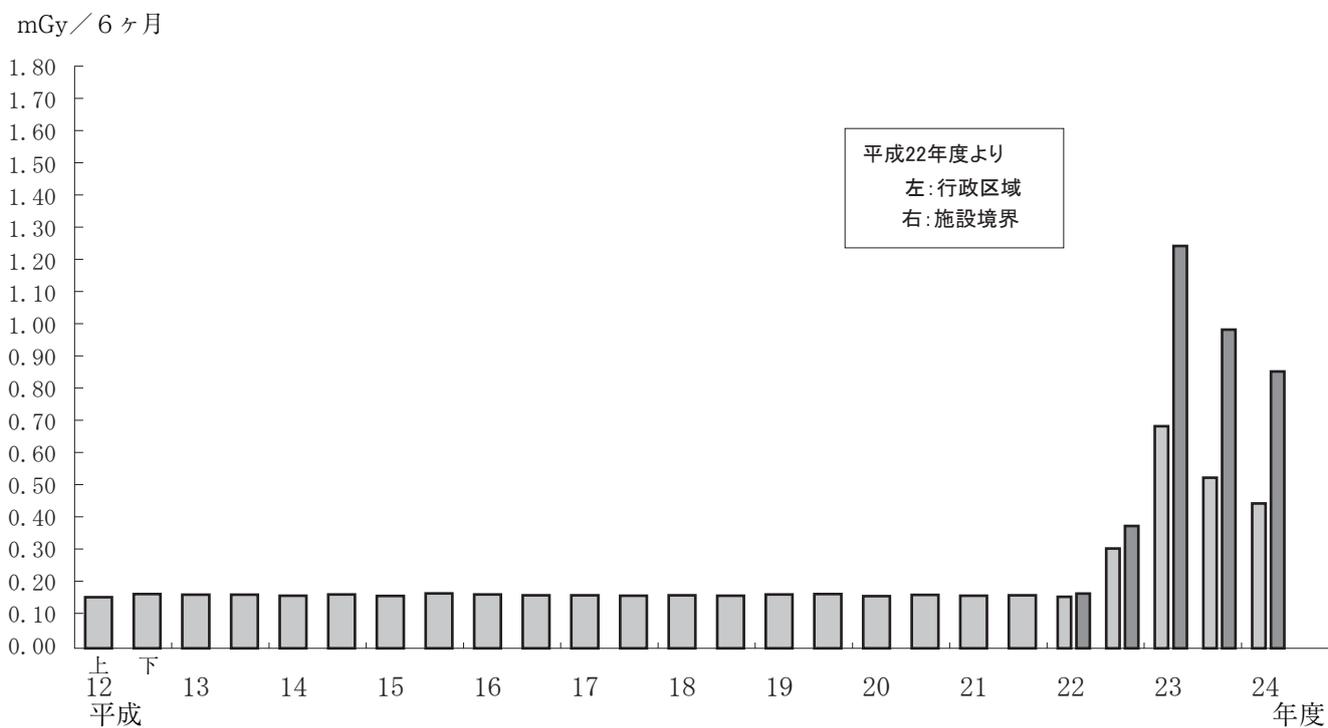
積算線量（TLD・蛍光ガラス線量計）分布図（平成24年4月～24年9月）

【大洗地区】



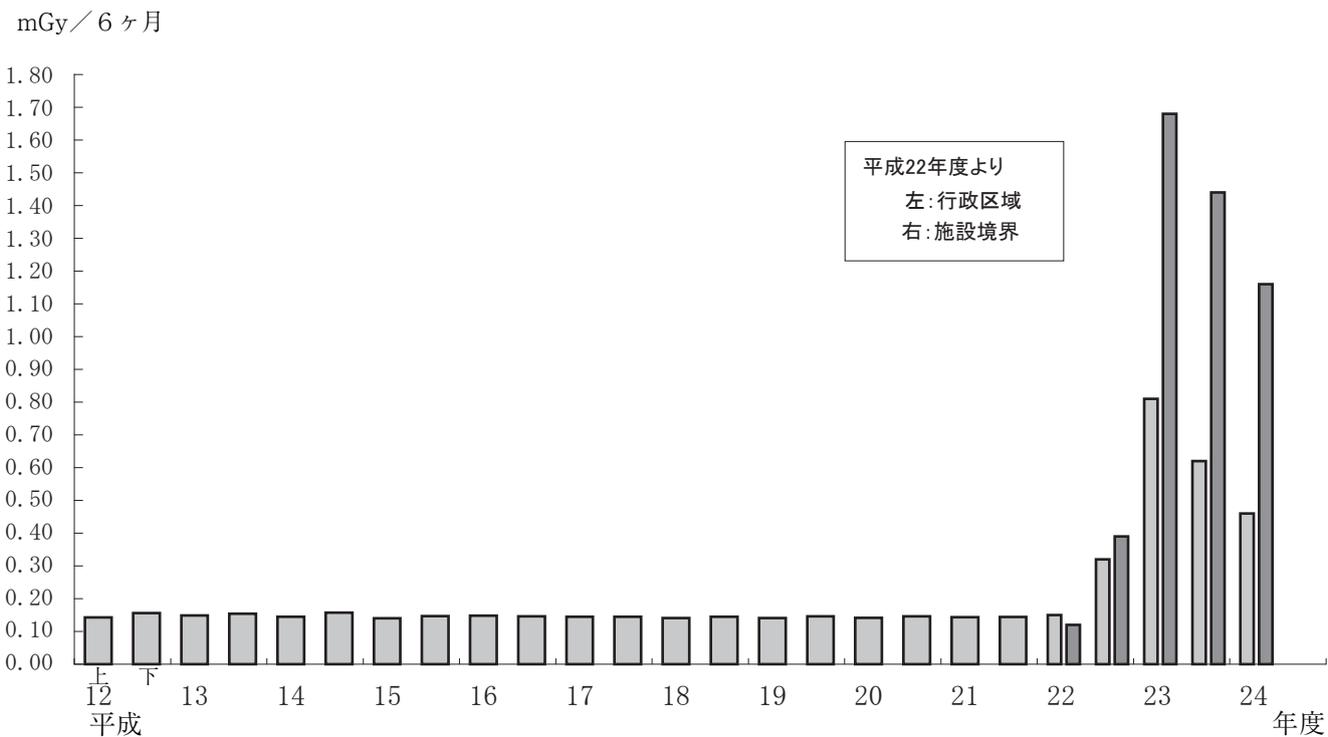
積算線量経年変化

【東海地区】



積算線量経年変化

【大洗地区】



1-2 漁網表面吸収線量率の測定結果

測定者	項目	採取地点	測定期間 (曳航時間)	測定値
サイクル 力工 機研	γ (nGy/時)	東海沖にて曳航	7.3 ~ 9.4 (43時間)	×
	β (nGy/時)			×

1-3 大気中放射能測定結果

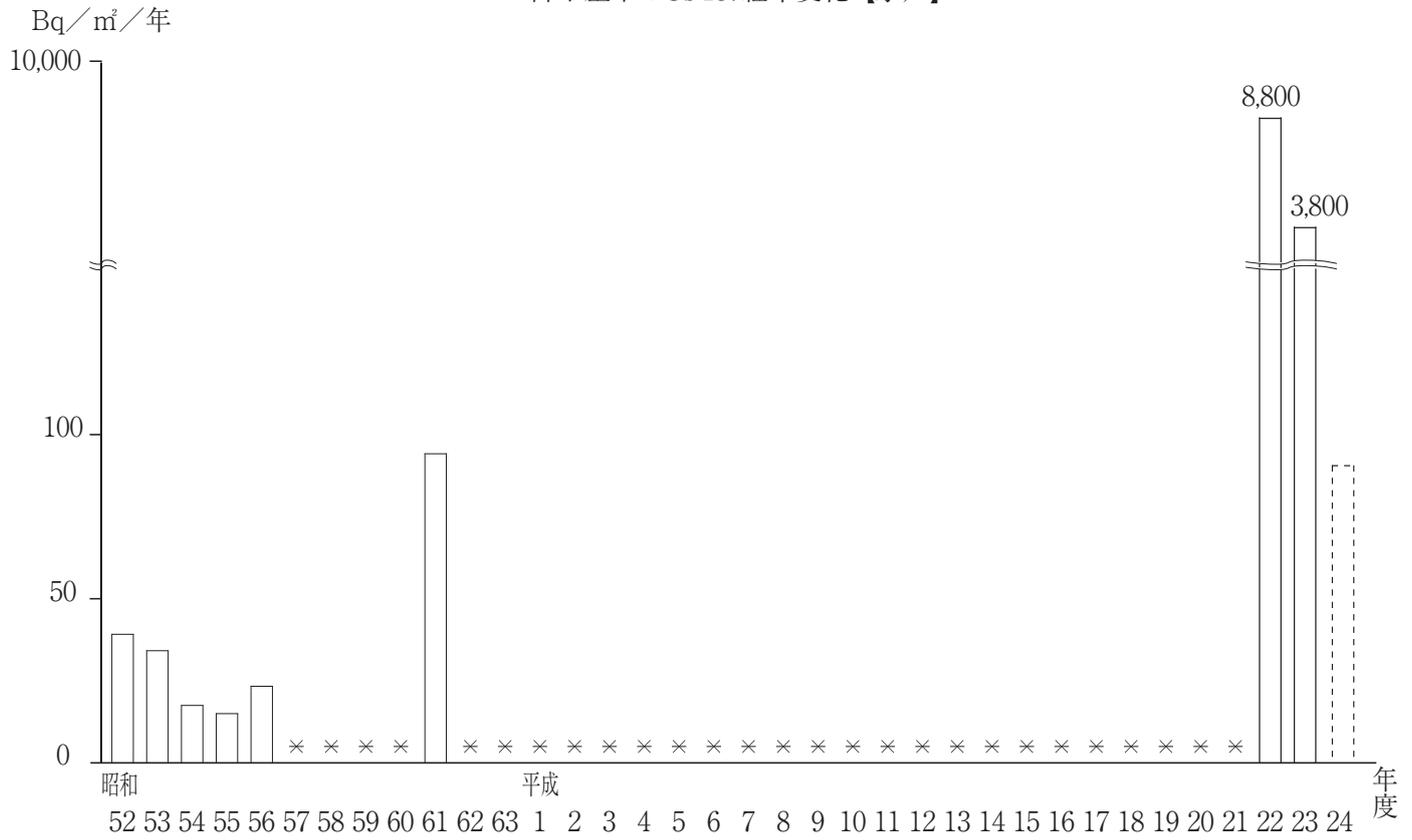
1-3-1 降下塵中の放射性核種分析結果

測定者	採取地点	採取月日	核種・分析値 (Bq/m ²)						
			⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce
県	水戸市愛宕町	4.2 ~ 5.1	×	×	×	×	×	16 [12]	×
		5.1 ~ 6.1	×	×	×	×	×	9.1 [7.1]	×
		6.1 ~ 7.2	×	×	×	×	×	9.2 [6.6]	×
		7.1 ~ 8.1	×	×	×	×	×	13 [8.7]	×
		8.1 ~ 9.1	×	×	×	×	×	18 [12]	×
		9.1 ~ 10.1	×	×	×	×	×	21 [14]	×

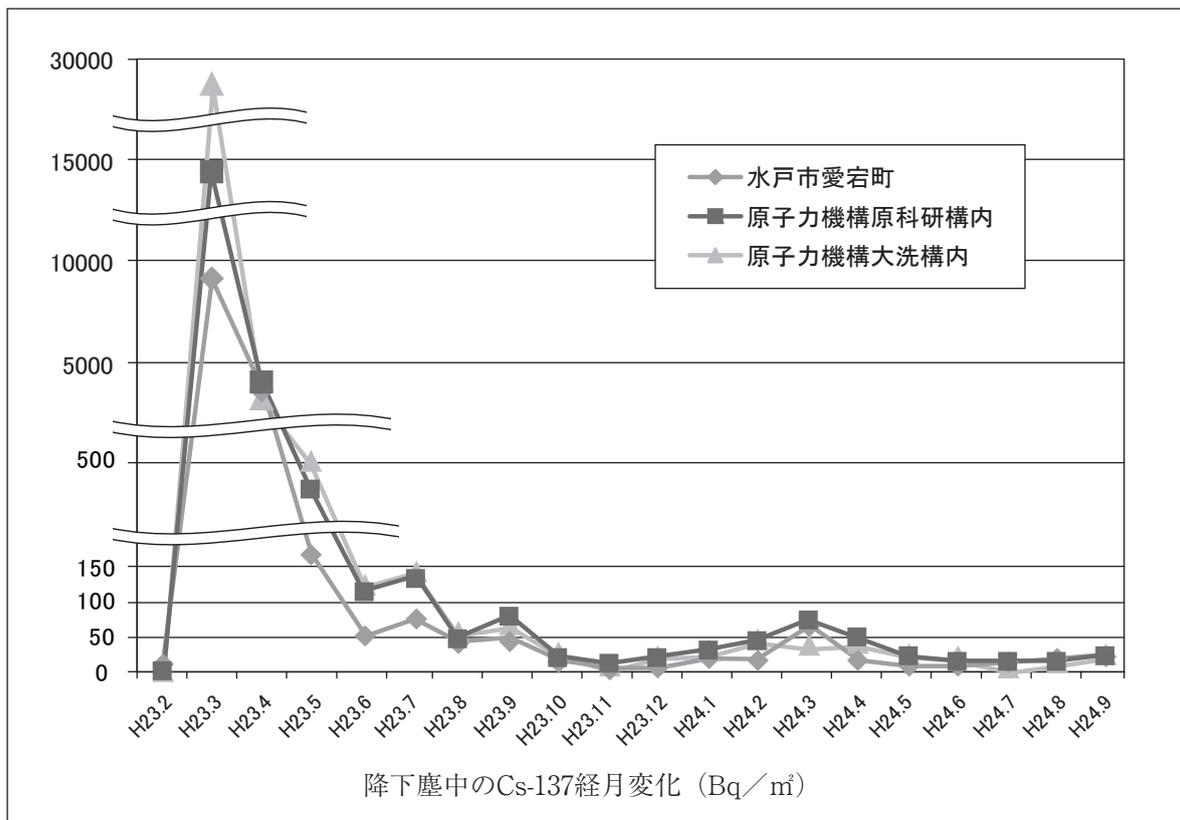
測定者	採取地点	採取月日	核種・分析値 (Bq/m ²)						
			⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce
原子力機構 原科研	原子力機構 原科研内	4.2 ~ 5.1	×	×	×	×	×	48 [28]	×
		5.1 ~ 6.1	×	×	×	×	×	22 [13]	×
		6.1 ~ 7.2	×	×	×	×	×	13 [7.5]	×
		7.2 ~ 8.1	×	×	×	×	×	12 [6.6]	×
		8.1 ~ 9.3	×	×	×	×	×	12 [6.2]	×
		9.3 ~ 10.1	×	×	×	×	×	20 [11]	×
原子力機構 大洗	原子力機構 大洗内	4.2 ~ 5.1	×	×	×	×	×	39 [29]	×
		5.1 ~ 6.1	×	×	×	×	×	24 [17]	×
		6.1 ~ 7.2	×	×	×	×	×	21 [15]	×
		7.2 ~ 8.1	×	×	×	×	×	5.2 [3.6]	×
		8.1 ~ 9.3	×	×	×	×	×	12 [8.2]	×
		9.3 ~ 10.1	×	×	×	×	×	25 [17]	×

(注) ¹³⁷Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響及び過去の核実験等に起因するフォールアウトの影響による。
 なお、¹³⁴Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。
 検出された¹³⁴Csは [] に記載。

降下塵中のCs-137経年変化【水戸】



(注) 24年度は上半期の値である。



1-4 陸土中の放射能測定結果

1-4-1 土壌中の放射性核種分析結果

測定者	採取地点	採取月日	分析値 (Bq/kg・乾)				
			⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce
県	水戸市見川	5.24	×	×	×	230 [160]	×
	那珂市横堀 ^(注2)	5.24	×	×	×	130 [85]	×
	東海村舟石川	5.24	×	×	×	86 [56]	×
	ひたちなか市 常陸那珂	5.24	×	×	×	630 [420]	×
原子力機構 原科 研	東海村須和間 ^(注2)	5.21	×	×	×	540 [340]	×
原子力機構 サイクル工研	ひたちなか市長砂	5.11	×	×	×	450 [310]	×
原子力機構 大 洗	銚田市飛沢	5.9	×	×	×	1200 [860]	×
原 電	日立市留	5.7	×	×	×	290 [190]	×

(注1) ¹³⁷Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響及び過去の核実験等に起因するフォールアウトの影響による。

なお、¹³⁴Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。

検出された¹³⁴Csは [] に記載。

(注2) 福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により、その他の人工放射性核種が検出された。(その他の検出核種^{110m}Ag: 那珂市横堀0.47Bq/kg・乾, 東海村須和間0.63Bq/kg・乾)

1-4-2 河底土中の放射性核種分析結果

測定者	採取地点	採取月日	分析値 (Bq/kg・乾)				
			⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce
原子力機構 サイクル工研	東海村新川河口	4.20	×	×	×	44 [31]	×

(注) ¹³⁷Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響及び過去の核実験等に起因するフォールアウトの影響による。

なお、¹³⁴Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。

検出された¹³⁴Csは [] に記載。

1-4-3 海岸砂中の放射性核種分析結果

測定者	採取地点	採取月日	分析値 (Bq/kg・乾)				
			⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce
県	大洗町大貫	7.4	×	×	×	8.3 [5.4]	×
原子力機構 サイクル工研	日立市久慈	7.6	×	×	×	7.1 [4.4]	×
	ひたちなか市 阿字ヶ浦	7.6	×	×	×	4.8 [3.0]	×

(注) ¹³⁷Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響及び過去の核実験等に起因するフォールアウトの影響による。

なお、¹³⁴Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。

検出された¹³⁴Csは [] に記載。

1-5 陸水中の放射能測定結果

1-5-1 河川水及び湖沼水中の放射性核種分析結果

測定者	採水地点	採水月日	水温(℃)	塩素量(%)	核種分析値(Bq/L)					
					³ H	⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce
県	那珂川下流(国田大橋)	4.9	13.8	/	×	×	×	×	0.019 [0.016]	×
水戸原子力事務所	新川中流(宮前橋)	4.6	11.6	/	×	×	×	×	0.046 [0.034]	×
	久慈川下流(榊橋)	4.6	7.9	/	×	×	×	×	0.010 [0.014]	×
	那珂川下流(中河内)	4.6	11.7	/	×	×	×	×	0.011 [0.015]	×
原子力機構 サイクル工研	新川河口	4.20	12.5	0.128	×	×	×	×	0.038 [0.033]	×
	阿漕ヶ浦	4.20	15.6	/	×	×	×	×	0.041 [0.036]	×
原子力機構 大洗	湖沼(北松川)	4.17	14.6	2.79	×	×	×	×	0.041 [0.025]	×

(注1) ¹³⁷Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響及び過去の核実験等に起因するフォールアウトの影響による。なお、¹³⁴Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。検出された¹³⁴Csは[]に記載。

(注2) 福島第一原子力発電所事故を踏まえて実施している測定では、河川水等をそのまま測定しているため、検出限界値が約0.5Bq/Lとなっているが、本測定では蒸発乾固して測定しているため、検出限界値が0.004Bq/Lとなっている。

1-5-2 飲料水中の放射性核種分析結果

測定者	種別	採水地点	採水月日	水温(℃)	核種分析値(Bq/L)					
					⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce	U
県	水	水戸市愛宕町(那珂川)	4.19	13.7	×	×	×	0.016 [0.012]	×	/
原子力機構 原科研		東海村須和間(久慈川)	5.25	18.0	×	×	×	0.011 [0.0063]	×	/
原子力機構 サイクル工研	道	ひたちなか市長砂(那珂川)	4.4	11.3	×	×	×	0.0060 [0.0043]	×	/
原子力機構 大洗		大洗町北松川(地下水)	4.17	14.9	×	×	×	×	×	/
原電		日立市留(久慈川)	4.26	14.0	×	×	×	×	×	/
県	井	東海村村松	5.1	15.9	×	×	×	0.0079 [0.0066]	×	×
JCO		東海村舟石川	4.5	10.0	/	/	/	/	/	×
三菱原燃	戸	東海村舟石川	4.5	15.0	/	/	/	/	/	×
		東海村村松	4.5	13.0	/	/	/	/	/	×
原燃工	水	東海村川根	4.25	17.0	/	/	/	/	/	×

(注1) ¹³⁷Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響及び過去の核実験等に起因するフォールアウトの影響による。なお、¹³⁴Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。検出された¹³⁴Csは[]に記載。

(注2) 福島第一原子力発電所事故を踏まえて実施している測定では、飲料水等をそのまま測定しているため、検出限界値が約0.5Bq/Lとなっているが、本測定では蒸発乾固して測定しているため、検出限界値が0.004Bq/Lとなっている。

1-6 海洋における放射能測定結果

1-6-1 海水中の放射性核種分析結果

測定者	採水海域	採水 月日	分 析 値 (Bq/L)							
			⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	⁹⁰ Sr	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce
県	久慈沖(A)	4.18	×	×	×	×	×	×	0.034 [0.028]	×
	サイクル工研沖(G)	4.18	×	×	×	×	×	×	0.0096 [0.0063]	×
	阿字ヶ浦沖(I)	4.18	×	×	×	×	×	×	0.026 [0.020]	×
	那珂湊沖(J)	4.18	×	×	×	×	×	×	0.025 [0.018]	×
	大貫沖(K)	4.18	×	×	×	×	×	×	0.026 [0.021]	×
	再処理排水 放出口周辺(P)	4.13	×	×	×	×	×	×	0.040 [0.029]	×
原子力機構 原科研	原科研沖(C)	4.17	×	×	×	×	×	×	0.039 [0.023]	×
原子力機構 サイクル工研	原子力機構 サイクル工研沖(F)	4.13	×	×	×	×	×	×	0.037 [0.031]	×
	長砂沖(H)	4.13	×	×	×	×	×	×	0.025 [0.020]	×
	再処理排水 放出口周辺(P)	4.13	×	×	×	×	×	×	0.038 [0.029]	×
原子力機構 大洗	原子力機構 大洗沖(L)	4.12	×	×	×	×	×	×	0.019 [0.0085]	×
	〃(M)	4.12	×	×	×	×	×	×	0.017 [0.0085]	×
原電	原電沖(B)	4.10	×	×	×	×	×	×	0.024 [0.015]	×

(注1) 採水海域：()内は採水海域記号。採取地点は164ページの図を参照。採水部位は表層。

(注2) ¹³⁷Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響及び過去の核実験等に起因するフォールアウトの影響による。

なお、¹³⁴Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。

検出された¹³⁴Csは []に記載。

1-6-2 海底土中の放射性核種分析結果

測定者	採取海域	採取 月日	分 析 値 (Bq/kg・乾)									
			⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	⁹⁰ Sr	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁴⁴ Ce	Pu	
県	久 慈 沖 (A)	7.11	×	×	×	×	×	×	×	57 [38]	×	0.40
	サ イ ク ル 工 研 沖 (G)	7.11	×	×	×	×	×	×	×	34 [22]	×	0.57
	阿 字 ヶ 浦 沖 (I)	7.11	×	×	×	×	×	×	×	79 [52]	×	0.56
	那 珂 湊 沖 (J)	7.11	×	×	×	×	×	×	×	320 [220]	×	0.47
	大 貫 沖 (K)	7.11	×	×	×	×	×	×	×	18 [12]	×	0.28
	再 処 理 排 水 放 出 口 周 辺 (P)	7.9	×	×	×	×	×	×	×	110 [69]	×	0.55
原子力機構 原 科 研	原 科 研 沖 (C)	7.5	×	×	×	×	×	×	×	19 [11]	×	0.22
原子力機構 サ イ ク ル 工 研	原子力機構 サ イ ク ル 工 研 沖 (F)	7.10	×	×	×	×	×	×	×	41 [26]	×	0.40
	長 砂 沖 (H)	7.10	×	×	×	×	×	×	×	22 [14]	×	0.30
	再 処 理 排 水 放 出 口 周 辺 (P)	7.9	×	×	×	×	×	×	×	94 [62]	×	0.47
原子力機構 大 洗	原子力機構 大 洗 沖 (L)	7.11	×	×	×	×	×	×	×	10 [5.7]	×	
	〃 (M)	7.11	×	×	×	×	×	×	×	7.7 [5.0]	×	
原 電	原 電 沖 (B)	7.10	×	×	×	×	×	×	×	57 [37]	×	

(注1) 採取海域：()内は採取海域記号。採取地点は164ページの図を参照。

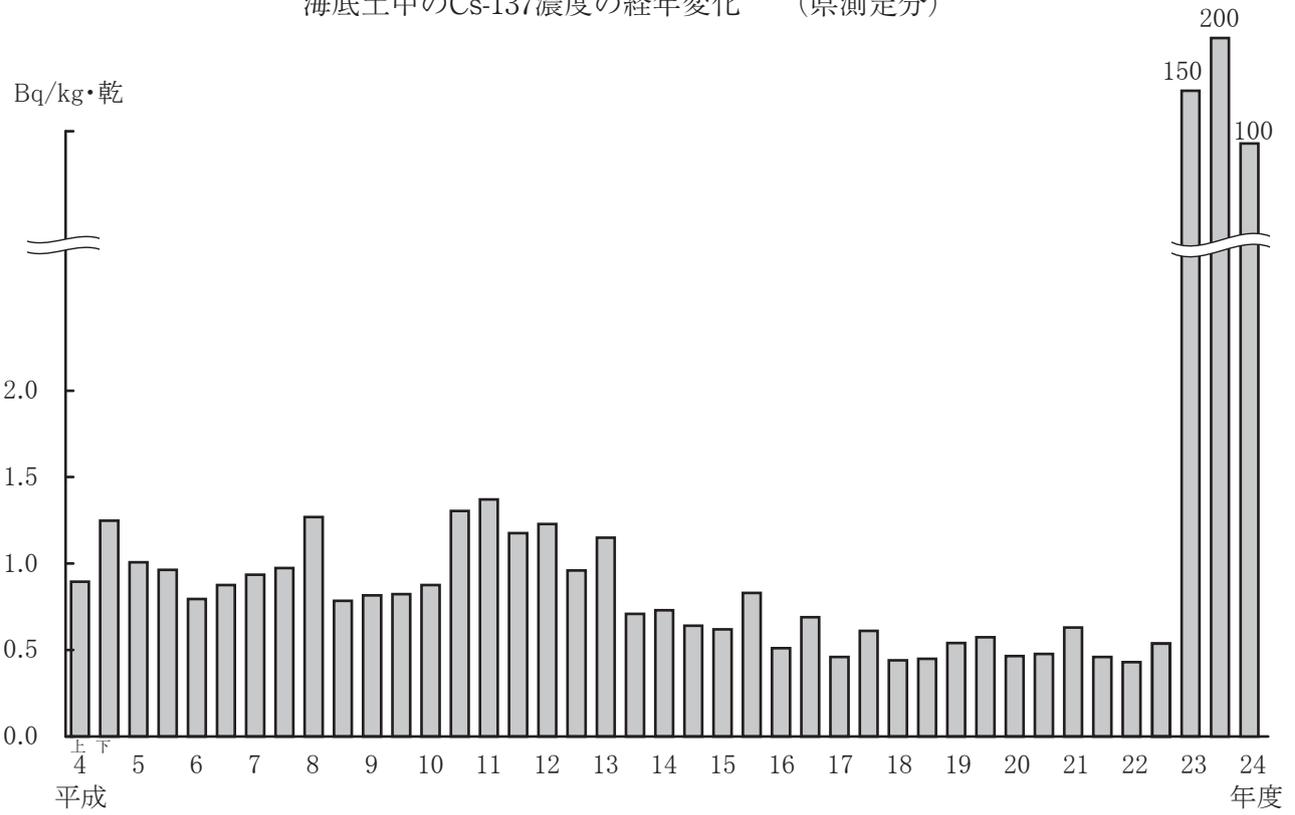
(注2) ¹³⁷Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響及び過去の核実験等に起因するフォールアウトの影響による。

なお、¹³⁴Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。

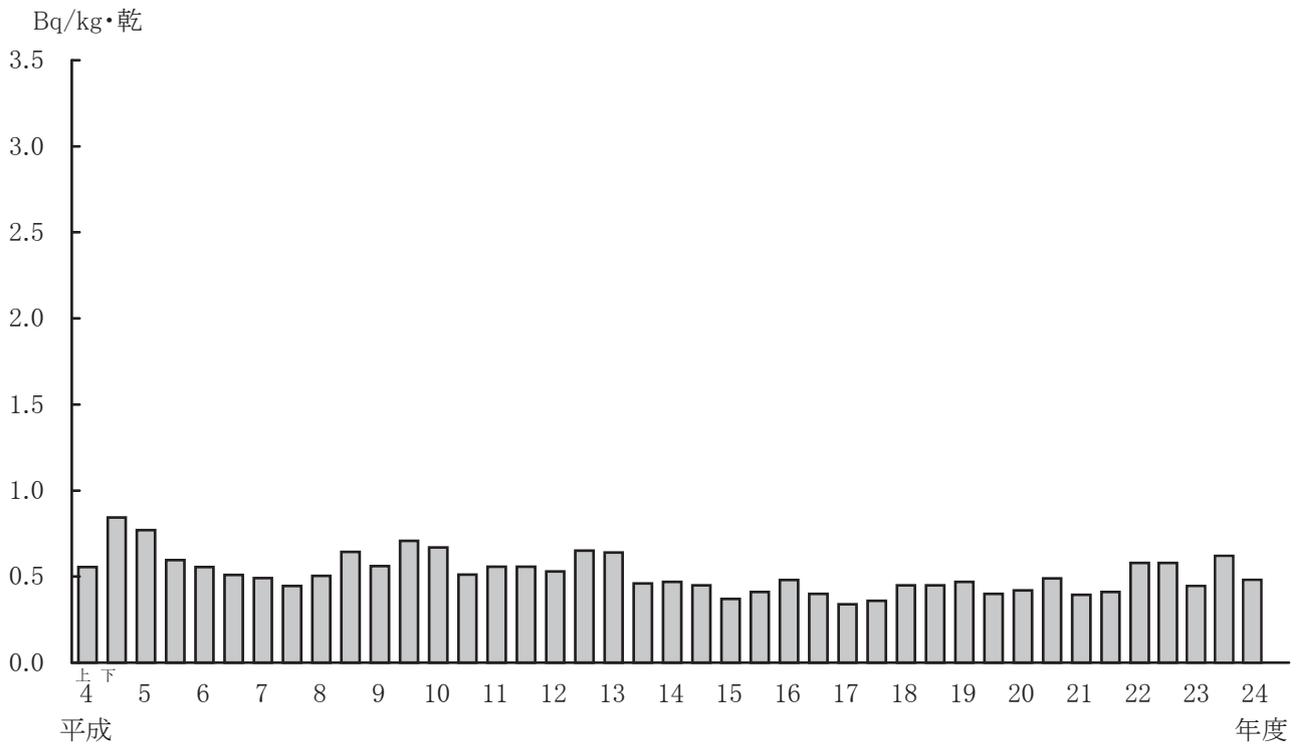
検出された¹³⁴Csは []に記載。

(注3) Puは、²³⁸Puが検出されておらず、また、過去の最大値(1.8Bq/kg・乾)より低い値であったため、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響とは判断できない。

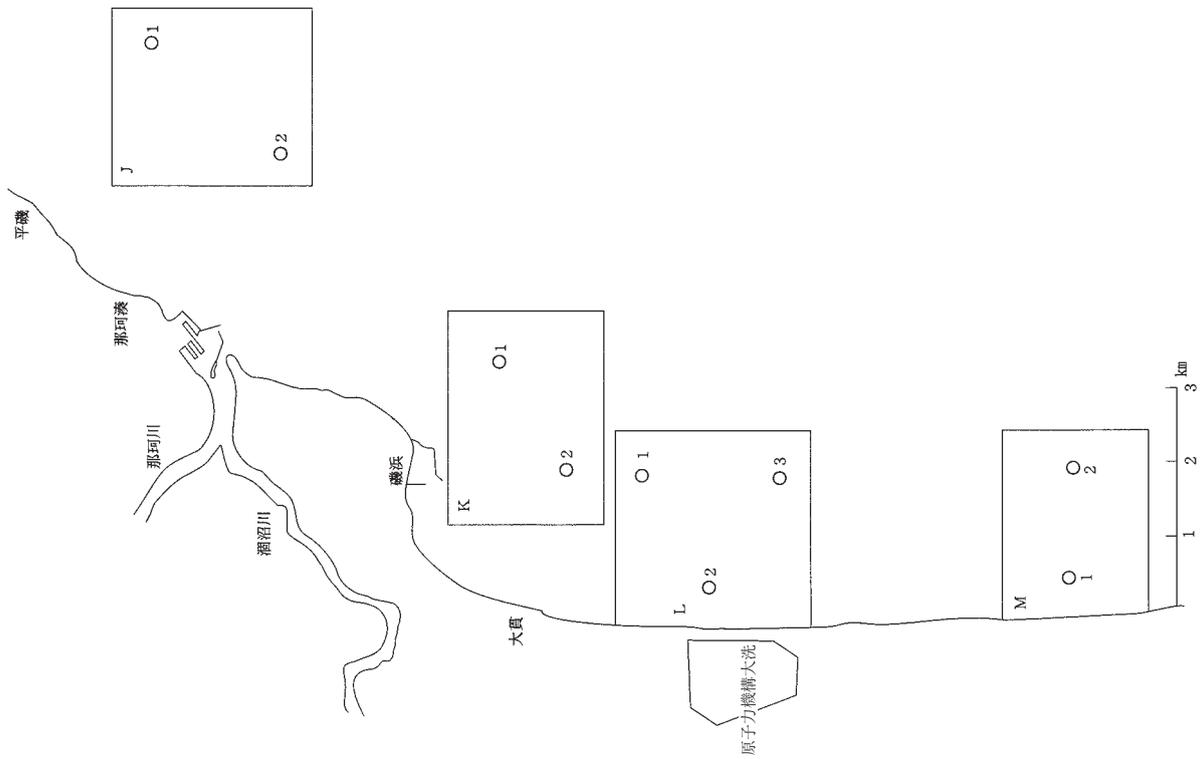
海底土中のCs-137濃度の経年変化 (県測定分)



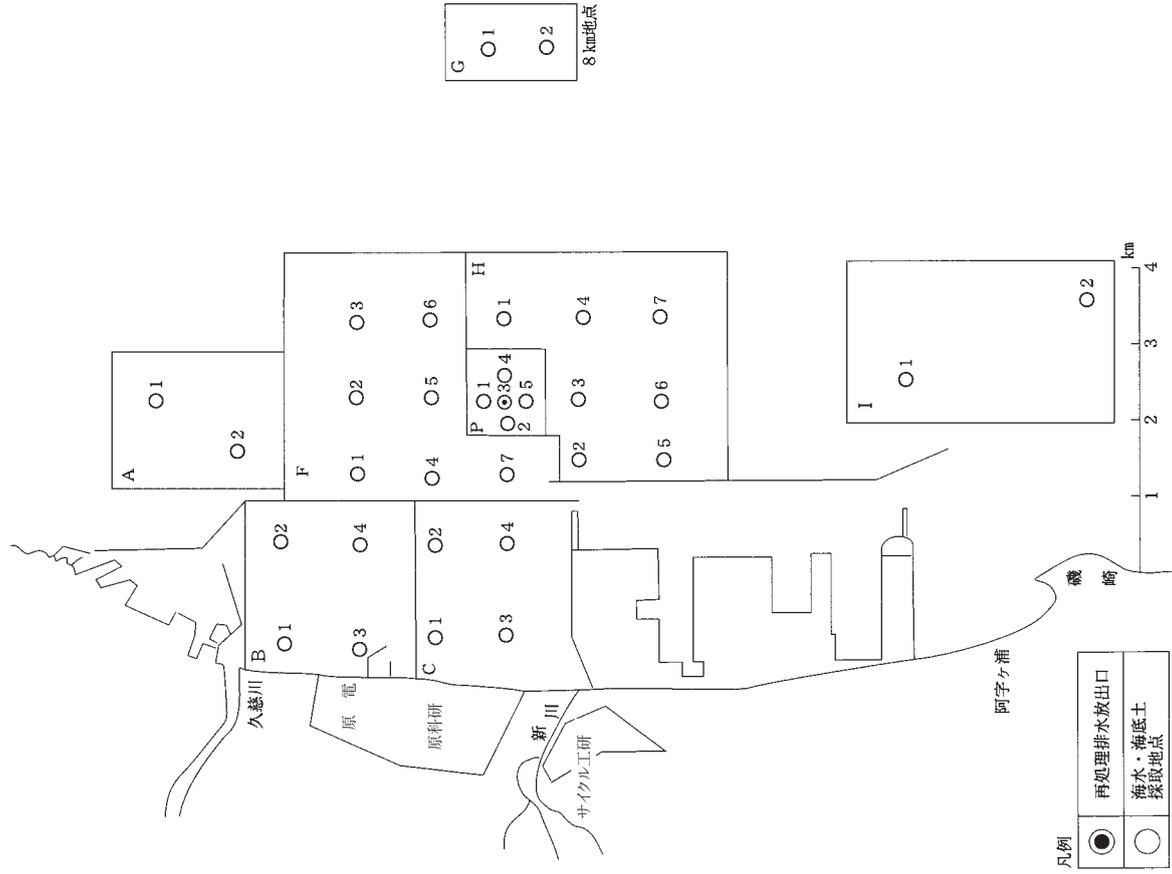
海底土中のPu濃度の経年変化 (県測定分)



海水・海底土採取地点（大洗地区）



海水・海底土採取地点（東海地区）



1-7 排水口近辺土砂中の放射性核種分析結果

測定者	排水溝	採取 月日	分 析 値 (Bq/kg・乾)							
			⁵⁴ Mn	⁵⁸ Co	⁶⁰ Co	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs [¹³⁴ Cs]	¹⁵² Eu	¹⁵⁴ Eu	U
原子力機構 原 科 研	第 (注2) 1	7.4	/	/	×	/	4.7 [2.8]	/	/	/
	第 2	7.4	/	/	×	/	3.9 [2.3]	/	/	/
	第 (注2) 3	7.4	/	/	×	/	3.1 [1.8]	/	/	/
原子力機構 大	原子力機構大洗	7.9	/	/	×	/	4.0 [2.5]	/	/	/
原 電	東 海 発 電 所	7.19	/	/	×	×	3.3 [2.0]	×	×	/
	東 海 第 二 発 電 所 (注2)	7.19	×	×	×	/	2.7 [1.2]	/	/	/
J C O	JCO・三菱原燃・ 原 燃 工 ・ 積 水 メ デ ィ カ ル 共 同 排 水 溝	7.3	/	/	/	/	/	/	/	×

(注1) ¹³⁷Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響及び過去の核実験等に起因するフォールアウトの影響による。

なお、¹³⁴Csは、福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響による。

検出された¹³⁴Csは [] に記載。

(注2) 原子力機構原科研の第1, 第3排水溝及び東海第二発電所排水溝：¹³⁷Csは報告核種ではないが検出されたため記載。

2 敷地内における測定結果

2-1 空間 γ 線量測定結果

2-1-1 積算線量測定結果

測定者	評価対象	平常の変動幅の上限
施設者	6ヶ月積算値	下表の各地点の値

測定者	測定地点	測定期間	測定値 (mGy)		平常の変動幅 (上限) (mGy/6ヶ月)	測定方法
			3ヶ月	計		
原子力機構 原 科 研	MS-1	3.22 ~ 6.21(91)	0.64	1.2	0.19	蛍光ガラス 線量計
		6.21 ~ 9.20(91)	0.59			

(注1) 測定値は福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響を含み、宇宙線成分及びTLD・蛍光ガラス線量計の自己汚染の寄与分を除く。

(注2) 福島第一原子力発電所事故の影響により、樹木等が多く存在している場所では、積算線量が高くなる傾向にある。

参考 1 原子力機構再処理施設排水環境影響詳細調査結果

1. 調査目的

再処理施設低レベル廃液の海洋放出に伴う放出口周辺海域における放射能水準の変動を詳細に把握するため、放出口を中心とした一定海域について海水の放射性物質濃度の調査を行う。

2. 調査方法

放出口周辺、東西 3 km、南北10kmの海域において表層30地点で採水し、全 β 放射能（30地点）、トリチウム（30地点）、 ^{137}Cs （7地点）について分析する。

本調査は、原則として毎月上旬に定期的を実施する他、排水中の全 β 放射能濃度が、 $6.11\text{Bq}/\text{cm}^3$ を超えた場合に実施する。

3. 調査結果

当期の調査は、7月3日、8月6日及び9月4日に実施した。

その結果、上記海域の海水中放射性物質濃度の平均値は、全 β 放射能について $0.040\text{Bq}/\text{L}$ 、トリチウムについて検出限界値（ $40\text{Bq}/\text{L}$ ）未滿、 ^{137}Cs について $0.031\text{Bq}/\text{L}$ であった。なお、放出排水の全 β 放射能濃度が、 $6.11\text{Bq}/\text{cm}^3$ を超えることはなかった。

なお、福島第一原子力発電所事故の放射性物質放出の影響により、全 β 放射能及び ^{137}Cs が検出された。

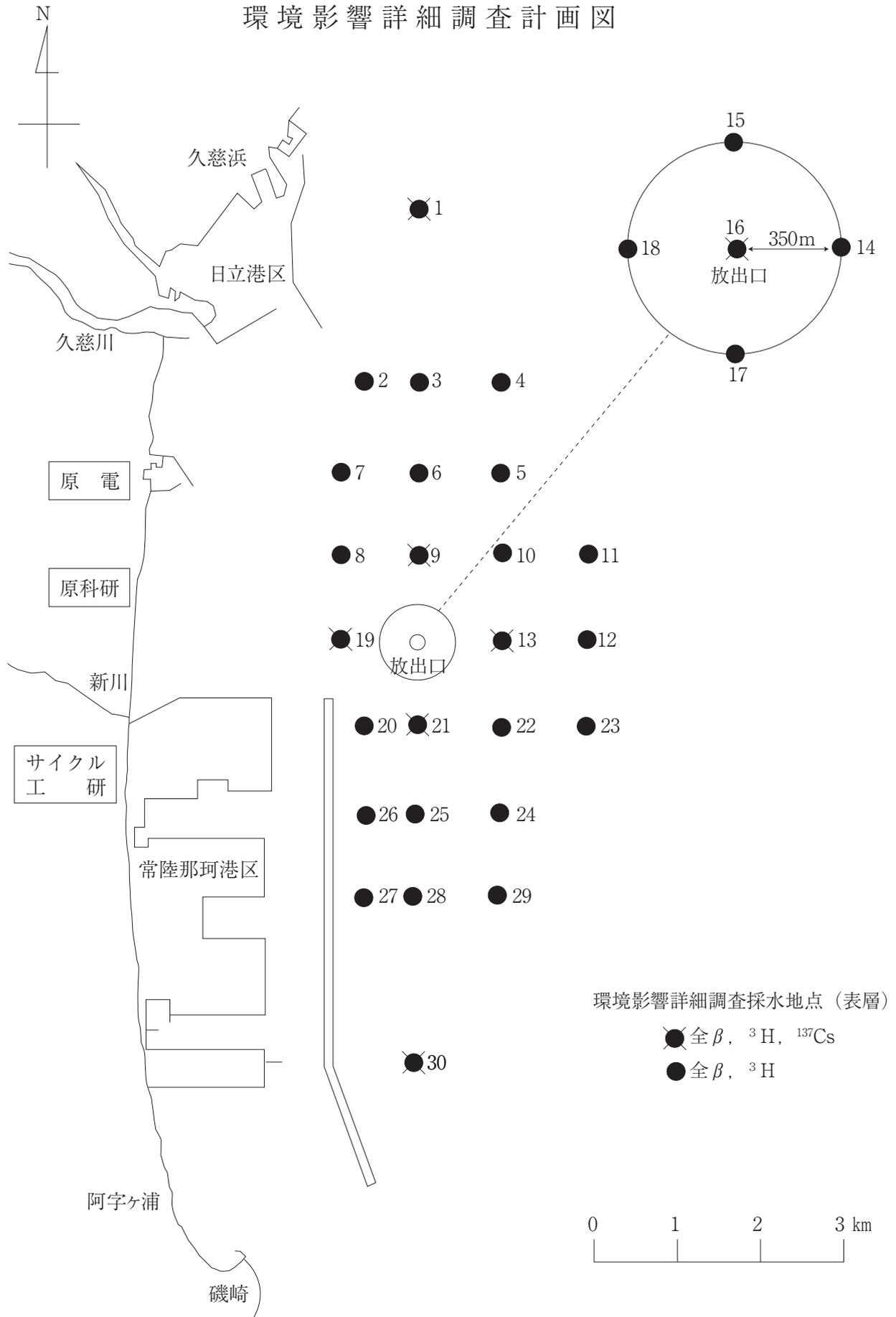
採水地点別濃度 (3ヶ月平均値)

採水地点	全β放射能	トリチウム	¹³⁷ Cs
	(Bq/L)	(Bq/L)	(Bq/L)
1	0.041	×	0.036
2	0.041	×	
3	0.041	×	
4	0.041	×	
5	0.042	×	
6	×	×	
7	0.042	×	
8	×	×	
9	×	×	0.030
10	×	×	
11	×	×	
12	×	×	
13	×	×	0.030
19	×	×	0.032
20	×	×	
21	×	×	0.030
22	×	×	
23	×	×	
24	×	×	
25	×	×	
26	×	×	
27	×	×	
28	×	×	
29	×	×	
30	×	×	0.032
放出点	0.040	×	0.030

注1. 検出限界値：全β放射能 0.04 Bq/L
 トリチウム 40 Bq/L

2. 放出点：放出口周辺5地点(14~18)の平均値

環境影響詳細調査計画図



参考2 主要施設運転状況

事業所名	施設名	7月	8月	9月
(注1) 原子力機構 原科研	J R R - 2	残存施設の維持管理		
	J R R - 3	施設定期検査		
(注2) 原子力機構 サイクル工研	再処理施設	施設定期検査		
(注3) 原子力機構 大洗	J M T R	施設定期検査		
	H T T R	施設定期検査		
	高速実験炉 「常陽」	施設定期検査		
(注4) 原電	東海発電所	廃止措置		
	東海第二発電所	第25回定期検査		

- (注1) 原子力機構原科研
 J R R - 2 : 平成8年12月19日に共同利用運転を終了し解体工事に着手。原子炉本体を密封するとともに周辺機器の撤去を終了し、平成16年4月より残存施設の維持管理中。
 J R R - 3 : 施設定期検査(平成22年11月20日から受検)
- (注2) 原子力機構サイクル工研
 再処理施設: 施設定期検査(平成19年7月30日から受検)
- (注3) 原子力機構大洗
 J M T R : 施設定期検査(平成18年9月1日から受検)
 H T T R : 施設定期検査(平成23年2月1日から受検)
 高速実験炉「常陽」: 施設定期検査(平成19年5月15日から受検)
- (注4) 原電
 東海発電所: 平成10年3月31日 発電(運転)停止
 平成13年12月4日 廃止措置着手
 東海第二発電所: 平成23年5月21日 第25回定期検査開始

再処理施設処理状況（せん断処理について記載）

処 理 期 間	対 象 発 電 所 名	炉 型 式 (PWR, BWR又はATR)	処 理 量 (T)	平 均 燃 焼 度 (MWD/T)	冷 却 日 数 (年)
計					

別表1 環境試料の核種濃度検出限界

項目	単位	³ H	¹⁴ C	⁵⁴ Mn	⁵⁸ Co	⁶⁰ Co	⁹⁰ Sr	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³¹ I	¹³⁷ Cs	¹⁴⁴ Ce	¹⁵² Eu	¹⁵⁴ Eu	U	Pu
塵埃	mBq/m ³			0.1		0.1		0.15	0.1	1		0.1	1				0.00015
降下塵	Bq/m ²			0.4		0.4	0.15	0.7	0.4	4		0.4	4				
牛乳	Bq/L						0.04				0.2	0.4					
野菜	Bq/kg・生						0.04				0.4	0.4					
精米	Bq/kg・生		2				0.04					0.4					
陸土	Bq/kg・乾			1		1				10		1	10				
陸水	Bq/L	20		0.008		0.008				0.02		0.004	0.02			0.1	
海水	Bq/L	20		0.008		0.008	0.004	0.04	0.02	0.02		0.004	0.02				
海底土	Bq/kg・乾			1		1	0.4	2	0.9	6		0.4	6				0.04
海産物	Bq/kg・生			0.2		0.2	0.04	0.4	0.2	0.8		0.2	0.8				0.002
排水口 近辺土 砂	Bq/kg・乾			1	1	1	0.2					1		5	3	20	0.04

別表2 排水中の全 β ・全 γ 検出限界

(1) 全 β 検出限界

測定項目	区分	単位	検出限界	備考
排水	淡水	Bq/cm ³	2×10 ⁻²	再処理
			2×10 ⁻⁴	その他

(2) 全 γ 検出限界

排水溝名	単位	検出限界
原子力機構原科研(第2)	Bq/cm ³	2×10 ⁻²
原子力機構サイクル工研(再処理)		2×10 ⁻¹
原子力機構大洗		6×10 ⁻²
原電(東海第二)		1×10 ⁻²

別表3 排気の不検出分放出量算出方法

事業所名	施設名		核種等	算出方法
原子力機構原科研	J	R R - 2	^3H	$Q \times DL$
	J	R R - 3	希ガス	〃
			^3H	〃
	J	R R - 4	希ガス	〃
	N	S R R	〃	〃
			^{131}I	〃
	燃料試験施設		希ガス	〃
			^{131}I	〃
燃料サイクル安全工学研究施設 (NUCEF)		希ガス	〃	
		^{131}I	〃	
原子力機構 サイクル工研	プルトニウム燃料第一，第二 第三開発施設，プルトニウム 廃棄物処理開発施設		$\alpha(\text{Pu})$	〃
	再 処 理 施 設	主排気筒	希ガス	〃
			^3H	〃
			^{14}C	〃
			^{131}I	〃
			^{129}I	〃
		第一付属排気筒	希ガス	〃
			^3H	〃
			^{14}C	〃
			^{131}I	〃
			^{129}I	〃
	第二付属排気筒	^{85}Kr	〃	
		^3H	〃	
		^{14}C	〃	
		^{131}I	〃	
		^{129}I	〃	
	高レベル放射性物質研究施設 (CPF)		希ガス	〃
			^3H	〃
			^{131}I	〃

事業所名	施設名	核種等	算出方法
原子力機構大洗	J M T R	希ガス	Q × DL
	H T T R	希ガス	〃
		¹³¹ I	〃
		³ H	〃
	照射燃料集合体試験施設 (FMF)	希ガス	Q (ピンパンクチャー時) × DL
		¹³¹ I	Q × DL
	高速実験炉「常陽」	希ガス	〃
¹³¹ I		〃	
原子力機構那珂	J T - 60	³ H	(中性子発生量)
原 電	東海発電所	⁶⁰ Co	Q × DL
		¹³⁷ Cs	〃
	東海第二発電所	希ガス	〃
		¹³¹ I	〃
住友鋳山	技術センター	U	〃
J C O	第1管理棟	〃	〃
	第2管理棟	〃	〃
	固体廃棄物処理棟	〃	〃
	第3管理棟	〃	〃
三菱原燃	転換工場	〃	〃
	成形工場	〃	〃
	第1廃棄物処理所	〃	〃
	第2廃棄物処理所	〃	〃
	燃料加工試験棟	〃	〃
N D C	照射後試験棟	希ガス	〃
		¹³¹ I	〃
	化学分析棟	〃	〃
		β	〃
	ウラン棟	U	〃
	燃料試験棟	〃	〃
材料試験棟	β	〃	
積水メディカル	集合排気棟	³ H	Q (開放系での取扱い時間における排気量) × DL + (実験動物投与放射エネルギー) × (呼吸中排泄割合)
		¹⁴ C	
	第4棟排気棟	³ H	
		¹⁴ C	

事業所名	施設名	核種等	算出方法
東 大	原子炉棟	希ガス	(積算出力)×(放出割合)
	ライナック棟	$^{13}\text{N}+^{15}\text{O}$	〃
東 北 大	ホットラボ棟	β	$Q \times DL$
日 本 核 燃	照射後試験施設	希ガス	〃
核管センター	開発棟	α (Pu,U)	〃
	新分析棟	〃	〃
原 燃 工	加工工場	U	〃
	廃棄物処理棟	〃	〃
	HTR燃料製造施設	〃	〃
日 揮	第2研究棟	β	〃
三菱マテリアル	開発試験第I棟	U	〃
	開発試験第II棟	〃	〃
	開発試験第IV棟	β	〃

注) Q：測定箇所における排気量

DL：検出限界

別表4 排水の不検出分放出量算出方法

事業所名	施設名	核種等	算出方法
原子力機構原科研	第 1	^{60}Co	$Q \times DL$
	第 2	^3H	〃
		^{14}C	〃
		^{60}Co	〃
		^{137}Cs	〃
	第 3	^{60}Co	〃
原子力機構 サイクル工研	第 1	全 β	〃
	第 2	Pu	〃
		U	〃
	再処理施設	^3H	〃
		^{89}Sr	〃
		^{90}Sr	〃
		^{95}Zr	〃
		^{95}Nb	〃
		^{103}Ru	〃
		$^{106}\text{Ru} - ^{106}\text{Rh}$	〃
		^{129}I	〃
		^{131}I	〃
		^{134}Cs	〃
		^{137}Cs	〃
		$^{144}\text{Ce} - ^{144}\text{Pr}$	〃
	^{141}Ce	〃	
Pu	〃		
全 β	〃		
原子力機構大洗	北 地 区	^3H	〃
		^{60}Co	〃
		^{137}Cs	〃
	南 地 区	^{60}Co	〃
		^{137}Cs	〃
	原子力機構那珂	貯 水 槽	^3H , 全 β
原 電	東 海 発 電 所	^{60}Co	〃
		^{137}Cs	〃
		^{152}Eu	〃
		^{154}Eu	〃

事業所名	施設名	核種等	算出方法
原 電	東 海 第 二 発 電 所	^3H	$Q \times DL$
		^{54}Mn	〃
		^{58}Co	〃
		^{60}Co	〃
		^{89}Sr	〃
		^{90}Sr	〃
J C O	廃 水 ポ ン ド	U	〃
		Th, Pa	〃
三 菱 原 燃	排 水 ポ ン ド	U	〃
		Th, Pa	〃
	排 水 貯 槽 (燃 料 加 工 試 験 棟)	U	〃
		Th, Pa	〃
N D C	排 水 貯 槽	^{58}Co	〃
		^{60}Co	〃
		^{137}Cs	〃
		U	〃
原 燃 工	排 水 ポ ン ド	U	〃
		Th, Pa	〃
三 菱 マ テ リ ア ル	排 水 貯 槽	U	〃
		Th, Pa	〃
積 水 メ デ ィ カ ル	調 整 槽	^3H	〃
		^{14}C	〃
住 友 鉦 山	屋 外 排 水 槽	U	〃
		Th, Pa	〃

(注) Q：測定箇所における排水量
DL：検出限界

<用語・記号等の解説>

1 ×

測定データの全てが検出限界未満の濃度

2 -

欠測値

3 休止施設等

排気・排水口から放射性物質を含む排気又は排水の放出が全くない月は、最高濃度、平均濃度の欄は空欄（“ ”）に、放出量は“0”（ゼロ）。

4 /（スラント）

(1) 測定対象外

(2) 「その他検出された核種」が検出されない月及び3ヶ月平均濃度

5 測定結果の表記法

測定結果は原則として2桁とする。

放出源情報の測定結果は、原則として1位及び少数1位の2数字と10のべき数とする。

6 最高濃度（最大、最高値）

(1) 連続測定の場合

ア 空間線量（MS，MP）

「最大」は1時間値の最高値

イ 排気（希ガス等）

1日値（24時間平均値）の最高濃度

ウ 排水（全 γ ）

1時間値の最高濃度

(2) 連続採取，定期的測定の場合

排気（全 β ， ^3H ， ^{131}I ，U，Pu等），排水（全 β ）は測定値の最高濃度

7 平均濃度（平均）

(1) 連続測定の場合

ア 空間線量（MS，MP）

1時間値の単純平均値

イ 排気（希ガス等）

月平均値は1日値（24時間平均値）に排気量で重みを付けた加重平均値

ウ 排水（全 γ ）

1時間値の単純月間平均値

(2) 連続採取，定期的な測定の場合

排気（全 β ， ^3H ， ^{131}I ，U，Pu等），排水（全 β ）は測定値に排気，排水量で重みを付けた加重平均値

(3) バッチ測定の場合

排水（核種分析）の月平均値は測定値に排水量で重みを付けた加重平均値

- (4) 測定値の一部に検出限界未満がある場合、推定濃度（ある根拠によって推定した値又は検出限界値、ただし、排水（全 γ ）は“0”）排気、排水量で重みを付けた加重平均値
- (5) 排気、排水口から放射性物質を含む排気又は排水の放出が全くない月は、最高濃度、平均濃度の欄は空欄（“ ”）に、放出量は“0”（ゼロ）。

8 3ヶ月平均濃度（平均）

- (1) 放出源情報については3ヶ月加重平均値とし（施設者に限る）、その他については単純平均した値。
- (2) 検出限界未満“×”は推定濃度又は検出限界（環境項目）として平均。ただし、希釈効果がある場合は、希釈効果を考慮した値として平均し、希釈倍率を記載。

また、3ヶ月すべてが“×”の場合には3ヶ月平均値も“×”

- (3) 排気・排水が1ヶ月間放出が全くないときは、この月も値は0として計算。
- (4) 3ヶ月のうち1ヶ月でも欠測値“-”があった場合には平均値を求めず。

9 放出量

- (1) 放出量は測定された量（実測分）と検出限界未満で推定した量（不検出分）に分けて記載。

(2) 不検出分

測定した値が検出限界未満の場合には「推定濃度」（ある根拠によって推定した値又は検出限界値）と排気・排出量より求めた値

- (3) “微”：不検出分として求めた値が次に定める場合

項 目	核 種 等	微と表示する限度
排気・排水	全 β 、Pu	0.004MBq/月未満
	上記以外	0.04MBq/月未満

(4) 放出量の3ヶ月総計

- ① 月毎の放出量の和を実測分、不検出分別に記載
- ② 不検出分に“微”がある場合、“微”は加算しない。ただし、3ヶ月全てが“微”又は“微”と0のみ場合は“微”。

10 放射性核種分析

排気・排水又は環境試料中に含まれる放射性核種の種類と量（濃度）を調べること。

本報告では、ゲルマニウム半導体検出器を用いた機器分析によってセシウム-137・ヨウ素-131などを、放射化学分析によってストロンチウム-90・プルトニウムを、液体シンチレーション測定装置を用いた分析によってトリチウム・炭素-14などをそれぞれ測定している。

11 主要放出核種

原子力施設から放出される放射性核種は、施設の種類・使用方法によって決まるので、その核種を把握しておけば放出の概略や異常の有無が判断できるとされる放出量が多い核種。

12 その他検出された核種

主要放出核種以外の検出された核種（検出された場合は報告することになっている）。

放出源における測定結果の記載については次のとおり。

- (1) 検出された月のみ記載。検出されない月又は3ヶ月平均濃度は“/”（スラント）を記載。
- (2) 測定値の一部に検出限界未満がある場合の平均濃度は、不検出分を0とした加重平均値。

13 検出限界（DL）

排気，排水の測定箇所における検出限界。

なお，最高濃度及び平均濃度はいずれも放出口における濃度に換算しているため，これらの値を下回る場合もある。

14 ne

測定結果が全て検出限界未満のため，線量評価せず。

15 平常の変動幅

- (1) 主旨……………平常時におけるモニタリングによって得られたデータは種々の要因で変動するが，その変動の幅を用いて，調査検討を要するデータを客観的に見出す。
- (2) 算出方法……………過去のデータをもとにバックグラウンド放射能（自然放射能及び過去の核実験等によるもの）の平均値に標準偏差の3倍値（ 3σ ）を加減して上限と下限を定める。なお，過去のデータが少なく，このような統計処理が適当でない場合は，最大値と最小値をもって上下限とする。
MP，MSの空間線量率については，同様に東海，大洗地区ごとに，平常の変動幅の上限を統計的に求めた後，評価の分かりやすさなどの点から，統一的に100nGy/時としている。
- (3) 調査検討を要するデータの選択と措置……………平常の変動幅の上限を超えたものについて，試料採取，処理，分析，測定等原因の詳細な調査検討を行う。
- (4) 見直し……………従来の傾向として，バックグラウンドレベルは経年的に変動が見られるので，平常の変動幅は適宜見直しを行う。

<本報告書の解説>

環境放射線の監視の目的は、東海・大洗地区にある原子力施設周辺の環境保全を図るとともに、公衆の安全と健康を確保するため、原子力事業所の平常稼動時において、

- (1) 周辺公衆の線量を推定評価し、線量限度を十分に下回っているかどうかを確認する。(線量推定評価)
- (2) 環境における放射線と放射性物質の水準及び分布の長期的変動を把握する。(長期的変動調査)
- (3) 放射性物質の予期しない放出による環境への影響を早期に把握する。(短期的変動調査)

ことを目的とし、「茨城県環境放射線監視計画」により、測定地点・頻度・測定者等が定められている。(表1参照)

なお、本計画は施設の増設や国のモニタリング指針等の改正に伴い、適宜見直しを行っている。

この監視計画に基づき県・国及び各原子力事業所が測定した結果を取りまとめたものが、本報告書である。以下に、各測定項目の解説を示す。

I 短期的変動調査（3ヶ月毎）

1 環境における測定結果

原子力施設の敷地外での測定結果を示す。(なお、敷地内であっても周辺監視区域境界は「環境における測定結果」として取り扱う。以下同様。)

1-1 空間γ線量率測定結果

1-1-1 モニタリングステーション

固定放射線観測局で24時間連続測定している測定結果から、その月の1時間平均値及び最高値を示す。

※ 放射線測定装置と気象観測装置等が設置されているのがモニタリングステーション、放射線測定装置のみがモニタリングポスト。

1-1-2 モニタリングポスト

モニタリングステーションと同じ。

1-2 大気中放射能測定結果

1-2-1 大気塵埃中の放射性核種分析結果

集塵器で吸引した大気中の塵埃中に含まれる放射性物質の核種分析結果を示す。

1-2-2 降下塵中の放射性核種分析結果

大型水盤に降下した雨水や塵等に含まれる放射性物質の核種分析結果を示す。

1-3 農畜産物中の放射能測定結果

1-3-1 牛乳（原乳）中の放射性核種分析結果

乳牛から採乳した原乳中の¹³¹Iの分析結果を示す。

1-4 海洋における放射能測定結果

1-4-1 海水中の放射性核種分析結果

海水に含まれる³Hの分析結果を示す。

2 敷地内における測定結果

原子力施設の敷地内での測定結果を示す。以下同様。

2-1 空間 γ 線量率測定結果

2-1-1 モニタリングステーション

24時間連続測定している測定結果から、その月の1時間平均値及び最高値を示す。

2-1-2 モニタリングポスト

モニタリングステーションと同じ。

2-2 大気中放射能測定結果

2-2-1 大気塵埃中の放射性核種分析結果

吸塵器で吸引した大気中の塵埃に付着した放射性物質の核種分析結果を示す。

3 放出源における測定結果

原子力事業所の各施設から放出される排気・排水についての測定結果を示す。

3-1 排 気

3-1-1 排気中の放射性核種分析結果

各原子力事業所の主な施設から放出される排気中の主要放出核種の核種分析結果を示す。

3-1-1' 排気中の放射性核種分析結果（その他検出された核種）

主要放出核種以外で検出された核種について、その分析結果を示す。

3-1-2 排気中の全 β 放射能測定結果

各原子力事業所の施設から放出される排気中の全 β 測定結果を示す。

3-1-2' 排気中の全 β 放射能測定結果

各原子力事業所の主要施設から放出される排気中の全 β 測定結果を示す。

3-1-3 排気中の全 α 放射能測定結果

各原子力事業所の施設から放出される排気中の全 α 測定結果を示す。

3-2 排 水

3-2-1 排水中の放射性核種分析結果

各原子力事業所の排水溝から放出される排水中の主要放出核種の核種分析結果を示す。

3-2-1' 排水中の放射性核種分析結果

県及び水戸原子力事務所が測定した原子力事業所の主な排水溝から放出される排水中の核種分析結果を示す。

3-2-1'' 排水中の放射性核種分析結果（その他検出された核種）

主要放出核種以外で検出された核種について、その分析結果を示す。

3-2-2 排水中の全 β 放射能測定結果

各原子力事業所の排水溝から放出される排水中の全 β 測定結果を示す。

3-2-2' 排水中の全 β 放射能測定結果

県及び水戸原子力事務所が測定した主な排水溝から放出される排水中の全 β 放射能測定結果を示す。

3-2-3 再処理施設排水中の放射性核種分析結果

原子力機構サイクル工研再処理施設保安規定で定められている核種についての核種分析結果を示す。

3-2-4 再処理施設排水中の全 β 放射能測定結果

原子力機構サイクル工研再処理排水の全 β 測定結果を示す。

3-2-5 排水中の全 γ 放射能連続測定結果

県が連続測定した主要排水溝の排水中の全ガンマ測定結果を示す。

II 長期的変動調査結果（6ヶ月毎）

1 環境における測定結果

1-1 空間 γ 線量測定結果

1-1-1 サーベイ結果

定点で定期的に測定した線量率の測定結果を示す。

1-1-2 積算線量測定結果

3ヶ月間連続して測定した線量の2回分（半年分）の測定結果を示す。

1-2 漁網表面吸収線量率の測定結果

船で一定期間曳航した漁網のガンマ及びベータの測定結果を示す。

1-3 大気中放射能測定結果

1-3-1 降下塵中の放射性核種分析結果

大型水盤中に落下した雨水や塵等に含まれる放射性物質の核種分析結果を示す。

1-4 陸土中の放射能測定結果

1-4-1 土壌中の放射性核種分析結果

畑土等の土壌に含まれる放射性物質の核種分析結果を示す。

1-4-2 河底土中の放射性核種分析結果

河川の底土に含まれる放射性物質の核種分析結果を示す。

1-4-3 海岸砂中の放射性核種分析結果

海岸砂に含まれる放射性物質の核種分析結果を示す。

1-5 陸水中の放射能測定結果

1-5-1 河川水及び湖沼水中の放射性核種分析結果

河川水や湖沼水中に含まれる放射性物質の核種分析結果を示す。

1-5-2 飲料水中の放射性核種分析結果

水道水や井戸水中に含まれる放射性物質の核種分析結果を示す。

1-6 海洋における放射能測定結果

1-6-1 海水中の放射性核種分析結果

海水中に含まれる放射性物質の核種分析結果を示す。

1-6-2 海底土中の放射性核種分析結果

海底土中に含まれる放射性物質の核種分析結果を示す。

1-7 排水口近辺土砂中の放射性核種分析結果

各原子力事業所の排水口近辺の土砂中に含まれる主要放出核種の測定結果を示す。

2 敷地内における測定結果

2-1 空間 γ 線量測定結果

2-1-1 積算線量測定結果

3ヶ月間連続して測定した線量の2回分（半年分）の測定結果を示す。

Ⅲ 線量の推定結果（1年間）

1 積算線量による外部被ばく実効線量

1年間の各地点の積算線量値を地域毎に区分し、年間の外部被ばく実効線量を示す。

2 環境試料中の放射性核種分析結果に基づく成人の預託実効線量

牛乳・葉菜・米・魚介類等の核種分析結果から、成人の預託実効線量を示す。

3 放出源情報に基づく実効線量

3-1 放射性気体廃棄物による実効線量

原子力機構や原電等4事業所における主要施設から放出される年間の総排気量から外部被ばく実効線量並びに内部被ばく預託実効線量を示す。

3-2 放射性液体廃棄物による実効線量

原子力機構や原電等5事業所における主要排水溝から放出される年間の総排水量から内部被ばくによる預託実効線量並びに外部被ばくによる実効線量を示す。

表1 調査目的別測定項目及び頻度

測定項目	測定頻度	対象核種等
1. 線量評価		
積算線量	年4回	空間 γ
原乳	年2回	^{90}Sr , ^{131}I , γ 放射体
葉菜	〃	^{90}Sr , ^{131}I , γ 放射体〈収穫時：ハウレン草, ハクサイ, キャベツ〉
精米	年1回	^{90}Sr , ^{14}C (一部), γ 放射体
飲料水	年2回	^3H
魚類	2種年2回	^{90}Sr , Pu (一部), γ 放射体〈収穫時：シラス及びヒラメ, カレイ, イシモチ, チダイ, スズキ〉
貝類	〃	^{90}Sr , Pu (一部), γ 放射体〈収穫時：アワビ, ハマガリ, コタマ貝, 赤貝, ウバ貝〉
海藻類	〃	^{90}Sr , Pu (一部), γ 放射体〈収穫時：ヒジキ, ワカメ, アラメ〉
排気	連続	主要放出核種 (施設者)
排水	〃	主要放出核種 (施設者)
2. 短期的変動調査		
空間線量率(ステーション)	連続	空間 γ
空間線量率(ポスト)	〃	空間 γ
塵埃	連続・年4回	Pu (一部施設者), γ 放射体 (県, 施設者)
降下塵	毎月	γ 放射体
原乳	年4回	^{131}I
海水	〃	^3H , 〈水温, 塩素量〉
排気	連続	放出核種 (施設者), 全 β (施設者), 全 α (施設者)
排水	連続・毎月	放出核種・全 β (施設者, 県, 水戸事務所), 全 γ (県)
3. 長期的変動調査		
空間線量率(サーベイ)	年2回	空間 γ (県, 水戸事務所, 施設者)
積算線量	年4回	空間 γ
降下塵	毎月	γ 放射体
土壌	年2回	γ 放射体
河底土	〃	γ 放射体 (施設者)
海岸砂	〃	γ 放射体
河川水	〃	^3H , γ 放射体 (県, 水戸事務所, 施設者)
湖沼水	〃	^3H , γ 放射体 (施設者)
飲料水	〃	γ 放射体 (施設者), ^3H (積水メディカル), U (JCO, 三菱原燃, 原燃工)
海水	〃	^{90}Sr , γ 放射体
海底土	〃	^{90}Sr , γ 放射体, 一部 Pu
排水口近辺土砂	〃	主要放出核種
漁網	〃	β 線, γ 線〈共にサーベイメーター表示〉 (施設者)

- ※1. γ 放射体： ^{54}Mn , ^{60}Co , ^{95}Zr , ^{95}Nb , ^{106}Ru , ^{137}Cs , ^{144}Ce
 2. 海底土中の Pu 測定は、河口及び一部排水口付近の海域のみ。
 3. Pu : 239 , ^{240}Pu
 4. 対象核種等欄の () : 分担を示し、表示なしは県、施設者による。